

8  
|  
1  
日記  
(明治十三年十月～明治二十九年十月)

丁 数 正見出目録

八五	家族出生年月日	
八六	武夫学業仕官等ノ履歴	
九三	ゑき分第一一九国立銀行	筈一八七
	特別当座預ケ金勘定	貞一九〇
九七	〇第二七銀行種預ケ金勘定	
一〇〇	〇記事	
二〇一	〇公債証書 <small>(加筆)</small> 及株券 <small>(株消)</small>	
二〇二	〇 <small>(株消)</small> 駅通局貯金帳番号	
二〇六	〇明治二五年調査産	丁 数
		<small>(株消)</small> 三〇八
	収納米売払代調	三三三二
	反別村別表	一一三三
	同 早見表	一一三七
二二三	国許所有地：諸税納期表	二二二八
	収支差引表……………	二二三〇
	諸税増減比較表ノ一	二二三九
	同 上ノ二	全 上
二二三一	駅通局貯金出入調 <small>(ママ)</small> 武夫分	
三二八一九	…………… 小供等分	

二二三三 第一一九国立銀行預ケ金勘定(ママ)小供等、ゑき分一八七  
以下

二二三七 第二七国立銀行預ケ金勘定

二二九五 〇出入総勘定表…………… 国許出入勘定 二二九五  
事務所出入勘定 二二九七

二〇三 蔵書目録…………… 洋書 三〇三  
和書 三〇七

三三〇 所得稅届書式及届高表 三一二  
三五一

(0) (朱書) 第八三枚改正目録ヲ見ヨ  
見出シ目録

丁 数  
八五ヨリ 家族出生年月日  
八六ヨリ 武夫家業及仕官履歴  
一〇〇ヨリ 記事

二〇一ヨリ 公債証書、株券、地券、貯金通帳ノ種類番号  
(株消) 三五五ヨリ 預ケ金仕訳  
(加筆・朱書) 二二三

二五ヨリ 金錢(株消)出(加筆)入(加筆) 訳  
三〇一ヨリ (株消) 金錢出(加筆) 訳 (加筆) 蔵書目録

三五一ヨリ 所得稅届

Edmond. H. Bennet [LAW OF]  
中略…… CONTRACTS] の筆写部分

(83)

丁数	(見出し目録)
八五ヨリ	家族出生年月日
八六	武夫ノ家業及仕官履歴
一〇〇	記事
二(五〇)	公債証書 [株] 株券、預ケ金通帳 [及地券]
二(五〇)	ノ種類番号
二五〇	金錢 [出] 入覚書
三〇一	同 出 同
三五一	所得税ニ関スル書式其他

丁数	改見出目録
八五	家族出生年月日
八六	武夫学業仕官等ノ履歴
一〇〇	記事
一九三	ゑき分第一一九国立銀行特別当座預ケ金勘定

一九七	第二七銀行乙種預ケ金勘定
二〇一	公債証書 [及株券]
二〇三	株券及 駅通局貯金帳番号
二〇七	明治二(一) (五) 年調資産
二二二	国許所有地
二二二	収納米売払代調
二二二	反別村別表
二二二	同 早見表
二二二	諸税納期表
二二二	收支差引表
二二二	諸税増減比較表ノ一
二二二	同 上ノ二
二二二	駅通局貯金出入調 [武夫分]
二二二	……… 子供等分
二二二	第一一九国立銀行預ケ金勘定
二二二	……… 小供等、ゑき分 [……… 一八七以下]

二二二	……… 子供等分
二二二	……… 小供等、ゑき分 [……… 一八七以下]
二二二	第一一九国立銀行預ケ金勘定
二二二	……… 子供等分
二二二	……… 小供等、ゑき分 [……… 一八七以下]

(84)

二三七	第二七国立銀行預ケ金勘定
二九五	出入総勘定表
三〇三	国許出入勘定 (朱書) 二九五
三三〇	事務所出入勘定 (朱書) 二九七
三五	蔵書目録 (朱書) 三〇三
	洋書 (朱書) 三〇七ヨリ
	和書 (朱書) 三〇七ヨリ
	所得税届書式及届高表

(85)

家族誕生年月日

同 廿二 己 (抹消) (加筆) 年四月七日	長男	香一郎
同 廿三 庚 寅年七月十日	四女	ミサホ
同 廿八 乙 未年一月一日 (実八十二年三十一日 夜十時頃)	五女	ツル
天保八 丁 酉年八月廿五日	母	八木橋 多代
安政二 乙 卯年九月一日 (朱書)	妹	菊池 恵機
同 六 己 (下札2) 未年七月四日 (明治二十年十一月) (高瀬四郎二嫁ス)	同	波
元治元 甲 子年十月十一日 (廿四年三月廿一日) (朱書) (同) (抹消) (朱書)	同	澄
明治十二 己 卯年十一月廿八日	姪	菊池 薫
同 十五 壬 午年十一月九日	同上長男 甥	啓磨

(下札1)

私親類同郡同郡八十六番地主族

菊池武夫妻茨城県下総国結城郡

結城町七百八番屋敷士族柏井登 南岩手郡加賀野郡六拾二番地

妹いち文久元酉年七月十一日生

縁組貰受申候武夫儀東京寄留  
中二付此段私台御届申候

士族

山本 縁 印

明治十四年十月八日

(官様)  
印

(下札2)

陸中国南岩手郡加賀野村八十六番地

士族

父啓作亡長男

(加筆)  
印 菊池 長 閑

文政十年十二月十二日出生

母

当県士族鴨沢恒順大伯母

き せ

寛政十二年六月十二日出生

妻

同県士族八木橋茂昭姉

た よ

天保八年八月廿五日出生

長男

東京府寄留  
司法省御雇民事局詰

菊池 武 夫

嘉永七年七月十八日出生

次男

当県士族中原政直弟

菊池 政 国

嘉永六年三月廿日出生

長女

ゑ き

安政二年九月一日出生

次女

な み

安政五年七月四日出生

四女

す み

文久四年十月十一日出生

明治十九年丙戌二月廿六日 浜 次男政国長女

薫

明治十二年十一月廿八日出生

武夫学業并仕官履歴(号数ハ辞令書ノ番号)

代言人試験委員ヲ命シ候事

同 十四年二月二日

司法省

第一号

岩手県士族菊池長閑長男

菊池 武夫

二十一年

法学為修業米國留学可致候事

但留学年数滿五ヶ年トス米國到着ノ日ヨリ年限中学位

貸渡候事

明治八年七月十日

文部大輔 田中不二磨

○

明治八年十月(抹消)(加筆)國マサチユセツツ州ボストン府

ボストン大学法学部へ入学

○

明治十年五月学業ヲ終ヒバチナラシ、オケ、ロリス法律学士ノ称号ヲ享ク

○

明治十三年十月廿一日英仏兩國ヲ經テ帰朝

第二号

姓 名

雇申付候事 但月俸百円給与

明治十三年十一月廿五日

司法省

第三号

雇 姓 名

民事局詰ヲ命シ候事

同 年 月 日

司法省

第四号

雇 姓 名

第五号

本年後期代言人試験委員ヲ命シ候事

同 年八月二日

司法省

第六号

第八局詰兼務ヲ命シ候事

同 十二月七日

司法省

第七号

東京大学雇兼勤申付候事

但手当一ヶ年金四百八十円給与候事

明治十四年十二月二十六日

東京大学

第八号

法学部講師可相勤事

同 年 月 日

東京大学

第九号

本年前期代言人試験委員ヲ命シ候事

同 十五年二月六日

司法省

雇 姓 名



第二一号 法学部生徒教導嘱託 姓名

法学部講師ノ任ヲ嘱シ候事

同 五月八日 東京大学

下級俸下賜

同 四月十四日 司法省

第二二号 官姓名

判事登用試験委員ヲ命シ候事

同 七月七日 司法卿 山田顕義

第二七号 官姓名

秘書官諸費トシテ一ヶ月金三拾五円給与ス

同 同 司法大臣伯爵 山田顕義

第二三号 官姓名

民事局詰ヲ命シ候事

同 十九年一月二十日 司法大臣伯爵 山田顕義

第二八号 官姓名

判事会同理事員ヲ命ス

同 同 十九日 官爵 山田顕義

第二四号 任司法大臣秘書官 姓名

任司法大臣秘書官

内閣総理大臣從三位勲一等伯爵伊藤博文宣

内閣書記官長從四位勲二等 田中光顯奉

第二九号 官姓名

民(採)事(採)法草按編纂委員ヲ命ス

同 同 廿二日 官爵 山田顕義

第三〇号 從六位 姓名

叙正六位

内閣総理大臣從三位勲二等伯爵伊藤博文宣

同 七月八日

第二五号 司法大臣秘書官從六位 姓名

叙(採)正(採)六位(採)任(採)官(採)二等

内閣総理大臣從三位勲一等伯爵伊藤博文宣

同 四月十日

第三(採)二(採)一(採)号 官姓名

判事登用試験委員ヲ命ス

同 八月十一日 官爵 山田顕義

第二六号 官姓名



第三二号

官制改革ノ際ヨリ引続異常勉勵候ニ付月俸半額下賜

同 十二月廿九日 官 爵 山田顕義

第三三号

檢察官会同理事員ヲ命ス

明治二十年三月廿三日 官 爵 山田顕義

第三四号

北海道及羽後国為巡視出張候ニ付随行ヲ命ス

同 八月二十日 官 爵 山田顕義

第三五号

司法省文官普通試験委員ヲ命ス

同 十一月廿五日 官 爵 山田

第三六号

中級俸下賜

同 十二月廿七日 司法省

第三七号

総務局文書課長兼務ヲ命ス

同 同

第三八号

明治廿一年代言出願人試験委員ヲ命ス

明治廿一年一月廿三日 官 爵 山田

第三九号

裁判官会同理事員ヲ命ス

同 三月二日 官 爵 山田

第四〇号

学位記

岩手県士族 正六位 姓 名

同 五月七日

文部大臣從二位勲一等子爵 森 有礼

第四一号

御用有之上州草津ニ出張ヲ命ス

同 七月五日 官 爵 山田

第四二号

自今秘書官諸費トシテ一ヶ月金六十円給与ス

明治廿一年七月廿七日 官 爵 山田

第四三号

法務局文書課長

官 学位 姓 名

彦根治安裁判所春照出張所ハ追テ開庁スヘキ議定ナルニ  
心付カス明治廿一年十月司法省令甲第一号治安裁判所出  
張所位置及管轄区域表中ニ掲載シ為ニ同出張所当分不開  
庁ノ告示ヲ要スルニ至ラシメタル段過失ニ付譴責ス

明治廿一年十一月廿日 官 爵 山田

明治廿二年

第四四号 官 学位 姓 名

明治廿二年代言出願人試験委員ヲ命ス  
明治廿二年七月一日 官 爵 山田

第四五号 官 学位 姓 名

現行法律規則調査委員ヲ命ス  
同 八月十七日 内閣

明治廿三年

第四六号 官 学位 姓 名

省令審査委員ヲ命ス  
明治廿三年一月十一日 官 爵 山田

第四七号 官 学位 姓 名

陞叙奏任官一等

同 三月十七日 官位勲爵山田宣

第四八号 官 学位 姓 名

下級俸下賜  
同 三月十七日 官 爵 山田(抹消) (司法省)

第(抹消)四九(加筆)号 官 学位 姓 名

(抹消)山田(加筆)司法大臣愛知県下出張并ニ広島控訴院巡視ニ付隨  
行ヲ命ス(92)

明治廿三年(抹消)四(加筆)三月廿七日 官 爵 山田

第(抹消)五〇(加筆)号 官 学位 姓 名

自今一箇月手当金五拾円ヲ給ス  
同 三月廿四日 官 爵 山田

第五(抹消)〇(加筆)号 官 学位 姓 名

明治廿三年代言出願人試験委員ヲ命ス  
同 六月三十日 官 爵 山田

第五二号 官 姓 名

御用有之岐阜県下へ出張ヲ命ス  
同 九月五日 官 爵 山田

第五三号 官 学位 姓 名

上級棒下賜

同 十二月十九日 司法省

明治二十四年

叙従四位

同 上 五月十二日

宮内大臣従二位勲一等子爵土方久元奉

(93) 明治二十四年ノ続キ

〔<sup>抹消</sup>第五四号〕 〔<sup>抹消</sup>官位学位〕 姓 名

○東京法学院長ニ選定セラル

〔<sup>抹消</sup>任〕司法省民事局長〕四月

第五八号 官 学位 姓 名

判事検事登用試験委員ヲ命ス

明治二十四年五月二十二日 官 爵 山田

第五四号 官位学位 姓 名

任司法省民事局長

明治二十四年五月六日

第五九号 官 学位 姓 名

御用有之横浜地方裁判所静岡地方裁判所浜松区裁判所へ

出張ヲ命ス

〔<sup>抹消</sup>明〕七月三日 〔<sup>抹消</sup>官〕官子爵 田中不二麿

第五五号 官位学位 姓 名

叙勅任官二等下級棒

同 上 官位勲等爵 山県有朋奉

第六〇号 官 学位 姓 名

依願免本官

八月七日 内閣

第五六号 官 学位 姓 名

銓考委員ヲ命ス

同 上 五月七日 官 爵 山田

第六一号 姓 名

第九百四十九号

代言ヲ免許シ此証ヲ授ク

〔<sup>司法</sup>省印〕九月一日

裏書 朱字

第五七号 位 学位 姓 名

期限

從明治二十四年九月

至同 二十五年八月

東京地方裁判所ニ於テ弁護士ノ登録ヲ受ク

五月一日

第六二号

位 学位 氏 名

貴族院令第一條第四項ニ依リ貴族院議員ニ任ス

十二月廿二日

内閣總理大臣從二位勲一等伯爵松方正義奉

第六<sup>(抹消)</sup>六<sup>(加筆)</sup>五<sup>(朱書)</sup>号

位 学位 氏 名

明治二十七年勅令第二十三号ノ旨ニ依リ大婚二十五年祝

典之章ヲ授与ス

明治二十七年三月九日

賞勳局總裁從二位勲二等侯爵 西園寺公望 ㊦

賞勳局副總裁從三位勲一等子爵 大給 恒 ㊦

明治二十五年

第六三号

姓 名

第一千百六十号

代言ヲ免許シ此証ヲ授ク

明治廿五年九月一日

裏書

期限

從明治廿五年九月至同廿六年八月

第六<sup>(抹消)</sup>五<sup>(加筆)</sup>六<sup>(朱書)</sup>号

位 学位 氏 名

法典調査会委員被仰付

明治廿七年三月三十一日

内 閣

第六<sup>(抹消)</sup>七<sup>(加筆)</sup>号

貴族院議員 位 学位 氏 名

第七回帝國議會召集ノ際勅精ニ付銀盃耆組ヲ賜フ

明治二十九年三月廿九日

賞勳局總裁正三位勲一等子爵 大給 恒 ㊦

明治廿六年<sup>癸巳</sup>

第六四号

位 学位 氏 名

法典調査会主査委員被仰付

………四月十三日

内 閣

第六八号

位 氏 名

法典調査会委員ノ職ヲ奉シ尽力不尠ニ付銀盃一組ヲ賜フ

明治三十一年六月廿九日

賞勳局總裁正三位勲一等子爵 大給 恒

第六九号

位 学位氏 名

法典調査会委員被免

〃 三五年三ノ三一

内閣

第七〇号

位 学位氏 名

明治二十九年六月三陸海嘯ノ際岩手青森両県下罹災者へ

金參百円救恤候段奇特ニ付為其賞木杯壹組下賜候事

〃 三五ノ六ノ四

賞勳局總裁正三位勲一等子爵 大給 恒

第七一号

氏 名

破産管財人ヲ命ス

(95) 明治三五ノ七ノ二八

司法省

〔以下(100)まで未記入〕

明治十六年(第一〇五枚目ニ続ク)

九日

午後七時新潟丸ニテぬち同伴横浜発ス岩手県令島惟

精モ同船ス 十一日 石巻着 十二日 川蒸気船広

通丸ニテ北上川ヲ溯リ狐禅寺村ニ上陸一ノ関佐々木

屋へ泊ル

十三日

中尊寺ヲ見物シテ午後七時盛岡ノ宅ニ着

八月

五日

祖母君ノ望ニ応シ予テヨリ新築中ノ新楼ニテ知人ヲ

饗応ス

六日

午前六時盛岡ヲ発シ午後七時一ノ関佐々木屋ニ泊ル

横田末次郎同伴ナリ 七日 金成駅ヨリ左ニ折レ若

柳石ノ森登米柳津飯野川鹿股ヲ経石巻松本庄治方止

宿 八日 大森村藤田ヲ訪フ 九日 朝八時発ノ小

蒸気船ニテ九時萩ノ浜鍵屋ニ休ミ偶マ北海道帰リノ

戸田文七ニ逢フ同人ハゑきノ乳母タリシ政ノ夫ナリ

四時新潟丸ニテ出帆

十日

夜九時横浜蓬萊屋ニ着十一時ノ氣車(マ)ニテ帰宅

(第一〇六枚目ニ続ク)

明治廿一年旧録ヨリ抜抄

明治十三年

十月

廿一日

早朝横浜港着船即日東京ニ来リ(採)旧主南部利恭公

父子ヲ西小川町二丁目ニ訪ヒ其好意ニテ借置呉タル

九段中坂仕出シ料理屋小林利兵衛事万年屋方ニ寓居

ス南部邸ニ奉公シ居タル妹波ニ面会シタリ

廿九日

友人濱尾新ニ招カレ晩食ノ饗応ヲ受タル所食後気分

悪シク帰寓ノ後傷胃熱発ス察スル所帰朝ノ途次英領

香港ニテ熱日ニ照サレ病根ヲ起セシナラン翌日ヨリ

佐藤ノ門人四戸太一ノ診察ヲ受ク同県人ナリ

十一月

一日

妹波ハ介抱ノ為メ万年屋ニ来寓ス

十七日

四戸太一ヲ謝シテ更ニ池田謙齊ノ診察ヲ受

廿五日

司法省雇ト為リタレト病全癒セサルカ故二十五日間

ノ暇ヲ乞フ

十二月

六日 司法省ニ出勤ス

(十一) 八日 招魂社裏門側四番町老番地の借宅ニ移ル家賃六円

廿九日 帰省ノ為メ横浜ニ赴キ翌(十二)日瓊浦丸ニ乗船出発前

在横浜本宿ノ宅ニ到リ伯母并初テ同人ノ妻数代二面会ス

明治十四年

一月

一日 朝六時横浜出帆

三日 朝八時過釜石港ニ着船馬ニテ大野ニ到リ歩行シテ仙

人嶺ヲ登降シ又馬ニ跨リ夜十時遠野ニ着

四日 雪を侵シ雪ヲ踏ミ二人引ノ人力車ニテ新道ヲ通り夜

十二時過盛岡ニ帰着

廿四日 十日目ニテ盛岡ヨリ帰宅

二月

三日 歩行何トナク不自由ヲ覚フルニ付キ牛込ノ脚気医遠

田橙庵ノ診断ヲ受薬用米飯ヲ停小豆ヲ食ス

十六日 麦飯ヲ停米飯復ス

三月

廿六日 父君来ル

五月

廿八日 父君去ル

六月

(八) 日……父長閑隠居シ自分家督相続ス

廿九日 同県人女子師範学校長那珂通世ノ媒酌ニテ茨木県

(旧浜松ノ城主井上藩ノ)士族柏井登妹猪智子ト結婚

ヲ約シ結納取換ス但諸品ノ代リ帯代トシテ五十円遣ス

日本橋新材木町増井久右衛門ヨリ額面五百円ノ金禄

公債証書七分利付丙路号八七七〇ヲ三百三十円ニテ

求ム

七月

六日 結婚ノ礼ヲ行フ其席ニ於テ在ノ誓文ヲ読聞セラレ互

ニ調印ス

誓

我等敬愛の真情に基き各自の満悦を以而配耦の良縁を結(採消)ひ爰ニ婚姻の大礼を行ふ今より以後禍福を共ニし憂楽を偕にし同心一体渝子事あるなく互に夫妻の義務を尽し以而天年を終へんことを誓ふ依て証人の面前ニ於て此誓書を作り自ら名を署し印を鈴するなり

明治十四年七月六日

菊池武夫 ○

柏井猪智 ○

証人 那珂通世 ○

〔抹消〕  
家督ヲ相続ス

十一日

前文金貨百貳拾九円ヲ貳百三十八円六十五錢換ニテ  
売

十三日

大学ニテ始テ英米不動産法并動産売買法ヲ講ス

二月

廿四日

一月十八日付ヲ以テ文部省ヨリ申来ルニハ米国留学  
中受取過ノ学費米金八十九弗三十八セツ紙幣二直  
シ百二十四円八十九錢七厘返納ス可シト然レモ即納  
シ難シ迎数度掛合ノ未貳拾円宛ノ月賦ニテ納ムル事  
ニ相談シ請書ヲ出シタリ但来月ヨリ始る積り

八月

④十三日 波并弟政国帰県ス

十一月

三日 波帰京ス

廿六日 自分所有丙路号八七七〇金禄公債証書を引当トシテ

二百円ヲ猪智の友人銀子の父上野健三郎ヨリ借入右

ヲ同県人嶋田奥孝外二人ニ貸シ同人等製造場ニ在時

計機械ヲ抵当トシタル借用証文ヲ取置ク

四月

十八日

金三百五十円ヲ第十五国立銀行へ当坐預ケトシ第六  
号ノ通帳并引出小切手帳及甲第拾六号預り証書ヲ受  
取ル

十二月

十八日 友人小村寿太郎大阪在勤被命タルニ付同人所有ノ京

橋区三十間堀巷丁目六番地ノ煉瓦家ヲ借受ケテ転住

五月

十日

高木貞作ヨリ左ノ家屋ヲ六百五十円ニテ買受尤伊賀  
陽太郎ヨリノ依頼ニ応シ買受ケタルニ付同人ヨリ貳  
百五十拾円無利子ニテ貸シ呉レタルナリ

京橋区加賀町拾八番地ニ等煉瓦家屋壹戸

坪数拾三坪五合建足シ三坪五合但疊建具有形ノ俣

間口三間奥行四間半 翌日引越

伊賀陽太郎へハ六月ヨリ九月迄二十円宛十月ヨリ毎

明治十五年

一月



月四拾円宛返金ノ約定書ヲ差入ル

十二月

十二日 母君出發下京

十八日 上野鍵三郎ヨリノ借金貳百ノ内百円戻ス但右ハゐち

名前ニテ駄通寮へ預ケタル金ヲ引出シタルナリ

八月

十日 九州丸ニテ横浜出帆翌々晩野蒜着港同所一泊

十三日 石巻へ陸行川蒸気船今明日出帆ナキニ付キ辻堂村ノ

藤田彬郎方ニ立寄同所一泊

十五日 金成一ノ関ヲ経テ盛岡へ着

廿日 政国ハ将来安心ナラストノ事ニテゑきト離縁(抹消)

(加筆)シム寄留ノ身故横田末次郎代印ニテ諸届仕末向

ヲ為ス

廿六日 母君同道ニテ盛岡出立二人引人力車巻輦ニ付三十三

円ノ賃錢ニテ頼ム

九月

一日 前澤吉岡白石郡山太田原古河泊ニテ七日目ノ四時過

ニ着京

十月

廿九日 午前十一時女子出産

十一月

四日 父君ノ撰ニテ長女ヲマユキ笹卜名付昔実母茂子君御殿奉

公中用タル名ナル由

二月

(加筆)十六日 夜十一時父君大病ノ旨電報アリ肺充血症トノ下

十七日 今晚五時父君病死ノ趣電報午后二時頃届ク

島田善兵衛等返金ノ見込ナキヨリ抵当ノ器械引揚ノ

義上野鍵三郎ニ委任ス

十八日 二人引廿八円ノ約束ニテ通ル車ヲ僦ヒ盛岡へ下ル

四月

十八日 同県人那珂通文妻同道ニテ石巻ヨリ(抹消)氣船夜十一時頃

横浜蓬萊屋へ着翌日帰宅

廿二日 上野鍵三郎へ残金元利百六円六拾(抹消)(加筆)錢七日返

済

五月

一日 伊賀陽太郎へ残金十円渡シ皆済

十二日 嶋田ヨリ差入タル時計器械代価九十五円ニテ本郷器

十四日 械売捌所浅井正兵衛ニ売渡ス内九十円嶋田へ貸ス  
兼テ国許ニテ送達願置タル公債証書ニ付東京府ヨリ  
喚出来リ大凡左ノ如キ所轄換ノ届ヲ出シタリ

金禄公債証書携带(抹消)(加筆)  
一 金禄公債証書金高(額面)(総高) 此券何枚

内訳 一 何円 何号 何番

右拙者所有之所東京府京橋区加賀町十八番地へ寄留  
致候ニ付岩手県へ所轄替願置候此段御届仕候

十七日 第十五国立銀行へ利付当坐預ケ金弍百五十円差入第  
十五号勘定帳同号引出小切手帳并未第七六号甲第十  
号預リ証券ヲ受取但年三分利

六月

十七日 亡父君法事百ケ日ニ営ムヘキ所みちジ(ママ)フセリヤ煩申  
ニ付今日ニ延シテ執行フ客人ハ左ノ如シ

本宿宅命并母 道又金吾 内山福 那珂夫婦  
真鍋河上謹一并藤村胖へハ菓子折遣シタリ

(朱書)  
〔×第一〇〇枚目ヲ見ヨ〕

廿九日 筈誕生并腹帯ヲ祝フ

十一月

廿六日 七分利金禄公債証書額面七百十五円ヲ六百三十八円

四十九銭ニテ平松銀行へ売渡ス其訳

丙路号八七七〇番 五百円

丙以号七〇三五番 五十円

同号五七二四番 二十五円

丙丹号四二五九番 拾円

同号四七九五ヨリ四七九七番ニ至ル 各拾円

廿八日 長瀬義幹ヨリ代金七百二十円ニテ小石川表町六十番  
地々処建家トモ引受ク

十二月

二日 小石川表町六十番地へ転居

加賀町ノ家ヲ月拾円ニテ向六ヶ月間矢代操へ貸ス

明治十七年

九月

八日 〇〇  
みちノ生父柏井放心遠州浜松ヨリ来寓

二月

十七日 亡父君一周忌ノ仏事営ムニ付来客并主人

本宿直 内山福 那珂通世 同奥 豊川痴疑雄

太田時敏 一条基緒(ママ) 柏井放心 武夫 みち 波

料理八日本橋元大工町中安菓子八風月堂

三月

廿六日 午后一時二女出生暫時ニシテ向キ鮑ヲ吐瀉シタルニ

付キ原桂仙ノ診察ヲ受タルニ心配ナキ旨保証ス

廿八日 工藤則勝ヲ経テ国許ヨリ左ノ公債証書ヲ送ル

丙路号四一七六、四一七七番 各百円額面

廿九日 右ノ金禄公債証書へ検印ヲ受タリ

四月

〔抹消〕  
〔加筆〕  
十日 舅柏井放心ノ撰ニテ女ヲ貞ト名付ケ七夜ヲ祝フ

十日 柏井放心ハ胃癌ノ為メ朝七時没ス

二女貞ノ誕生届ヲ為ス書式左ノ如シ

寄留籍本籍父氏名二女

菊池 貞

右貞儀明治十七年三月廿六日出生仕候此段御届申候也

年月日 区长宛

十二日 故放心ヲ染井墓地ニ葬ル

九月

廿二日 伯母藤田三輪君昨夜病死ノ旨国許ヨリ電報

十月

廿九日 笹ノ誕生祝フ

十二月

十六日 祖母喜世君今朝十時中風ニテ死去遊サル右ニ付キ左ノ人々ヨリ香奠其他付届来ル

那珂通世 本宿宅命 新渡戸七郎 内山福 道又

金吾 藤村畔 一条忠郎 一条基緒 那珂通文

廿三日 左ノ公債証書ヲ一条忠郎ニ貸ス額面二百円

丙路号四一七六、四一七七番 各百円

廿六日 小野善助ヨリ小野商会ニ宛タル送金手形ニテ金三百

円国許ヨリ届請取テ第九十銀行支店へ当坐預ト為ス

廿八日 東京出發神奈川ヨリ人力車ニテ小田原ニ着〔翌日旅

籠マテ箱根ヲ踰三島ヨリ元吉原迄馬車夫ヨリ奥津迄

人力ニテ着〔翌卅日船ニテ三保ノ松原ニ渡リ歩テ根

小屋村ニ至リ九能山徳川家康ノ廟ヲ觀ル又歩静岡ニ

出同所ヨリ人力ニテ由比ニ着〔卅一日人力車ニテ元

吉原ニ至リ馬車ニテ三島ニ達シ夫ヨリ旅籠ニテ豆州

熱海鱗屋ニ着

一月

明治十八年

(100)

五日 人力車ニテ松井直吉同伴熱海ヨリ小田原ニ至リ夫ヨ

リ馬車ニテ神奈川ニ出八時ノ氣車ニテ帰京

二月

廿八日 本郷貯金預所ヲ為シ左ノ通帳ヲ受取ル

いよ〇二四一〇

三月

十二日 根子久平へ金百円ヲ預ク利子八日歩二錢五厘

五月

八日 妹すみ盛岡ヨリ着京昨年祖母君大病ノ為知ニ依リ妹

なみヲ下シタルカ此度ハ跡ニ残リすみ来レルナリ

八月

十九日 盛岡第九十銀行西河岸支店ノ手ヲ經テ堀江兵三ヨリ

日本鐵道會社第二回發行ノ株五株分ヲ金三十六円ニテ

買入其番号左ノ如シ

乙第九二五号 第九二六号 各式株分二枚

甲第七八一号 壹株分壹枚

十九日 西河岸第九十銀行支店へ当坐預トシテ七月廿八日ト

今月十七日トノ兩度ニ振込タル七百円(内五百円ハ

草文小判売払代二百円ハ国許へ送金)ヲ六ヶ月ノ定

期預ケトシ利子八年七分ノ約定

廿五日 午前八時ノ蒸氣車ニテ新橋ヲ發シ神奈川駅成駒屋ノ

馬車ニ乘リ藤沢駅昼食ニテ五時過三枚橋ニ着夫ヨリ

荷物ヲ人夫ニ持テ湯本福住九藏方ニ到ル処部屋ナキ

ニ付キ五六丁上ノ塔ノ沢ニ轉シ鈴木善左衛門方ニ着

タルハ午後七時

三十日

午前七時湯本迄歩ミ東京大学生ト同伴馬車ニテ(買

切代七円)午後四時半過神奈川駅ニ着四時四十五分

ノ汽車ニテ九時頃帰宅湯本迄片道の馬車賃八八十二

錢ナリ

十月

廿五日 夜九時母君多き波薫啓磨盛岡へ着同行ノ横田末次并

其家族ハ本宿へ着

十一月

二日 国許ヨリ到来ノ第一国立銀行送金手形二枚ノ金額

百円ノ内貳百參拾円ヲ年七分ニテ第九十銀

行ニ当座預ケト為ス

十二月

廿五日 盛岡坂ノ上ナル長家地面売払代金八十円ノ内前金五

十円第一国立銀行為替券ニテ山本縁ヨリ届タルニ付

キ西河岸銀行へ預ク

明治十九年

二月

廿六日 三女濱誕生時ハ午后二時名ハ母ノ撰

四月

一日 本日ヨリ利子年四分ニ引下ル旨西河岸銀行ヨリ申来  
ル

五月

十日 西河岸銀行ヘ貳百円預ク

七月

九日 国許ヨリ米売代金貳百五十円送タル内貳百円西河  
岸銀行ヘ預ク

八月

一日 朝ゐち笹貞濱波すみ乳母ためきくニ太田時敏ヲ宰領  
ニ頼ミ六時三十五分ノ汽車(ママ)ニテ出立サセ七時半頃神  
奈川ヨリ借切ノ馬車ニテ塔ノ沢鈴木ヘ午後三時半着  
神奈川迄ハ見送ル母君ハ豊川よし出産近キニ依リ同  
行セス

(110)

五日

多き薫啓磨ハ表町ヘ引越ス  
司法省ヨリ受取タル給金ノ内三百円ヲ西河岸銀行ヘ  
当坐預ケトス

六日

豊川ヨシ免(ママ)近付タル故母君ハ同家ニ行  
新橋一番汽車ニテ発シ午後三時鈴木ヘ着

八日

司法大臣ヨリ帰京致セトノ電報到着ニ付塔ノ沢発ノ  
馬車ニ乗り四時(ママ)ノ汽車ニテ着京直チニ大臣ヲ訪タル

十七日

ニ長崎表ニ於テ支那水兵暴行一件ニ付帰京命セラレ  
タル由承ハル

二十二日

七月分米売代金ノ内百円第九十銀行為替券ニテ山  
本縁ヨリ送致

十月

十二日

訴訟法英訳賃三百八十七円四十六銭受取タル内三百  
六十円ヲ西河岸銀行ニ預ケ残金二十七円余ヲ当用口  
入ノ部ニ加フ

十一月

五日

給料并無尽当り金ノ内四百七拾円ヲ西河岸銀行ニ預  
ク

十二月

一日

太田稻造ヘ八月廿八日百円貸シタル残金五十八円米  
金ニ換テ差送ル右ニテ米金貨二百弗ヲ貸シタル割ナ

リ

三日

小石川表町六十番地々所家屋ヲ九百五十円ニテ小笠原静へ売ル

四日

右売却金ノ内八百八十円ヲ西河岸銀行へ預ク

十日

飯田町三丁目十五番地ニ在ル中山利愛所有之邸宅七拾六坪月廿五円ニテ借受引移ル尤家賃ハ司法省ヨリ支払ノ筈

十六日

亡祖母喜世君ノ三回忌ニ付仏事ヲ営ム来客左ノ如シ

(11)

本宿宅命并母 横田千勢、亀 豊川ヨシ 太田時

敏 沢田忠兵衛 断リノ分 内山福 豊川痴疑雄

主人 母君 武夫 おち めき 波 澄并子供等

五人

料理菓子共矢張中安一人前一円

三十日

藤田隆三郎松野貞一郎馬場愿治同伴午後一時馬車ニテ両国ヲ発シ舟橋ニテ馬車ヲ換夜九時頃佐倉へ着翌日歩テ佐倉ヲ発シ酒々井ヨリ人力車ニテ宗吾神社ニ廻リ十一時半頃成田町桜屋ニ着午後三時源田へ向人力ニテ出發夜八時頃利根川川氣船(ママ)ニテ佐原ニ着江戸屋久兵衛方止宿

一日

朝徒歩シテ香取神社ニ至リ又歩テ津ノ宮ニ出テ人力車ヲ僦ヒ雲式佐原屋ニ於テ昼食午後五時過銚子ニ止宿翌朝八時人力ニテ発シ太田ニテ昼食八日市場ヲ經テ六時頃横濱芝角屋翌三日朝六時出發東金ニテ人力ヲ馬車ニ換十二時千葉町ニ着又馬車ニテ出發六時半頃両国福井ニ至リ九時頃帰宅

三月

廿九日

整理公債証書額面貳千円ヲ同価ニテ引受方昨年十一月十五日ニ申込保証金トシテ貳百円払込当年二月廿四日ニ残額七分ノ一即チ二百六十円本日又残金千五百四十円払込左ノ証書ヲ受取ル

五百円券貳枚 以号第四七六卷

同号第四七六卷

百円券 十枚 同号第二四九五ヨリ

第二五〇四マテ

(12)

右払込ノ為メ預金ノ中ヨリ千五百四十円引出残高百二円ヲ新預リ証ニ認メ直シ西河岸銀行ヨリ受取ル

七月

廿日

盛岡ヨリ為登金貳百円西河岸第九十銀行支店ニ預ク

明治二十年

八月

八日

山田司法大臣ニ随行シ朝五時半上野発ノ汽車(ママ)ニ乘リ

一月

(113)

九時宇都宮ニ着始審(裁判)才半所新築ノ模様ヲ檢視シテの  
 字ニテ昼食栃木県書記官桜田義信案内ニテ六時日光  
 町神山ニ着宇都宮ハ九里此度ハ山田伯ノ母君夫人福  
 原控訴院書記官モ同行ナリ 九日朝六時半山旅籠ニ  
 乘リ日光廟ニ詣宝物拝殿東照宮ノ廟ヲ觀大日堂華嚴  
 ノ瀧ヲ經テ中禪寺ニ昼食司法省雇英人カークウツド  
 氏ノ好意ニ依リ同氏ノ家根船ニテ湖水ヲ涉リ菖蒲ケ  
 浜ニ上陸又旅籠ニテ戰場ケ原湯瀧ヲ經テ湯本村ニ着  
 里程六里 十日朝七時出發中禪寺昼食觀音堂ニ詣裏  
 見ケ瀧ヲ經テ日光町ニ達シ朝陽館ニ於テ県知事樺山  
 資雄ノ馳走ヲ受タル後神山ニ帰宿 十一日山田夫人  
 母堂ハ霧降ノ瀧家光公ノ廟ヲ見東京ニ歸リ大臣ノ一  
 行ハ樺山知事宇都宮始審長天野正世同道ニテ今市ヨ  
 リ左ニ折レ小百村ヨリ馬ニ跨リ瀬尾村ヲ經小休ヤス戸村  
 ニ一泊里程六里 十二日馬ニ跨リ一里半ノ峻阪ヲ登  
 リ大笹嶺ニ至リ今市ニ戻リ一泊 十三日八時頃今市  
 ヲ發シ鹿沼ニ昼食上都賀郡役所ニ立寄り午後三時栃  
 木町始審支庁ヲ見分シ鯉保ニ於テ裁判所連ノ馳走ア  
 リ回家ニ一泊里程十一里 十四日栃木町下都賀郡役  
 所ニ立寄り佐野町ニ至リ安蘇郡役所ニ立寄後苦楽部  
 ニ於テ佐野人民ノ饗応ヲ受午後二時足利ニ至リ足  
 利学校及前奈寺ノ古書古物ヲ觀織物講習所ヲ一覽シ  
 相模屋ニ一泊知事ノ馳走アリ 十五日新田郡役所太  
 田治安才半所(裁判)ニ立寄熊谷支庁ヲ視同庁員ノ饗応ヲ受

廿三日

荒川ノ鵜飼ヲ見六時四十分ノ汽車ニテ帰京  
 山田司法大臣ニ隨行シ上野發一番汽車ニテ出發郡山  
 ニテ下リ馬車ニテ福島ニ着始審才半所連ノ饗応アリ  
 廿四日荷物車ニテ未開鉄道ヲ通り仙台区清水小路  
 清寄園ニ一泊裁判所連ノ饗応アリ 廿五日人力車ニ  
 テ塩釜ニ至リ(珠道)小蒸氣船ニテ運河ヲ經石巻ニ  
 着一泊 廿六日渡ノ波迄人力ニ乘リ小舟ニテ沼ヲ涉  
 リ一里許陸行女川灣ヲ一覽渡波昼食小蒸氣船ニテ荻  
 ノ浜ニ着夜半相模丸ニ乗船松平宮城県知事ハ渡ノ波  
 宮城控訴院長弁田口通照檢事長関義臣福島始審長久  
 保秀景仙台ノ檢事岩重嚴等ハ荻ノ浜迄見送ル  
 箱館ニ着船淺田ニ止宿 廿九日裁判所ヲ巡視シ湯ノ  
 川ニ入浴シテ帰寓裁判所連又ハ北海道長官岩村通俊  
 ノ饗応アリ 卅日馬車ニテ岩村君同伴江差ニ着本願  
 寺ニ止宿 卅一日滞在有志連ヨリ西洋料理ノ馳走ア  
 リ

廿八日

九月

根室丸ニテ江差港ヲ出發ス 二日小樽港ニ着船直チ  
 二汽車ニテ札幌(珠道)向ヒ(加登)時公園内偕樂園ニ宿  
 泊ヲ定メ午後南部人懇親会ニ出發ス 三日裁判所北  
 海道庁ヲ巡視シ篠路ナル山田殿開懇地ニ廻リ帰園ス  
 四日幌内岸(ボライ)氣車ニ乘リ空知停車場ニ戻リ馬ニ  
 跨リ樺戸集治檻ニ赴ク途上落馬シタレ(マ)尚ホ進テ樺

一日

(14)

戸ニ昼食帰路空知集治檻ニ立寄り日暮帰園ス 五  
日(ママ)氣車ニテ小樽ニ至リ(ママ)汽船ニテ夜半出帆 六日増毛  
二泊 七日今日以後根室ニ至マテノ道ニハ車通ハ  
サルカ為メ馬ニ跨リ増毛ヲ發シ留崩鬼鹿ヲ經テ(トモイ)  
二泊

八日天塩ニ泊ル 九日雅内ニ泊 十日サガレ

ン嶋ニ最近ノ宗谷ニ昼食シテ猿沸ニ宿ル 十一日枝

幸ニ泊ル 十二日札幌根室岡始審裁判所ノ管轄境ナ

ル幌内ニ宿ル 十三日紋別ニ着 十四日風雨ノ為メ

滞留蝦夷躍ヲ觀ル 十五日勇別に泊ル 十六日ノト

口山道ヲ踰エ鍋沸ヲ經テ網走ニ着 十七日斜里山道

ヲ經テ斜里ニ泊ル 十八日標別ニ宿ル

十九日

西別ニ憩テ根室柳田藤吉方ニ着柳田ハ盛岡ニ産レタ

ル者ナリ戸田文七来リ訪フ裁判所連ノ馳走アリ 廿

日屯田本部ヲ一覽シ戸田方ニ招カレ郡役所連ノ馳走

廿一日

ヲ受 陸奥丸ニテ根室ヲ發シ厚岸ニ着 廿二日風波悪キカ

為メ滞留蠣島ニ赴キ蛸ヲ食フ味頗フル美ナリ 廿三

廿五日

日夜半乗船 初夜箱根館ニ帰着浅田ニ泊ル 廿六日夜半新潟丸ニ

廿九日

乗船北見国廻行以來初テ岩村通俊君ニ別ル 十二時半横濱着港一時半發ノ汽車ニテ帰京

十月

一日

丙路号四一七六、四一七七号ノ金禄公債証書当籤  
ニ付キ無記名整理公債証書ニ交換シタリ其番号ハ  
以号第四四〇(抹消)及第四四〇九番 各百円

十二日

妹なみハ群馬県平民前橋南曲輪町住高瀬四郎ト上野  
広小路松原亭ニ於テ結婚ス

婚姻届

南岩手郡加賀野村八十六番地

士族 菊池武夫妹

なみ

安政五年七月七日生

右妹なみ群馬県東群馬郡前橋南曲輪町平民高瀬四郎

妻ニ呉遣候也

東京府麹町区飯田町三丁目

拾五番地寄留

右

明治廿年十一月七日

戸主 菊池武夫

同人寄留ニ付 親類 山本 縁

同 菊池武平

仁王村外五ヶ村戸長 藤根吉受殿

三十日

芝公園内紅葉館ニ於なみ里帰ノ宴ヲ開ク来客ハ  
本宿夫婦及母 横田末次郎及祖母 内山夫婦 豊

川夫婦 媒酌人平佐具純及妻 関彰及妻 下媒酌

人埴原謙蔵 原亮三郎妻 柏井登 那珂通世 真



鍋波

入費八七拾円

十二月

四日 国許ヨリ金貳百円着内百円ヲ西河岸銀行へ預ク

明治廿一年

三月

廿八日 国許ヨリ米五十駄代ノ内百三十五円第九十銀行為替券ニテ来ル

七月

十六日 国許ヨリ米百三十式駄片馬代三百六十九円六十七銭五厘ノ内三百四十円第九十銀行為替券ニテ来ル壹駄貳円七十九銭替ナリ

八月

八日 朝六時半ノ汽車(マ)ニテ母君おちすみ、芭、貞、濱、□  
□きくはなしけ上野銀諸共出發国府津小田原ヲ経テ塔ノ沢鈴木方ニ正午頃着

十日 一同底倉桜屋牧三郎方ニ移ル  
廿日 自分ノミ帰京

廿五日 家族一同帰京まき薫啓磨ハ翌日引取ル入費大凡九十

円

十五日(マ)

日本鉄道会社株券四枚ヲ金三百三十六円三十銭ニ売  
払フ其内訳左ノ如シ

第二回発行分(每株三〇円払込)五株(券三枚)金三百円五十銭 甲第七八一号(一株) 乙第九二五、第九二六号(各一株) 壹株六〇・一〇  
第三回発行分(每株一〇円払込)壹株金三五・八〇  
甲第八七一号

(110)

右ノ売代金ヲ以テ(加筆)整理公債証書額百円ノモノ三枚ヲ壹枚百壹円四十三銭宛ニテ買求ム即チ代金三〇四・二九ニシテ証書ノ番号左ノ如シ  
(米時) [201及203ヲ見ヨ]

十月

廿六日 南部球吾ヨリ残金六拾八円返済右ニテ皆済ノ

明治廿二年

四月

七日 午前八時男子出生父ノ幼名ヲ襲ヒ香一郎ト名付ク母ノ撰ミナリ

六月

十九日

老駄三円四十銭替ニテ七十駄分代金貳百三十八円安  
田銀行為替券ニテ<sup>(抹消)</sup>国許ヨリ到着残米八十六駄現  
在

四九五六八番都合四枚ノ記名整理公債証抵当ニテ八  
〇〇・〇〇借用

七月

十七日<sup>(抹消)</sup>  
十八日<sup>(加筆)</sup>

帝国生命保険会社ト保険契約ヲ結ヒ二十年間毎月十  
四円五十銭ヲ払込死亡ノ節妻おちへ金五千円請取ル  
筈ナリ

一日

前記ノ金額返償但公債証書ハ当分貸置タリ

十一月

十二月

廿八日

塔ノ沢ニ赴キ翌年<sup>(加筆)</sup>二月四日河上謹一ト名古屋ニ行  
六日帰京

八月

七日

老駄三円五十六銭替ニテ残米八拾六駄分代金<sup>(抹消)</sup>  
<sup>(加筆)</sup>三百<sup>(抹消)</sup>十<sup>(加筆)</sup>六円十六銭ノ内貳百七拾五円第九十銀  
行<sup>(加筆)</sup>安田銀行宛ノ為替券ニテ到来

(17)

明治廿三年

八日

二月

昨年収納米百<sup>(抹消)</sup>九<sup>(加筆)</sup>十<sup>(加筆)</sup>駄片馬ノ内百駄売払代  
五百貳拾三円ノ中五百円第九十銀行為替ニ而受取内  
百五拾円ハ豊川知擬雄<sup>(抹消)</sup>ノ口入ヲ以テ東京第廿七<sup>(加筆)</sup>  
<sup>(返却)</sup>

九月

三十日

九州鉄道会社株券二枚二十株分買求ム十株ハ廿四円払  
込ニテ毎株廿四年三十銭残り十株ハ同上ニテ毎株廿  
四円四十銭宛手数料共ニテ四三〇・〇〇払フ

廿一日

十七日鉄道敷地買上代トシテ百八十四円〇七銭三厘  
盛岡ニテ受取タル内第五期納租金差引百五十円第九  
十銀行為替券ニテ受取潰地番号及買上代価左ノ如シ  
十五地割六十四番 田三畝十二歩 十八円・九三六(地価五割増)  
同 六十五番 田六畝廿九歩 四七・七二七(同上七割増)  
同 七十一番 田四畝四歩 二八・三二〇(同上)

十月

十九日

豊川痴癡雄ノ世話ニテ額面五〇〇・〇〇以号四七六  
一番額面一〇〇・〇〇以号六五二五番四一九八五番

同 七十五番 田〇 廿七歩 五・四三九(同) 五割増

十六地割十一番 田〇 十九歩 三・五二七(同) 上

同 十二番 田一畝廿五歩 一〇・二二一(同) 上

同 十三番 畑五畝十九歩 一一・八三三(同) 三割増

同 十四番 田四畝廿九歩 一一・八三三(同) 三割増

同 廿七番 田〇 七歩 一・一八九新濱地

同 同 田五畝式歩 二九・二五九(地価七割増)

〔加筆・朱巻〕  
右濱地小作米割引ハ長四郎分式駄式斗者升余巳之

松分式駄三斗〇四合ト約定済ノ一二十二年八月五

廿日

日付武平ヨリノ手紙ニ依リ記ルス

金三百円(為登金ノ内)〔採酒〕第廿七国立銀行(渡辺

三月

十八日

金式百拾円(二度目ノ為登金其他)東京第廿七銀行ニ

当坐預ケトス年利前二同シ

二十七日

山田司法大臣随同行トシテ愛知県及広島控訴院へ出張

命セラル

二十八日

山田殿〔加筆〕随同行シ 陛下御乗車ノ特別車ニテ出発横

浜山北沼津静岡浜松ノミ停車シ十時間ニテ名古屋着

終日雨天ニテ富士山ノ見得サリシハ残念ナリシ哩数

二三五余

二十九日

名古屋旅宿渡辺喜兵衛事菱喜方ヲ発シ停車場ヨリ汽

車ニテ大府ヨリ右ニ東海道線ヲ離レ半田ニ至リ止宿

三十日

午前四時〔マア〕汽車ニ発シ武豊ニ到リ同所ヨリ小蒸汽船ニ

テ御召艦八重山号ニ乗り終日艦隊戦争ヲ観午後六時

又〔マア〕汽車ニテ半田ニ帰り一泊半田ヨリ武豊迄三哩半

三十一日 今朝八時陸戦ノ手始アルカ故山田大臣ハ陛下ニ随

出張アリ雨天故随行使ス午後二時半〔マア〕汽車ニテ発シ名

四月

古屋菱喜方ニ帰着半田名古屋二十一哩余

一日 〔マア〕汽車ニテ荻谷ニ到リ知立ヲ経テ大演習地ニ出張同日

午后婦名荻谷迄ハ十五哩余荻谷ハ知立迄二里余

名古屋城側練兵場ニテ観兵式ノ執行ヲ陪観シ夜ハ行

在所ナル別院即チ本願寺ニ於テ催サレタル夜会ニ参

ス海防費献納者初子僕ノ人々多カリシモ至極無事ニ

済タリ

四日 朝五時発ノ〔マア〕汽車ニテ〔採酒〕〔加筆〕都大阪ヲ経神戸ニ昼食

シ又〔マア〕汽車ニテ姫路ニ着神戸姫路間ニハ名高キ須磨明

石ノ名所アリ景色如何ニモ宜シ名古屋ヨリ百七十五

哩余

五日 竜野迄〔マア〕汽車ニ乗り同所ヨリ人力車ニテ雨ヲ侵シ三ツ

石ニ到ル頃雨晴ル日暮岡山ニ着〔有名ナル〕〔加筆〕後楽園内

ノ邸ニ宿ル竜野迄ハ九哩余竜野ヨリ岡山マテハ十八

里余

七日 人力車ニテ岡山ヲ発シ福山玉島ヲ経テ尾道ニ着此行

程二十二里余

八日

蒸気船錦川丸(大阪商船会社持)ニテ清盛の切開タ  
リト云伝ル音導ノ瀬戸新軍港呉ヲ経テ広島ノ宇品港  
ニ着同港ハ広島市ヨリ一里余築出シタル工事ニ由テ  
出来タルモノニテ頗ル壯観ナリ海路五十三里

十日

同学西川鉄次郎等ト水上警察ノ小蒸気船ニテ有名ナ  
ル宮島ニ赴キ紅葉谷ノ茶屋ニテ昼喰夫ヨリ深山ノ半  
腹ニ登リ五時頃帰広成程宮ト云ヒ浜ト云ヒ美景ナリ  
海上五里

(119) 十一日

(加筆) 亦錦川丸ニテ(加筆)尾道多度津高松ヲ経淡路島  
ヲ引廻シテ  
神戸ニ上陸海上百六十一里

十二日

午后二時神戸ヲ發シ大阪專崎ニ止宿二十哩余

十三日

午前十一時大阪發ニテ名古屋菱喜ニ着此里程百貳拾  
哩余此日雨天ナリシ

十四日

午前六時發ノ(加筆)氣車ニテ名古屋(抹消)(加筆)〔出立〕午後七時頃  
帰京此日モ終日雨天ナリ

五月

八日

曾テ第廿七国立銀行ニ預ケ置タル五百拾(五)円ト其  
他人ヨリ預ケラレタル金子杯ト共ニ俸給ノ残高ヲ  
合シ五百拾(加筆)円都合千二十五円ヲ改メテ当坐預ケ  
トシ当坐預金通帳ナルモノ及引出小切手帳ヲ同銀行  
ヨリ受取タリ但利子ハ矢張年四朱五厘ノ定メナリ

同日

盛岡外加賀野七十七番分の内元武平居住ノ分上田隆

へ月七拾錢ノ家賃ニテ此月初台貸付タルヨシ五日付  
ノ書状来ル

六月

七日

盛岡第九十銀行西河岸支店へ金參百円貸但シ預リ証  
差入越シタリ利子八年壹割ノ約六・一七返済

七月

一日

通信省為替貯金局へ金五拾円預ク  
盛岡第九十銀行西河岸支店へ金五百円貸但シ預リ証  
書差越シ利八年一割ノ約

八日

第四女操生ル

十日

ミサホノ誕生届ヲ盛岡(加筆)市并麴町区役所へ出ス其書  
式左ノ如シ

十九日

出生届  
盛岡市(加筆)外(加筆)加賀野八十六番(加筆)戸士族  
当時東京(加筆)市麴町区永楽町一丁目三番地寄留

(120)

父 菊池武夫

母 猪智 妻

第四女 ミサホ

右七月十日出生仕候間此段及御届候也

年 月 日 姓 名

盛岡市長殿

麴町区永楽町一丁目三番地寄留岩手県士族

以下同文

麴町区長殿

二十三日

昨日到着ノ為替券面五百(抹消)拾円(加筆)ノ内四百五拾円ヲ第廿七国立銀行へ預ケタリ右為替金ハ先月約定ノ上去ル二十日ニ引渡シタル米七拾駄ノ代金ノ内ヨリ第一第二期地租金へ向ケ二拾七円五拾銭ヲ引去リタル残高ナリ米代ハ壹駄八円二十五銭換ニテ(抹消)七(加筆)百七十円五十銭也

鉄道工事ノ為メ北上川出水ノ際水溢レ土砂流シ込ミ鶴子十六地割廿七番田二反八畝五歩ノ内

惣破損地 二百三十一坪

半作毛 九十二坪

収獲米 貳石貳斗壹升六合

右損害金トシテ三十四円六十五銭県庁ヲ経テ(加筆)日本

鉄道会社へ要求(抹消)ノ事申越シタリ

炭竈ハ半工丈付タルヨシ

過ル十八年富士見小学校建築費トシテ金一円寄付シ

タル段奇特ナル旨ノ褒状賞勲局ヨリ来ル寄付ノ一ハ

更ニ記憶セス

五日

鎌倉ニ赴キ一泊翌朝大船ヨリ新橋発一番汽車ニ乗リタルニ(抹消)前日来ノ降雨(抹消)ノ為メ(加筆)奥津川ニ

架セル鉄橋流失セシ為メ途中手間取静岡ニテ三時間

待セラル、コト、ナレリ依テ同所ノ臨濟寺ニ赴キ今

川義元徳川家康ノ遺物其他ノ宝物ヲ觀タリ同寺ハ家

康幼時ニ居住セシ所ノ由ニテ今ニ手植ノ梅ト称スル

モノ抔存ス四時過静岡ヲ発シ夜十時過名古屋渡辺方

二着

七日

午後六時名古屋発ノ汽車ニテ岐阜ニ赴キ松半ト云フ

料理屋ノ周旋ニテ直様長良川ニ到リ屋形船ニテ漕出

テ金華山ノ麓ニテ鵜飼ヲ觀タリ当夜ハ鵜船七艘出タ

リ鵜飼ハ遠見ノ方ヨシ近クニテ漁獲ノ様ヲ見ルハ余

り面白カラス夜十二時ノ汽車ニテ一時過名古屋ニ帰

着川文ト云フ料理屋ニ一泊翌晩渡辺ニ帰泊

朝一番汽車ニテ発シ大船ヨリ(抹消)又鎌倉ニ立寄翌日

三時過ぬち同道ニテ鎌倉ヲ発シ帰京尤ぬちハ十二日

朝八時新橋発ノ車ニテ又鎌倉へ帰ル

九月

五日

母君并色貞濱帰宅

ぬち澄并香一郎みさほハ熊みつ三州親方同伴ニテ帰

京

六日

五日

母君猪智澄色貞濱香一郎操ハ(加筆)くまみち

三州屋の親方)を連て朝六時ノ汽車ニテ鎌倉光明寺

へ赴ク

八月

八月

八月

八月

八月

八月

八月

八月

八月

八月

八月

八月

八月

十五日 残米拾壹駄五円四十五銭宛ニ而五十九円九拾五銭ニ

売払タル由十二日附手紙ニ而申越シタリ

十二月

二十三日 盛岡市加賀野式地割六六番字久保田宅地三〇四

坪四合四勺同所建家木造柁葺三〇坪二階四坪土蔵

一〇坪二階七坪八亡父君藤森万次郎ヨリ買受ケラ

レシカ如何ナル都合ニテカ横田末次郎名義ニ為シ

置レタル処(採掘)横田全主家出発覚此度名義書替へ地所

第一〇五号建物第六一号ノ登記ヲ盛岡区才半所ニ

テ受ケタリ

三十一日 膀胱病追々快方ニ赴タルニ付医ノ勸ニ従ヒ一条忠郎

同道ニテ伊豆熱海ニ向八時新橋ヨリ出発十二時前小

田原ニ着昼食ノ上二人引ニテ四時半熱海坂口屋富八

方ニ着

(22)

熱海入費 六三・五八九 往返旅費共

熱海入費(採書) 五四・四二七 土産物代外不時入費 一一八・〇一六

明治二十四年辛卯

二月

十二日 九時過二人引ニテ熱海出発三時過箱根塔ノ沢鈴木善

左衛門方着

三月

十二日

時二十分湯本発ノ鉄道馬車ニテ国府津ニ至  
リ三時十三分ノ神戸ヨリノ上リ(ママ)汽車ニ乗合六時前帰

宅

去一月家内中流行感冒ニ罹リ中ニモ母上最モ重ク檜

村病院ニ入療治ヲ受ケ漸ク先月末出院サレ続テぬち

煩ヒ付タル由ニテ婦宅ノ節ハぬち濱ハ赴床中貞、香

一郎、みさほ(氣力)ハ機管病ニテ咳シ居レリ

箱根入費 三二・七二五 婦京車代迄 三五・五七五

二十一日

東京府士族当今宮城控訴院検事ナル大竹長寿ト妹澄

永楽町官舎ニ於テ結婚ス媒酌ハ原亮三郎(金港堂)夫

婦ナリ大竹ハ仙台ニ番町六十九番地寄留ナリ

三十日

収納米二百一駄外ニ糯壹駄片馬なる由申来レリ  
今月ヨリ六月迄壹俵半宛武半へ手遣ス(ニセリ)

四月

一日

すみ婚姻シタルニ付左ノ届書ヲ差出スヘク左スレハ  
別段送籍願ヲ差出サストモ市役所ヨリ市役所へ直様  
送籍ノ手續ヲ為ス由国許ヨリ申来ル但半紙ニテ二通  
也

婚姻届

盛岡市加賀野八十六番戸士族菊池武夫妹

スミ

元治元年十一月十一日生

右スミ大竹長寿妻ニ呉遺候也

右戸主

年号月日

菊池武夫 印

東京市深川佐賀町二丁目十一番地土族

大竹長寿 印

二日

左ノ通小作人へ仕付米貸付ノ義承知ノ返書ヲ出ス

荅 駈宛

大吉 巳之松 亀吉

栄助 政之助 清藏

片馬

久左衛門

ノ(抹消)加建(五)一六(一)駈片馬

四日

昼九段坂上富士見軒ニ於テ里開ノ客ヲ請シタリ其人  
名左ノ如シ

大竹長寿夫婦 原亮三郎妻 本宿宅命夫婦及母

内山お福 山内良濟 豊川痴癡雄夫婦 那珂通世

享主ハ武夫夫婦 母 ゑき也 原亮三郎高瀬四郎ハ

急差支ニ而不参高瀬お波ハ病中柏井真鍋ハ断リ

五日

午後二時十分ノ瀛車ニテ大竹ハすみヲ伴ヒ仙台へ出  
立

五月

一日

飯岡新田持地田五反八畝廿八歩ヲ代価金百三拾円ニ  
テ平野頼へ売渡シ去月廿四日登記済ノ趣

(朱書) (四)二四付国許ヨリノ書状)

収納米四十駄代価百九十二円即チ一駄四円八十銭ニ  
テ売払(同上)

右二口合金三百二十二円第一国立銀行為替券ニテ到

着小村関係ノ金ト共ニ四百九十二円第二十七銀行ニ

預ク(朱書) (二三八枚目)

五日

米六十駄代金二八八円外糯米一駄四・九〇ノ内第六

期地租金ニ宛二〇・九〇差引残金二七二円第一銀行

為替ニテ国許ヨリ届(朱書) (五二付書状)

右二七二円ト給料ノ内三〇〇円ヲ併テ五七二円第廿

六日

七銀行ニ預ク(朱書) (三三八枚目)

二十五日

三十日

従四位ニ叙セラル但シ辞令日付八十二日ナリ

加賀町十八番地煉瓦家ヲ敷金五十円月十四円ニテ朝

野新聞記者波多野承五郎ニ貸ス(証文入ル)但廿八日  
ヨリ移住セリ

六月

十日

永楽町一ノ三官舎ヨリ小石川仲町二番地中村元雄

三十日

持家ニ移転家賃一ヶ月拾六円也  
母君基参ノ為メ帰県

七月

〔四〕日  
〔五〕日

静岡〔藤枝〕浜松〔掛川沼津〕へ向出発〔静岡〕滞在中丸  
子宿外レ吐月峯下ノ楽屋寺ニ詣リ文福茶釜等ノ宝物  
ヲ觀ル連歌師宗良ノ故跡ト云フ 九日浜松ヨリノ帰  
リ掛川〔觀〕吸月棲ニ昼食シ晒葛紙布ヲ調フ午後沼津  
在牛臥ナル海水浴ニ泊裁判所連同宿ナリ 十日箱  
根塔ノ沢ニ立寄

七日

依頼免本官ノ命アリ  
整理公債ノ内記名千五百円無記名二百円ヲ額面百円  
ニ付一〇〇・七〇宛ニ〔今井商店へ〕支払フ第廿七銀  
行菊池英次郎ノ世話ナリ

十三日

代言願書ヲ差出ス  
退官賜金ナルモノ一、〇二〇・八〔三〕三司法省ヨ  
リ受取勤務年数一ケ年ヲ半月ニ勘定シテ其月数ヲ俸  
給月額ニ乗スルモノ、ヨシ

十四日

九月

一日

今月ヨリ来年八月マテ代言免許ヲ得  
開業事務所ハ京橋区新肴町一番地ニ設ク代言人榎原  
周次郎矢野禎吉ハ出張代言人新田目善次郎及法学院  
卒業生松本繁太郎會計掛リ吉川義質応接方片桐孝次  
郎〔等〕シテ代言人ハ孰レモ東京法学院卒業ノ人  
々ナリ

十日

事務所ハ後藤象次郎〔持家ナレト其縁者井上竹次  
郎ノ名前ニナリ居ルモノヲ讓受ケタルナリ尤モ登記

十四日

八十四日二済セタリ建坪及代価ハ左ノ通り  
一 煉瓦造瓦葺二階家 壹棟  
此坪三十四坪内二階二九坪五合  
一 木造瓦葺平家 壹棟  
此坪二坪五合  
孰レモ豊建具造作有形ノ俣

(12)

二十七日

右代価三、九五〇円内即金一、七五〇円差入レ残金二  
対シテ右家屋ヲ抵当ニシ年七朱利付ニテ明廿五年十  
二月廿五日限返済ノ事尤モ利子ハ月割ニシテ毎月井  
上方へ一、八三三宛払渡ス約定ナリ此亦登記済  
テ一ブル椅子等有合品ハ副証ニテ讓受ノ約定シ別ニ  
〔登〕公証ヲ経ス  
米百駄片馬式斗売払代四五三、四六三 (一駄四、五  
〇) 第一銀行為替ニテ到来右ヲち小遣ニ廻ス来年  
二月分迄ナリ

五〔以下日〕欠

一〇月

初メテ口頭弁論ノ為メ東京地方裁判所第四部ニ出延  
シタリ〔朱書〕

七

通信省貯金局預ケ金元利合計 (三月卅一日マテニ  
テ) 五九三、九九四ノ内五〇〇、〇〇〇引出シ第百十九  
銀行 (神田淡路町三菱社隣) へ特別当預ケトシタリ  
〔座脱カ〕  
利子八年五分五厘ニテ五月十一月両度ニ利勘定ノ定  
メ通帳番号八一、五一四号ナリ〔朱書〕 (2331) (2331)



一五

七分利付金禄公債証額面五百円償還ト為リ元利共二  
テ五二六二二五日本銀行ヨ受取内ヨリ司法省発納入  
告知書官吏遺族扶助料過渡分金一、四五八日銀行<sup>(本「脱カ」)</sup>行へ  
収メ込ミ残金ノ内五二〇・〇〇第一一九銀行へ特別  
当坐預ケト為<sup>(米書)</sup>〔201〕〔231〕

一一月

八

当地及盛岡ニ於テ亡実母茂子仏名草照妙月大姉様ノ  
三三回忌法事ヲ営ム

二八

二六日付ニテ小作米及仕付<sup>(加筆)</sup>米共二〇二駄  
<sup>(加筆)</sup>糯米一駄片馬蕎麦一駄(式駄ノ答書損カ)小豆一  
斗五升<sup>(抹消)</sup>皆<sup>(抹消)</sup>收納猶浅岸分五駄不日付入ノ趣報知アリ  
雑穀分配方今年ハ左ノ通

一 糯米半俵小豆五升

横浜幾慶

一 蕎麦壹俵

山本 縁

一 糯米半俵小豆壹斗蕎麦一駄片馬

菊池武平

一一月

二二

浅岸喜蔵ヨリ五駄付入右ニテ小作米皆納其駄数二〇  
七駄分

(26) 月 日

一一

一一 糯米一駄片馬外雑穀ハ一一月二八日記載ノ通り雑穀

ハ例年ノ通り親類知己へ分配セリ

二二

貴族院令第一条第四項ニ依リ貴族院議員ニ任スル旨  
ノ勅令ヲ受ケタリ此勅選ノ内話ハ九月頃アリタルニ  
其後更ニ沙汰ナク此度不図発布セラル時節ハ議會開  
会中故政府カ其味方ヲ殖ヤスノ策ニテ即チ吾等杯モ  
政府ノ内論ヲ受ケタル御味方議員ナリトノ評中ニ加  
ヘラレ迷惑至極ナリ

明治二五<sup>壬</sup>辰年

月 日

一

八

阿部浩ヨリ豊川へ返スヘキ金ノ由ニテ<sup>(加筆)</sup>金一〇〇・〇  
〇坂本安孝ヨリ受取自分ヨリ請取書ヲ遣ハシタリ

一六

豊川痴癡雄所有碓氷馬車鉄道会社株式六四株へ一株  
ニ付三、〇〇〇宛ノ配当金一九二、〇〇〇ノ内ヨシヨリ一  
五〇・〇〇預ル

五〇・〇〇預ル

二二

片桐孝次郎へ暇遣ハス

二五

松本繁太郎へ暇遣ハス

月 日

一一 国許へ一九、〇〇〇送ル

(77)

- 二四 貴族院ヨリ本年六月迄ノ歳費トシテ四六六.六六七  
請取国許横浜幾慶へ第一銀行送金手形ニテ七〇.〇  
〇貸シ後日<sup>(抹消)</sup>〔受取〕<sup>(加筆)</sup>〔借〕用証来ル
- 二六 一條忠郎へ三七〇.〇〇貸シ借用証ヲ取ル返済期日  
八一二ノ二五日ナリ
- 三 月 日
- 一四 国許へ第五期地租金トシテ金三〇.〇〇第一銀行送  
金手形ニテ送ル
- 三〇 小村寿太郎へノ債額四、五〇〇.〇〇ノ廻糶ニテ一〇  
〇〇ニ付キ二、九八ノ割合ニテ入札シ二七二.〇〇  
落札ニテ受取り乃チ元金九一二.七七返済ヲ受ケタ  
ル勘定ナリ但二月初ニ糶落シタル由ニテ鳩山和夫ヨ  
リ受取
- 四 月 日
- 三 歌舞伎座へ諸知合ヲ招待ス
- 一〇 夜半小川町ヨリ起リタル火事ニテ錦町ノ東京法学院  
焼失
- 一四 母君ハ国許ヨリ登リ居タル乳母クラ戸田マサ本宿隠  
居同行ニテ日光及足尾銅山へ赴ク足尾ニハ高屋受政<sup>(抹消)</sup>  
〔二テ〕<sup>(加筆)</sup>〔ノ妻ナル〕母君ノ妹キヲ子<sup>(抹消)</sup>〔ノ夫〕<sup>(加筆)</sup>〔カ居〕ル故
- 五 月 日
- 五 豊川痴癡雄ヨリ碓氷馬車株ノ配当金ナル由ニテ二二  
八.〇〇預リ即日二八.〇〇渡シタリ(後略)
- 七 月 日
- 二〇 相州鎌倉長谷二〇番地鶴見弥三郎方へ避暑ノ為メ母  
君<sup>(ママ)</sup>みち小供五人くま八丁堀きく<sup>(加筆)</sup>〔うめ〕横浜叔母様出  
発セリ
- 八 月 日
- 三 壹駄ニ付キ四、六〇ニテ<sup>(加筆)</sup>〔米〕一六〇駄此代金七三六.  
〇〇糯米壹駄四、九〇合計七四〇.九〇ノ内第一期地  
租金及地方税金三五、九〇ヲ引残高金七〇五.〇〇第  
一銀行送金手形ニテ到着<sup>(朱書)</sup>〔222〕〔249〕
- 二二 山出銭三〇.五六収入アリ右八木一一八間七歩ノ代  
ナリ
- 九 月 日

(28)

〔マ〕

二 残米三四駄(一駄四・四〇)売払代金一四九・六〇ニ予  
 備金ヨリ〇・四〇足シ加ヒ合一五〇・〇〇第一銀行送  
 金手形ニテ到来昨年度総収入米八二〇八駄片馬(加筆)  
 米共(朱線)ノ処施与米四(朱線)貸付米九俵喰足シ米五〇ナリ  
(朱線)〔222 & 250〕

〔マ〕  
 碓氷馬車鉄道会社三拾株ノ配当金六〇・〇〇豊川痴  
 癡雄ヨリ預ル

月 日

五

一〇・〇〇ニ付三・一〇ノ割ニテ一・一一六・一二九糶  
 落シタル由ニテ糶落金三四六・〇〇鳩山和夫ヨリ  
(抹消)〔送〕(加筆)リ超ス右ニテ債権残り高八一・五九六・一三  
 三ト為ル(朱線)〔252〕

一 今朝十一時頃但馬生野銀山ニ於テ山田伯腦充血症ニ  
 テ薨去ノ旨電報アリ直チニ音羽ナル同伯邸ニ見舞タ  
 リ

月 日

七

米(今春貸付米返却分共)一〇四駄糯米一駄片馬蕎  
 麦壹駄皆納浅岸村喜藏分一駄片馬未納ノ由報知(六  
 日付武平手紙)アリタリ

一三 宮内省ヨリ手当半ヶ年分六〇〇・〇〇受取

(29)

国許武平及横浜叔母へ手当左ノ如シ

蕎麦一駄、糯米半俵、小豆壹斗金五・〇〇 武平

糯米壹斗 小豆五升 横浜叔母

一六

午前八時出ノ汽車ニテ発シ途中ヨリ岐阜県多額納  
 税議員渡邊甚吉夫婦ト連レニナリ名古屋ニテ乗換ノ

上午後九時過岐阜今小町津ノ国屋方へ着泊 一七

弁論(日脱カ)ノ為滞在夜停車場近傍ナル濃陽館ニテ代言人  
 県会議員等ノ饗応アリ震災救助費ヲ県知事カ帝國議

会ノ議員選挙ノ折干渉ニ濫費シタリトノ評声甚喧シ

一八

午前六時四三分ノ汽車ニテ岐阜ヲ発シタルニ関ケ  
 原伊吹山辺雪アリ九時頃敦賀線ノ接続地ニシテ琵琶

湖ノ東端ナル(抹消)〔前〕(加筆)米原停車場ニ於テ降雪ニ逢フ山

科辺ヨリ西ニハ積雪眼ニ触レス最初岡山若クハ尾道

マテ通フス積リナリシカ岐阜ニテ通(抹消)〔シ切手〕ヲ

売ラサリシ故神戸ニテ数分間ニ切手ヲ買ヒ且山陽鉄

道会社ノ汽車ニ乗換ノ面倒サト急シサカ厭ハシク且

広島ニ余リ早く着スル都合故寧口(ママ)嶺岐ノ琴平神社へ

詣フテント(抹消)〔神戸〕(加筆)〔午後二時頃三ノ宮〕ニテ下車スル

ヤ直ニ海岸通栄町三丁目西村へ赴キ蒸氣船ノ都合ヲ

問合セタルニ今夕六時発ノ大阪商船会社ノ汽船ニ乗

込メハ広島へ丁度好加減ニ着スヘキ趣ナルニ安堵シ

嶺岐国多度津迄ノ切符ヲ求メ六時過神戸棧橋ヨリ吉

野川丸ニテ出帆ス

一九

午前三時多度津着船直チニ解ニテ上陸シ同所高見

二〇

屋ニ泊午前八時三十分多度津発ノ汽車<sup>(ママ)</sup>ニテ琴平ニ赴<sup>(採道)</sup>ク<sup>(加筆)</sup>十五分計リニテ着停車場ハ神社ノ所在地ナル象頭山下ヨリ僅ニ式丁程隔ツノミ山下ノ通りハ両側旅宿ニテ坂へ掛レハ両側ニ守札箱真田織等産物類ヲ商フ店連ナルコト恰モ江ノ島ニ於ケルカ如シ中段ニ社務所アリ<sup>(採道)</sup>又<sup>(採道)</sup>守札ヲ出ス又登レハ旧社アリ夫ヨリ又登レハ新社アリ総テ白木造リニテ莊嚴ナリ社側ヨリ眺ムレハ多度津辺マテ一円ニ見渡シ眺望頗フル佳ナリ坂ハ総テ花崗石ニテ段ヲ作り立派ナレハ中々登リ悪シ坂ノ両側ニハ百円以上寄附者ノ氏名金額ヲ刻ミタル石碑大ノ石幾ツハナク立アリ下山守札箱ヲ求メ十時五十分琴平発ノ汽車<sup>(ママ)</sup>ニテ十一時頃多度津ニ帰ル正午備中玉島へノ郵便船アル趣故乗船ノ為メ帰リタレハ旅宿ニテハ問ニ合ハス迎世話セス致方ナク止ム多度津旅宿ノ風義悪キハ遠近評判ノ由午後<sup>(採道)</sup>一時人力車ニテ一里余距リタル善通寺ニ赴ク此処ニハ鉄道停車場アレハ八丁余隔ル夫ヨリ引返シ屏風浦海岸寺ニ詣ツ共ニ弘法大師ノ旧蹟ナリ弘法ハ屏風ヶ浦ニ生レ戰場ヶ原ニ棄ラレ善通寺村ニ拾ハレタリト云フ小娘ノ束髪ニ黒網ヲ掛ケ肴<sup>(加筆)</sup>女<sup>(加筆)</sup>ノ籠ヲ頭ニ乗セタルモ万笑シタヨリ風出雨降ル着船毎ニ船名寄港ヲ夜中タリハ触レ廻ル按摩ノ呼声ヲ聴ク如シ

前日来ノ風ニテ三時頃着クヘキ商船会社持船名草丸カ漸ク午前五時入港直チニ乗船風未タ全ク収ラス

(130)

二三

九時頃尾道ニ立寄り竹原辺ニテ霰降レリ漸々後レテ午后三時頃広島宇品港ニ着此港ハ海面ヲ埋立テ築キタルモノニテ花崗石ニテ護岸ノ石垣ヲ組立頗フル立派ナリ船ハ棧橋へ横付ニナルコト神戸ニ於ケルカ如シ芝清五郎出迎居リ同道ニテ広島大手町三丁目吉川欽蔵方へ着泊夜清水新三赤松則<sup>(採道)</sup>来ル<sup>(加筆)</sup>

控訴院ニテ弁論夜芝、赤松ノ案内ニテ春和園ト称スル料理店ニ赴ク園ハ浅野侯ノ所有ニテ使用ヲ許シ置クモノ、由先年山田伯随行ノ折モ此処ニ招カレタリ控訴院長牟田口通照書記官早田来ル

今朝出立ノ積リナリシニ明日判決書渡アル迄是非滞在ヲ請ハレ致方<sup>(加筆)</sup>ナク<sup>(加筆)</sup>同意午前十時芝ノ案内ニテ清水、赤松夫婦同道ニテ五里許西ナル地御前村ニ車行シ同所ヨリ家根アル小舟ニテ厳島ニ渡ル有名ナル鳥居下ヲ通航シテ<sup>(加筆)</sup>十二時頃<sup>(採道)</sup>神社ノ廻廊へ<sup>(採道)</sup>直着ニシタリ廻廊ニ掛連ネタル書画ヲ案内者ノ指示ニ随テ拝観シ二時頃紅葉谷ナル料理店ニテ昼食シ朝鮮征伐ノ折太閤秀吉カ軍評定ヲシタル所ト云フ広キ拝殿ノ如キ千疊敷ト称スル建物ヲ觀土産ノ飯杓子、盆、竹箸杯買求メ元ノ道ヲ戻リ夕六時頃帰寓

午前八時二人曳ノ人力車ニテ吉川ヲ発シ廿日市、玖波、小方、大竹、新港ヲ経テ十二里距リタル周防国岩国町へ午後一時頃着有名ナル錦帯橋ヲ觀且ツ渡リ橋本ナル米平方ニテ昼食直ニ引返シ六時半帰寓岩

国八本ノ田舎町ニテ橋ノ外觀ルヘキモノナシ岩国広島間ノ道路ハ平坦ナルノミナラス誠ニ好キ途ニテ大方巖島ヲ詠メツ、歩行クナリ

二四

朝七時半大阪商船会社持船佐波川丸ニテ宇品ヲ出帆シ吳軍港、音頭(音頭)ノ瀬戸、竹原等ヲ経テ一時少シ前備後国尾道港ニ着同所ハ棧橋ナケレト殆ント横着ナリ浜吉(天画)棲ニテ昼食中同県人ニテ尾道支部ノ書記ヲ勤メ居ル名久井実ト云フ人來訪一時五十六分同所發ノ汽車(マイ)ニテ發シ福山、岡山、姫路等ヲ経テ半時間計リ後レ夜十時頃神戸着大阪行ノ官線列車ニ接続シ兼タル故止ムナク又西村ニ一泊

二五

朝九時二分三ノ宮停車場ヲ發シ十時頃大阪着北浜專崎ハ知り合ナルニ付キ同家ヘ立寄(加筆)午人力車ニテ大阪城、天王寺、生玉社、商業俱樂部ト新町等巡見三時頃帰寓シタルニ横田伯母、末次郎、來訪末次郎歸リ龜入代リ來訪伯母一泊高橋健三來訪

二六

嚴霜ニテ寒氣強シ横田伯母同道ニテ十時二十分(加筆)坂界鉄道難波停車場ヲ發シ住吉ニ詣ツ四社アリ人力車ヲ借ヒ(加筆)大和川ヲ渡リ和泉国堺港ニ赴キ浪花ノ笠松、(抹消)信長ノ遺愛ト称スル妙国寺ノ蘇鉄ヲ歴觀シ天川屋儀兵衛ノ末葉ト称スル店ニテ名物ノ刃物類ヲ求メ午後一時ノ汽車(マイ)ニテ帰寓山田家ノ吉村吉右衛門來訪

二七

朝七時半大阪ヲ發シ山崎辺ヨリ朝霧殊ニ深ク九時

過京都下京祇園境内ニシテ昔シニ軒茶屋ノ一ナル中村樓ヘ着十時頃人力車ヲ僦ヒ四條通りヲ二里許ナル嵐山ヘ赴キ同所郭公ト称スル茶亭ニ昼食山景渡月橋丹波ヘ帰ル引舟杯詠メ屋後ニ当ル天龍寺(元治ノ頃長州暴徒ノ宿所御陵アリ)嵯峨野ノ清涼寺、楠正行ノ首塚、小室ノ妙心寺、(抹消)北(加筆)千代ノ古道サシ石、北野天神、金閣寺(南天床柱)、西陣、御所、寺町通新京極、祇園社ヲ巡覽巡拝シテ五時頃帰寓岩田信來訪木屋町ノ某樓ヘ案内シテ鴨川ノ夜景及京都ノ舞子ノ舞ヲ觀セシム

二八

朝十一時出掛下加茂神社(紀ノ森、紀ノ池、柊、夫婦榊)ヲ始メ智恩(抹消)院(加筆)寺俗二百万遍(百万遍ノ元祖ニテ千八十ノ珠数ハ御所ノ桜ニテ作レリト云フ)全国神社ノ総締ナル吉田神社、極楽寺真如堂(千夜念仏ノ本元)、黒谷光明寺(熊谷蓮生坊發心ノ場)、若王寺、永觀堂見顧リ如來古池、(上ノ二所紅葉ノ名所)南禅寺石川五右エ門ノ窟居シタル寺山門(後陽成帝ノ清涼殿、綱吉將軍桃山御殿)瓢亭休業ニテ鳥本ト称スル新料理店ニテ昼食(疏水インクラインノ極端)栗田口清蓮院(中川宮ノ旧住)智恩院(大釣鐘七万坪五千八百畳)円山、弥阿弥ホテル、夜核、真葛ヶ原、太閣北政所建立高台寺、清水觀音、八坂塔、等東山諸名所ヲ巡覽巡拝シ大仏、三十三間堂、東西本願寺ハ時喜(マイ)後レタルカ為メ廻リ兼タリ



〃 浜吉払	500	〃 南禅寺見料, 絵図	050
尾道浜吉茶代	500	〃 鳥本昼食, 手当	540
〃 大阪間中等車代	1 400	〃 清蓮院見料	020
新聞, 弁当, 団子, 楳柑	220	京都智恩院見料	030
大阪朝日毎日	030	〃 高台寺 〃	015
神戸西村払	500	〃 清水觀音御影	005
〃 〃 茶代	1 000	〃 〃 焼牛, 馬, 人形	350
難波住吉間上等車賃二人分	240	〃 祇園中村楼払	6 520
住吉杜守札及住吉躍笠二	050	〃 〃 〃 茶代, 下女手当	7 000
難波江笠松見料, 絵図	040	〃 東京間中等車賃	6 610
堺鉄砲丁代	1 970	手荷物足シ錢	450
〃 妙国寺蘇鉄見料, 絵図	030	新聞	095
住吉堺間人力	160	弁当, すし, 茶	200
堺難波間上等車賃二人分	480	電信	150
大阪北浜専崎払	8 100	静岡大東館払	700
〃 〃 〃 茶代下女手当	7 000	〃 〃 〃 茶代	800
〃 〃 〃 小僧手当, 新聞	130	總	高
大阪京都間上等車賃	810	買物	134 860
京都嵐山郭公昼食, 茶代	570	茶代, 手当	4732
〃 妙心寺見料	210	宿泊, 昼食, 弁当	(朱練)
〃 加茂社守札	010	船車賃	3095
〃 百万遍珠数見料, 賽錢	110	守札, 賽錢, 見料	2856
〃 黒谷光明寺見料	020		2693
〃 永觀堂見返如来見料, 守札	120		110
			134 860
			(朱練)

(1892) 明治25年





(35)

二七 <sup>(採消)</sup>熱氣アルニ付キ宮本仲ニ診察セ <sup>(ママ)</sup>

発熱シタルニ付キ昼前事務所ヨリ帰途宮本仲ノ診察ヲ受ケタルニ「インフルエンザ」ノ軽症ナル趣ニ付キ帰宅臥床熱度ハ <sup>(採消)</sup>終 <sup>(加筆)</sup>ニ四十度ニ達セス

二九 四月一日ヨリ当座預ケ金ノ利子年〇三六五ノ割合ニ引下ル旨第二七銀行ヨ申来ル

四月日

一三 法典調査会主査委員ノ辞令書ヲ受ク

一五 インフルエンザ快癒尤モ咽ハ未タ常態ニ復セサルカ如シ右ノ為メカ臥病前ニテ彼程好ミシ煙草欲シカラス医ノ勸メニ任セ此序ニ廢烟ス

一九 母君ハ富田ヒサ、女髮結職某同道新橋発一番汽車 <sup>(ママ)</sup>

ニテ(午前六時)京大坂見物ニ赴カル尤モ今夜ハ名古屋泊リ元ト自分名古屋迄行ク序アルニ因リ前後ノ都合ヲ付ケ御同伴ノ積リナリシカ任意ヲ果サス  
午後名古屋滞在ノ信岡雄四郎ヨリ開延日繰り上ケノ模様ナルニ付キ即刻出發スヘキ旨ノ電信来着止ムヲ得ス夜九時五十分新橋発ニテ出立

二〇 朝九時過名古屋上園町旅人宿丸屋交左衛門方へ着尤モ浜松ヨリ岡山兼吉同車セリ午後楠秀選安藤静信岡雄四郎安居喜三郎親族二人岡山兼吉等来訪セリ但此日ハ意ニ審判ノ場合ニ至ラス

(36)

二二 楠秀選ノ弁護ヲ終ヘ夜魚半(百春楼トモ云フ)ニ

於テ開カレタル東京法学院々友会ニ岡山ト共ニ臨席  
二二 朝九時四十五分名古屋発ノ汽車ニテ京都へ向ケ出

発沖野忠雄夫婦ト同車午後四時頃京都麩屋町俵屋ニ着母君達見物中ニテ留主ナリシ夜有名ナル都躍ヲ視ル上等棧敷ニテ〇二〇舞子カ立タル薄茶ト菓子ヲ出ス飾り付ハ紫震殿、清涼殿、丹後宮津港、嵐山ト四変ナリ

二三 母君達同伴歩ニテ三十三間堂、親鸞上人そば喰木像、妙法寺ヲ見物シ午後四時名古屋へ向ケ出發同市河文楼へ泊ル翌日警部長山田吉雄ヲ訪ヒ母君達名古屋城見物ノ世話ヲ頼マントシタルニ巡回先ヨリ未タ帰ラヌ趣故翌朝迄待タレト逢ハス止ムナク手紙ヲ残シテ <sup>(ママ)</sup>

二五 朝十時頃名古屋発ノ汽車ニテ夜半帰京 <sup>(ママ)</sup>

五月日

一 弁護士ノ登録ヲ受ク

四 小作人共へ仕米付及施与米左ノ通り渡シタル旨武平ヨリ報シ越ス

<sup>(朱書)</sup>(三ノ二八、四ノ二四、五ノ三ノ手紙)

片馬 長四郎  
老駄 巳之松(採消)〔長四郎〕

片馬(朱書) 久左衛門

同(長四郎名義ニテ) 三ノ二八  
同(別段貸) 同

同(家根延月替ニ付手当) 三ノ二八 同

老駄 大吉

老駄 政之助

老駄 亀吉

同(別段貸) 四ノ二四 同

片馬 清蔵

片馬(朱書) 栄助親類

(後略)

八 彦根表安居きのヨリ来電ニ付キ夜九時五十分発ニ

テ同処へ出立セシ処途中ニテ三時間後レ静岡発一

九 番汽車同様ノ時刻割ト為リタル故午後一時ニ着クヘ

キ彦根へ四時少シ過着旧城内ノ公園楽々園内ニ泊ル

同園ハ彦根城主井伊掃部頭(ママ)ノ後園ニテ琵琶湖ニ添ヒ

中ニハ近江八景ヲ擬トリ頗フル好シ建物ハ同シク旧

城主ノ別荘ノ残りニテ旧形ノ三分ノ一ニモ足ラヌ由

ナレト中々ニ広シ一番奥座敷ハ湖水ニ臨ミ風景頗ル

ナリ(採消)〔佳〕ナリ飲食物ハ劣等待遇方モ田舎ジミタリ楽

々園ハ料理屋兼旅人宿ニテ京都人カ仮遊ヒニ来ル所

ナル由

一一 夜半彦根ヨリ帰京

(37)

国許ヨリ本宅障子、囲垣、別宅土蔵勝手修繕ノ義  
ニ付申越ス(朱書)〔五ノ三、八、一〇手紙〕

上田隆へ貸置タル別宅ノ一部立退タルニ付キ跡ヲ中  
野某母へ月五拾銭ニテ貸渡シタリ

一九 森岡某(岩手県書記官)へ貸置タル本宅去ル五日

ニ明渡サレタル由ニ付キ武平家族ヲ本宅へ引渡ラセ  
タル処諸道具諸共引移濟ノ趣申越シタリ

(朱書)〔五ノ一八手紙〕

二四 午前十一時四十分発ニテ新橋ヲ出立午後六時頃静

岡大東館へ着翌日開廷延期ニ付キ十一時頃静岡出立

榎原周次郎高梨鎌次郎笹原才次郎後藤某同行江尻ニ  
テ下車人カニテ清水港朝陽館ニ着館ハ同地ノ有名ナ

ル博徒次郎朝(長カ)ノ建シモノト云フ町ハ(採消)〔田舎〕(加筆)漁師町

ニテ名高キ丈ノ影ホトモナシ午後暴天気ト為リタル

ニ付一泊

二六 午前九時過江尻発(ママ)ノ汽車ニテ沼津迄ハ前同様ノ同

行者ヲ伴ヒ午後四時新橋着

月 日

六

一一 朝六時四〇分上野発(ママ)ノ汽車ニテ矢野禎吉私書偽造

詐偽取財未遂ノ新公訴事件弁護ノ為メ仙台地方裁判

所へ向ケ出発夕七時仙台着嶺八郎停車場迄出迎其案

内ニテ停車場脇旅人宿陸奥ホテルニ宿ル大場茂馬来

一一

訪菊池武平モ盛岡ヨリ八時過着シタルニ付キ同宿ス  
開廷前地方裁判所向ナル大場事務所ニ休憩ス庭前  
頗ル美ナリ開廷時刻遅延シタルニ付キ結審ハ点灯ナ  
リシ矢野ノ弁護人ハ嶺大場ノ外田代及他ノ仙台弁護  
士一名ナリ川上勝淑ハ母病氣ニ付キ横手へ帰省中ニ  
テ加ハラス夜嶺ノ妻君来訪 翌朝七時過出発

一九

過ル七日頃老駄ニ付四・三〇ニ<sup>(加筆)</sup>売払タル百駄  
ノ内三〇駄ノ代金二三八・〇〇ト十四日二四・七五換  
ニテ売渡シタル五〇駄ノ代金二三七・五〇合計金三  
七五・五〇第一国立銀行支店送金手形ニテ到来

<sup>(朱書)</sup>〔六ノ一九付手紙〕(264)

東京法学院々友会評議員二〇名ハ同会ヲ代表シテ会  
計外ノ学校事務ニ参与シ度旨ヲ申出タルニ付キ維持  
員等評議ノ上其請ヲ容レタ七時富士見軒ニ於テ会食  
ス

二二

宮内省内蔵寮ヨリ上半期報酬金六〇〇・〇〇請取  
第二七国立銀行ヨリ上半期(昨十二月十一日ヨリ  
本月十日マテ)分利息一〇三・六九一請取

二八

小石川区関口台町七五番地野村猪三家屋敷ヲ月二  
四・〇〇ニテ借受ケ引移ル

二九

米七拾駄代金三三二・〇〇(老駄四・六〇)ノ内二  
五<sup>(抹消)</sup>五<sup>(加筆)</sup>〇〇第一銀行送金手形ニテ到着残り七  
〇<sup>(抹消)</sup>二<sup>(加筆)</sup>〇〇ハ予備金ニ宛武平手許ニ取置ク

<sup>(朱書)</sup>〔六ノ二七日付手紙, 264〕

月 日  
七

二二

一番<sup>(マヤ)</sup>汽車ニテ新橋出發熱田海岸伊勢屋久右衛門方  
ニ泊翌朝八時半熱田出帆ノ小蒸<sup>(マヤ)</sup>汽船ニ乗ル此間二  
里計リ解ヲ要シ不便ナリ十一時半頃伊勢四日市関西  
鉄道停車場脇旅人宿吉高屋彦吉ニ着出迎ノ名古屋弁  
護士多湖実ト共ニ昼饗シ午後二時十分同<sup>(抹消)</sup>行<sup>(加筆)</sup>車<sup>(車)</sup>ニ  
テ出發龜山停車場ニテ津行ノ汽車ニ乗換三時十二分  
出車四時二津ニ着直チニ市端レナル極楽町<sup>(マヤ)</sup>聴潮館ニ  
泊ル<sup>(抹消)</sup>熱田<sup>(熱田)</sup>当市ハ觀音前通り中ノ番町地頭領町ハ最  
モ繁華ニシテ立町万町杯之二次ク想像セシヨリハ好  
キ処ナリ旅館ハ料理屋兼業ニシテ当市第一等二位ス  
ルモノ、由此外ニ尚ホ一軒同様ナル家アリ夜間ニテ  
能ク知レサリシモ庭前杯ハ旅館ニ優ルニ似タリ旅館  
ハ川ニ瀕ミ居ルカ其川ニ沿テ下リ海岸ニ出レハ贅<sup>(贅)</sup>  
崎トテ遊処アリ夜間ハ旅館ノ上下ヨリ納涼船来リテ  
賑フコトアリ

二五

多湖同行ニテ<sup>(加筆)</sup>八時頃<sup>(八時頃)</sup>旅館ヲ發シ四里十丁余ナル  
松坂町ニテ小憩ス同処ハ三井家ヲ始メ豪商ノ出身地  
ニシテ今モ尚ホ富裕家多キ由過般ノ火災ニテ家並未  
タ揃ハヌ部分アリシ夫ヨリ五里十丁余ニテ山田町ニ  
達<sup>(抹消)</sup>ス<sup>(加筆)</sup>タル頃ハ十二時<sup>(抹消)</sup>頃<sup>(加筆)</sup>クナリシカ故ニ  
五時間費シタル割合ナリ直チニ<sup>(抹消)</sup>内<sup>(加筆)</sup>宮ニ参拜シ

(13)

テ町ノ中(抹消) (加筆)ナル坂ヲ上リ有名ナル古市ノ油屋  
 二着昼食セリ(抹消) (加筆)市ハ坂途ニ家建セシ処ニテ油  
 屋ノ如キハ二階ヲ除クモ四段ニ為リアリ油屋今ハ純  
 粋ナル旅人宿ナルカ建(抹消) (加筆)ハ頗フル広大ニテ皆  
 電鈴ヲ付シアリ有名ナルお紺ノ室ナリトテ示ス所ハ  
 八畳敷ニ四畳敷カニテ八畳床ノ間ノ椽ハ貝摺ノ梅花  
 散シテ襖屏風ハ都テ金色燦爛四畳ノ方ニハ同女ノ用  
 ヒシト云フ茶道具杯アリ実ハお紺ノ室ナラヌ由ナレ  
 氏此間ハ客間ニ用イ(抹消) (加筆)平常ハ鎖鑰ヲ施シ置キ  
 所望人アレハ開テ見スルナリ最下層ノ部屋ハ裏隣ノ  
 寺地ニ接シ障子ヲ開(抹消) (加筆)下ニお紺ノ石碑  
 見ユルナリ二階下ヲ奥ニ行ケハ躍ノ間連テ以前伊勢  
 音頭ヲ躍リシ広間アリ椽側ハ二重ニ為リ其間ニ敷居  
 アリ一方ハセリ出シニ為リ居リシト云フ伊勢音頭今  
 ハ備前屋ニテ催フスモノ第一等ナル由帰期迫リ居ル  
 身ニハ態々泊リテ観ル程ノモノニモ有間敷寧口二見  
 ケ浦ノ朝日ヲ観ルニ若カスト坂ヲ下リテ内宮ニ赴キ  
(抹消) (加筆)五十鈴川ニテ洗手ノ上礼拝シ杉槻等大木森々  
 ノ中ニ跚躑(抹消) (加筆)スレハ炎日燬クカ如キ日ナリシモ清  
 涼ニテ爽快ヲ覚フ神殿ハ六十年目毎ニ改築セラル、  
 例規ナルカ昨年遷宮式アリト云フ境内ヨリ山路ニ  
(抹消) (加筆)入り五六丁登リ詰ムレハ朝熊山(抹消) (加筆)  
(加筆)ニ至ルヘケレ氏四時頃ニテ炎暑烈ク  
 且時間少シ後レタレハ逆橋ヲ渡リ名物ノ箸、盃、杯

(14)

二六

冷カシ人力車ニテ二里ノ田甫道ヲ走り日暮二見  
(抹消) (加筆)ニ着目指シタル海水浴ト称フル旅宿ハ滞  
 留客充滿シ居リタルカ為メ第一等ノ旅亭角屋ヲ試ミ  
 ルニ何地モ海水浴流行ノ為メ部屋ナク終ニ角屋ニ次  
 ク松坂屋ニ一泊一浴ヲ試ミタルニ揚ケ潮時ニヤ噂ノ  
 如ク遠浅ナラス食後名物ノ貝細具(エカ)、箸、盃、硯、置  
 石杯買求メタリ先年皇太子ノ滞在セラレタル離宮ア  
 リ

早朝ニ起出テ浜辺ニ到リタルニ生憎曇リテ紅皷ヲ  
 見ス空ク五十繩引渡シタル大小ノ岩石ヲ詠メテ帰宿  
 朝飯後町外レヨリ左ニ折レテ朝熊(抹消) (加筆)村ニ至リ廿一  
 丁ト聞ヘタル坂ヲ登リタルニ一丁毎ニ石碑大ノ丁数  
 ヲ表シタル石路傍ニ立テアリ半腹ヨリ頗フル險峻ト  
 為リ頂上休茶屋ノ家根見ユル頃ハ息殆ト絶ン様覚ヘ  
 タリ朝熊山ハ海面ヲ抜ク五百尺計リノ由小憩ノ後六  
 七町進ミ行ケハ虚空藏尊ヲ安置スル所アリ(加筆) (志摩)  
 鳥羽港及其付近ヲ見渡ス其境ヲ出レハ有名ナル万  
 金丹ノ本舗野間国彦ノ薬店アリ余程(抹消) (加筆)手広ナル家  
 ナリ坂ノ下リ口ナル茶屋ニ再憩シ二見ケ浦ヨリ山田  
 町ノ方迄見渡スハ頗フル佳景ナリ下リハ半時間計リ  
 ニテ麓ニ着十時半過朝熊村ヲ出車シ十二時又山田町  
 二着吸霞園ニ昼食ス同シ道ヲ戻リ途上稲木ノ店ニテ  
 有名ナル壺屋紙製ノ(抹消) (加筆)煙草入ヲ求メ杯シ又松坂ニ  
 休ム松坂山田間ニハ万金丹ト煙草入屋数多アリ他ノ

住家ノ蠱末ナルニ比シテ不釣合ニ立派ナル店ノミナ  
 リ車夫ハ昨日ヨリ引続キ走りタルカ故〔老〕年寄リタ  
 ル方カ辞退シ新手ヲ入継ヲ急カシタルニ幸ニ七時十  
 分津発ノ汽車ニ間ニ合ヒタリ一人引ナリシカ車代ハ  
 往返一・六〇但シ朝熊山ヘ廻リタル分ハ別ニ請求シ  
 タリ天春又三郎ハ多湖ニ代リ同車シ矢張亀山ニテ乗  
 換ノ上九時前四日市着料理店松茂樓着支ニ付キ旅人  
 宿十久村屋ニ案内セラレテ一泊

二七

天春ハ頻リニ桑名、養老、新蟹江村ヘ同行ヲ勤メ  
 タレ任余暇ナキニ付キ再遊ヲ約シ八時頃四日市出帆  
 〔尾張国〕大野ヘ立寄熱田沖ヘ着タルトキハ汽車時刻  
 ニ半時間ヲ余スノミ乗合人ト協議シ特別艀ヲ雇ヒ帆  
 ヲ揚ケテ走りタレ任遂ニ間ニ合ハス元來熱田四日市  
 間ノ汽船ハ東海道及ヒ関西鉄道ノ汽車トノ連絡ヲ謀  
 ラス殊ニ関西鉄道トハ競争ノ地位ニ立カ故ニ態  
 ト汽車ノ便ヲ計ラヌモノナルヘシ汽船ハ桑名ヘ通フ  
 モノ四日市、津〔山田〕杯ヲ経テ鳥羽迄迄往復スルモ  
 ノアリ日和好キ時分ハ四日市二行二三時間待合セ  
 テ汽車ニ乗ルヨリ津ヘ直航スル方時間ハ短シ尚參宮  
 スルニモ山田近所ノ港迄直航スル方早道〔ナリ〕  
 〔加筆〕  
 〔二シ〕テ安直ナリ夜八時頃熱田発ノ〔夜〕汽車ニ乗込  
 朝帰京少々蚊二喰ハレタレ任涼シクテ旅行ハ楽ナ  
 リシ

二九

乙種当座預金通帳ヲ第二七銀行ヨリ請取符号ハ

月 日

三

先月廿日頃帰国ノ筈ナリシニ急ニ伊勢路ヘ赴キタ  
 ルカ為メ後レ漸ク朝六時四十分上野発ニテ盛岡ヘ向  
 ケ出発停車場ニテ野州温泉場ニ赴クトテ一條基緒、  
 忠郎、ノ兄弟ニ逢タリ中等ハ込ムナラントノ見込ニ  
 テ上等切符ヲ求メタルニ盛岡迄〔夫婦〕二人前ニテ一  
 三・一〇即チ一人前六・五五ナリシ夕七時頃仙台停車  
 場前陸奥ホテルニ一泊嶺夫婦來ル翌日ハ彼等同行ニ  
 テ塩釜、松島巡遊ノ積ナリシニ折悪ク雨模様ナルカ  
 故ニ

四

朝一番汽車ニテ盛岡ヘ向フ松島停車場ニ至ルマテ  
 ハ沿道满目皆稲田殆ト山ヲ見サル有様ニテルモ伊勢  
 地方田面亀烈ノ様ニ引替生立好ク愉快ヲ覚フ一ノ関  
 ニテ横濱伯母様幾慶ノ新婦照子及ヒ兄弟共ニ逢ヒ伯  
 母ヲ連レテ一時頃盛岡停車場ニ着小作人出入ノ商  
 〔入矢〕〔武平〕父子出迎居レリ直ニ外加賀野〔八〕  
 〔加筆〕十六番戸ノ本宅ニ向ヒ十一ヶ年振ニテ自宅ニ入  
 リタリ翌日ハ神子田裏ノ南部邸ニ夫婦ニテ伺候シ  
 〔普提寺久昌寺ニ參詣シ〕午後真知事服部一之ヲ訪フ  
 〔加筆〕

六

小作人出入商工一同打寄酒宴ヲ催シ大黒舞杯アリ  
 稗貫郡長太田時敏及横濱幾慶夫婦ハ〔名〕花卷及一ノ

関ヨリ島田ヤス、吉島キク（横濱伯母ノ娘ニテ従妹ニ当ル）小原安（池）亡池田伯母ノ娘ニテ矢張従妹ニ当ル）等来訪矢島田横濱武治、其母妻等ト内丸秀清閣ニテ晩饗ス

八 七時頃夫婦武平同道ニテ紫波街道ヲ赤林迄車行シ同所ニ在ル長松小作ノ畑ヲ見分シ同人宅ニ小憩シ大吉前導ニテ羽場（抹消）（加筆）（政之助）宅ニ到リ其預リ田畑ヲ檢シ乍ラ大吉宅ニ着（抹消）温飽ノ馳走ニ逢日中仮寝ノ後亀吉栄助清藏ノ宅へ順序ニ立寄夕刻帰宅ス

九 鶴子長四郎方ニ車行シ同人、巳之松、久左衛門ノ小作地ヲ巡視シ長四郎方ニテ昼食ニ温飽ノ馳走ニ逢ヒ午睡後帰宅ス夜食後上田農夫坂本安孝ニ招カレ八幡三上亭ニ行

一〇 午前横濱伯母、島田善躬夫婦ノ案内ニテ片原裏ノ下田栄光留守宅に行同人母（横濱ヨリ出タル人）ノ接待懇切ナルヨリ終日遊ヒ夕方帰宅ス

一一 島田善躬ノ案内ニテ東中野村字門ナル（故）菊池金吾ノ別荘ニ行家ハ元ト福士某ノ建ル所ナル由清涼ナレト山近クシテ陰気ナリ夜服部知事弁護士伊東圭助、小山武美等ノ催セシ晩饗会ニ赴キ帰途宮城控訴院長大塚正男、仙台地方裁判所長水尾訓和、司法書記宮波多野敬直ヲ十三日町ナル旅人宿村八ニ訪フ今着セシ計リノ所ニテ別派出ノ司法属小田資治モ泊リ居レ

一四 五時廿五分発ノ（汽）車ニテ大塚、水尾同道シ花巻ニ

テ太田夫婦一ノ関ニテ横濱夫婦、母、弟妹共ニ逢ヒ松島停車場ニテ下車シ廿丁余人力車ニ乗リ松島町觀月樓ニ着嶺夫婦、大場茂馬待合セ居リ昼食後伊達伯ノ所有ナル觀瀾蜜、五大堂、政宗ノ像アル瑞嚴寺ヲ觀四時近クニ船ヲ僱シテ松島群島間ヲ航過シ途中扇谷海無量寺ニ登テ（抹消）湾内ノ全景ヲ詠メ塩釜近所ニテ釣魚ヲ試ミ三時間ヲ経テ夕景塩釜町海老屋支店ニ投宿ス大場ハ此夜帰宅ス

一五 大釜神社塩釜神社ヲ巡拜シ塩釜社務所ニテ休憩ス同所モ眺望好シ総シテ松島町ヨリハ塩釜ノ方島嶼ノ見晴シ好キ様ナリ尤モ松島町続キノ富山ト云フ所ニ登レハ絶景ヲ眺ムヘシト云フ午前十一時塩釜発ノ（汽）車ニテ陸奥ホテルニ帰着昼食後嶺八郎夫婦大場等ト躑躅ヶ岡、同所ヨリ下テ政岡事戸沢初子墓、夫ヨリ県庁地方裁判所前ヲ通り常盤町ニ入り片平町ヨリ遙カニ旧城内ヲ詠メ終ニ清水小路ナル陸奥ノ園ト云フ料理店ニ晩食シ散步ナカラ東四番町廿一番地ナル嶺ノ宅ニ一寸立寄大町ヲ経テ国分町ニ遊歩シテ帰宅ス

一六 朝一番（汽）車ニテ出発（抹消）日光（宇都宮）迄ハ夫婦限ナリシカ同所ヨリ日光婦ノ西洋人数人乗込始テ他人ノ道伴ヲ得タリ前日福島御山通一番地ナル湊芳蔵ニ報知シタレト不在ナリシカ停車場ニ来ラス夕七時過帰

京八時過帰宅ス

二六 二二日付武平ノ手紙ニ

一 外川又蔵ヘノ貸金六六・〇〇ヲ廿ヶ年賦ニシ本年分半額一・六五受取済

二 鶴子ノ久左衛門嫁取ニ付キ米吉駄此秋迄貸付ク

三 七七番戸ノ半分ヲ一ヶ月一・〇〇ニテ長嶺喜代吉

ナル者ニ貸シ敷金三円預リタリ

四 夫婦滞在中〔<sup>(兼通)</sup>〕予備金ヨリ支出セシ特別費ハ左

ノ如シ

真綿上中人扱

19450

人力車

8780

荷物為〔<sup>(兼通)</sup>〕運賃 (大小六箇)

5940

鹿角紫木綿四反

4600

山田屋料理代三度分

4540

陸奥館ニテ見送人ヘノ酒菓代

2450

鉄瓶一

1750

小作人出入商工馳走代

1950

新聞紙代

545

挟箱覆函, 箆筒, 書物篋, 隅板

430

荷造リ苳繩代

250

下駄ノ緒

215

盛岡着報知電信料

150

麦売帽子二

110

大吉方ヘ饅頭代

100

辰田郎ヘ 同

100

淺沼徳次郎ヘ

100

聖國十郎惣代

51460  
〔<sup>(朱筆)</sup>〕 66000

旅費100 + (おち用總分)

20ノ内旅費

90000

156000  
〔<sup>(朱筆)</sup>〕

合計 〔<sup>(朱筆)</sup>〕 207,460

三一 〔<sup>(加筆・朱筆)</sup>〕

三二 〔<sup>(三二)</sup>〕

三三 〔<sup>(三三)</sup>〕

同県遠野ノ人菊池千代(故英次郎ノ母)ヨリ〔<sup>(加筆)</sup>〕小柳

要吉所有ノ〔<sup>(兼通)</sup>〕本郷湯島天神町一丁目六拾七番地ニ在

ル木造柿延月二階家五坪七合五勺 (二階坪五坪七合

五勺) 畳建具共代金二五五・〇〇ニ買受ケ当日登記

済登記番号ハ第五十一号ト第百廿一号ナリ

〔<sup>(朱筆)</sup>〕 (277,287,357)

斯波淳六郎ヘ金四〇〇・〇〇〇貸ス期限ハ廿七年二月

ナリ伊藤悌次承リ〔<sup>(朱筆)</sup>〕 (267)

九月 日

二

菊池千代ヘ二五五・〇〇ノ預リ金証書ヲ渡ス但シ  
遠野表多田安女ト当地福田圭機ト兩名ノ添書ヲ以テ  
請求スル時ニ限り何時ニテモ返却ノ約ニテ千代ノ懇  
願ニ出タルモノナリ

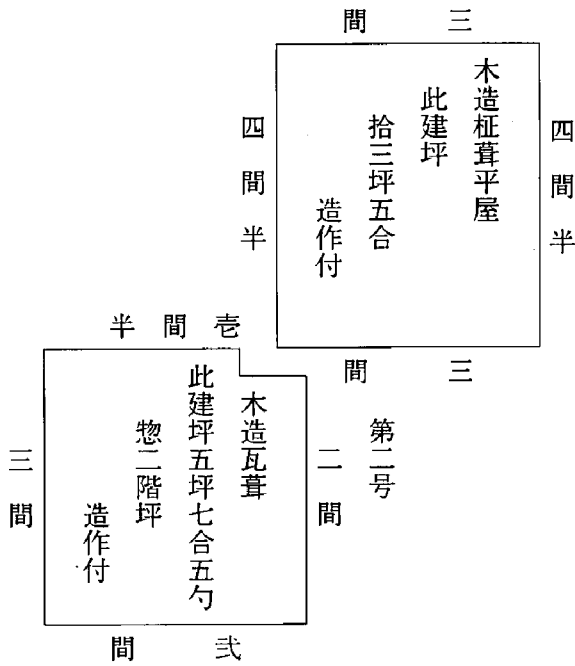
小柳要吉ニ借地証ヲ入ル地坪ハ三六坪ニシテ借地料  
八一ヶ月金一二六ノ約ナリ(一二付、〇三五) 右差  
配人三組町九四番地高瀬雅彦ナリ

(貼紙)

明治廿六年二月八日遺産相続本郷区湯島天神町

一丁目六拾七番地

第壹号



坪合計參拾六坪也

(14)

四 米四〇駄売払代金二〇八・〇〇(一二付キ五・二

〇)ノ内一四三・〇〇国許ヨリ送り来ル

月 日

一〇

(未納) [(267 & 九) 二日付(未納)]

二二

残米五駄片馬一駄ニ付キ四・九〇ニテ売払其代金  
二六・九五ハ予備金へ繰込タル旨国許ヨリ申来ル

(未納) [(222 & 一〇) 二日付(未納)]

小作人□□ハ過般窃盗ノ廉ニテ罰レラレタルニ付キ  
小作召放シノ筈ナリシガ此夏帰県ノ時彼家へモ立寄  
リタルニ付キ今更嚴重ノ沙汰ニモ及ヒ難キカ故当分  
歟頭大吉及ヒ此隣小作人亀吉ノ監督ニ付シ尔後不都  
合アラハ容捨ナク小作取揚ケノ処分ヲ為スヘキ旨申  
聞ケルコトニ申来リ承諾ス

(未納) [(一〇, 一〇) 日付(未納)]

二五

安東敏之ハ去月二七日名古屋ニ於テ営業スルカ為  
メ彼地へ出立タル砌錢別トシテ二〇〇・〇〇呉遣ハ  
シ何時ニテモ入用ノ折為替ニテ送ル約束ニシタル処  
今般当地ニ於ケル諸支払差引残額貰受ケ度旨申来ル  
ニヨリ第二七銀行ニテ為替ヲ組ミ一七五・〇〇送り  
遣ハス(未納) [(266)]

吉川義質ハ恩給ヲ受ル身ナルカ三ヶ月毎ニ下渡サ  
ル、カ故其間千葉表医学校ニ入学ノ子息ニ送ル金差  
支フルニ付キ毎月五・〇〇宛立替貫ヒ度恩給金下賜  
ノ都度一五・〇〇宛返(未納) 金(未納) 濟ノ約ニテ今ヨリ立替



二六

ヲ始ム(朱書)〔266〕  
 横田欽太郎ハ借財整理差支ルニ付キ一六五・〇〇  
 立替(抹消)〔貫〕(加筆)ヒ度返済金ハ来ル十一月ヨリ毎月五・  
 〇〇宛差入ルヘキ約ニテ無余義其請ニ応シ右趣意ノ  
 借用証書取置ク(朱書)〔266〕

月 日

一

一 十一時二五分ニテ上野ヲ発シ夕五時半頃(盤城カ)盤城國白  
 河町柳屋ニ泊ル翌二日朝六時頃信岡雄四郎盛岡ヨリ  
 来リ会シ共ニ同所福島地方裁判所支部ニ出頭ス

三

朝飯前旧城趾ニ登リ眺メタルニ朝霧ニテ遠方見ヘ  
 ス僅ニ町外近辺ノミ眼眸ニ入ル城ハ東西ニ屏立スル  
 小山々脈ノ(抹消)問(加筆)僅ニ開ケタル(抹消)問(加筆)ニ在リテ西ニ  
 阿武隅川ヲ扣(抹消)元(加筆)ト結城其ノ築キタルモノト  
 云フ昼少シ前半里許隔リタル南湖俗ニ大沼ニ車行ス  
 昨雨始メテ晴レタル処ナレハ道路宜シカラス然レモ  
 湖辺ニハ楓数(抹消)多(加筆)アリテ松ノ間ニ散在シ風景嘉  
 スヘシ此湖ハ文化年中有名ナル楽翁(抹消)三(加筆)ノ(公)ノ回復  
 セラレシモノナル旨(加筆)儒臣(抹消)士(加筆)古賀(加筆)廣瀬(加筆)某ノ撰  
 文ニ係ル碑アリ今ハ白河町ノ公園ニテ貸席ヲ為ス家  
 一軒アリ町民ハ弁当持參ニテ遊ニ来ル処ナリ尤山越  
 シスレハ町マテハ距離僅少(抹消)ナリ(加筆)ニテ新地ト称シ  
 前県令三島通庸カ遊女屋ヲ移シテ一廓ヲ為サシメン

二六

〔(抹消)六  
 板倉ヘ窓ヲ開設シ本(抹消)家(加筆)流シ張換ノ旨申  
 来ル(朱書)一六日付武平手紙〕

八

猪智腸窒扶斯ニ罹リ臥床尤モ三四日頃ヨリ頭痛及  
 ビ身体ノ疲労ヲ訴ヘ居タルニ今日櫻村清徳ノ診断ニ  
 因テ病症判ル

一〇

愛宕下慈恵医病院ヨリ看護婦二人ヲ雇入ル尤モ一  
 人ハ翌日来ル山龍堂病院ヨリ医員二人各晩ニ泊ル

一八

板倉ニ窓ヲ設ケ本家流シヲ張換ヘタリ  
(朱書)一六日武平手紙

二五

茹入テ存外実入ナキヲ発見シタル由ニテ多少納米  
 ニ苦情アルヘキヤノ懸念アリ且秋荒ノ為メカ例年ヨ  
 リ初穀入後シタル旨申来ル

二八

二年二ノ二初穀入二三 早納皆納一ノ二六異作惣引米ノ上年賦貸  
 三年一ノ二四 一ノ一 一ノ二六 水書引榮助政之助  
 三年二ノ九 一ノ二六 一ノ二三  
 四年一ノ二五 一ノ二〇 一ノ二五  
 五年一ノ九 一ノ二四 一ノ二五  
 六年一ノ二六 一ノ二四日武平手紙  
 七歩乃至一割五六分ノ(抹消)未(加筆)納者アルヘシト予  
 想セラル、ニ付キ仕付米ノ名ヲ以テ貸付及ヒ臨時褒  
 美ヲ約シテ予防スル方然ルヘキ旨申来ル貸付米ノ割

合ハ予告セサル方宜シ且臨時褒美ハ後例ヲ遣サ、ル  
様取計フヘキ旨返答ス〔朱書〕二七日武平手紙〕

月 日  
一 二

三 去ル一日武治義県属ニ採用セラレタル旨報シ越ス

〔朱書〕二日武平手紙〕

一〇 大吉ハ本家浅沼某借金ノ証人ト為リテ災ヲ蒙リ龜

吉ハ馬喰ニテ失敗シタルカ為メ兩人共手許不如意ノ

由依テ後來誠ノ義申遣ス〔朱書〕九日武平手紙〕

一二 赤林所有畑側官有草生地私下願書案送り来リ調印

シ遣ル〔朱書〕一日同上〕

一七 歳暮金品左ノ如ク配与シタルニ

一蕎麦壹駄 餅米半俵 小豆五升 金一〇〇〇

武平

一餅米壹斗 小豆五升

一々 々 々 武平

武平ヨリ礼状来ル且畑代四〇〇〇入タル旨報ス

〔朱書〕二六日武平手紙〕

二三 猪智快気祝ノ印トシテ見舞呉タル人々へ紅白餅ヲ

配ル看護婦(残りノ一人)引払

廿日ニ大場振舞済タル由収納米ハ

一米 一九〇駄

一糯米 一々片馬

一蕎麦 一同

収納済余ハ収入ノ見込ナキニ付キ左ノ通貸付度旨申  
来リ同意ス

駄 名前 年賦

一 長四郎 皆納ナレ氏家根替ニ付キ

二、五 巳之松 三ケ年 内片馬与惣吉

一 久左衛門 々

四 大吉 々

四 龜吉 々

一、五 清蔵 々

三 政之助 々

二 栄助 皆納セシモ来一ケ月ニ貸付

喜蔵、仁助、治太郎(林)皆納

□□父子ハ窃盜ノ科ニ処セラレタルニ付キ一旦小作  
地召放シ大吉龜吉へ預ク尤モ右兩人ノ下小作人ト為  
ル義ハ黙許シ若シ信用ヲ回復セハ小作地ヲ再ヒ預ケ  
ル旨ヲ申論シ右ノ誓約書ヲ取リタル旨申来ル

誓約書

私共父子当春不心得ノ廉有之地頭菊池武夫殿ハ小  
作地兼家屋共被取上右地処浅沼大吉猿館龜吉へ相  
渡シ速ニ立退万申候処左候テハ私一路途ニ立迷ヒ  
候ニ付キ貴殿ニ於テ其事情被深察一旦立退ノ姿ニ  
シテ是迄ノ通住居且大吉兩人ノ下小作人ト相成両  
人ニ対シ我意ノ所業ハ勿論小作米等ハ急度相納可

申候万一向後不心得ノ義有之候節ハ地所ハ不及申  
 家屋被取上候共怨念且一言ノ子細無之候仍テ誓約  
 書如伴

□□印

明治二十六年十二月

長男 印

菊池武夫殿留守引受人

本家  
立会

弥一 印

菊池武平殿

印紙  
約定証

相小作人□□□□父子当春不心得ノ義有之□□預  
 リノ小作地及ヒ田家共兩人へ御委托相成候ニ付テ  
 ハ小作米ハ勿論都テ小作ニ係候義ハ栄助ニ於テ御  
 約定申上候通急度相守小作米ハ無滞相納万申候証  
 人連署証書仍テ如件

浅沼大吉 印

明治二十六年十二月

猿館亀吉 同

菊池武夫殿

藤村長四郎同

吉田勇次郎所有地ハ反武歩小作米一〇駄片馬ヲ七四  
 五・〇〇ニテ取引シ度ト申込ノ由依テ七〇〇・〇〇ナ  
 ラハ現金売買スヘキ旨申遣ス〔武平二一日付〕

二六 第二七国立銀行ヨリ当座預金利子ノ割ヲ年四歩ニ  
 引揚ケ来年一月ヨリ実行ノ旨申シ来ル

二八 家内ヘノ歳暮ハ母君及ヒゑキノ分例年ヨリ多シ右  
 ハみち病中格別骨折タルカ故ナリ母君及ゑき共例年  
 ハ七円也

一五・〇〇 母君 〇・五〇 薫、笹、啓磨、貞  
 一〇・〇〇 みち 〇・二五 濱、香、一郎、操  
 〇・〇〇 ゑき

明治二七年  
甲午年

一月七日

昨年中国許ノ出入勘定ハ大別左ノ如シ尤モ一昨年  
 ヨリノ越高ハ除ク

入 (295) [出]

収納米売払代〔(222)〕	937 250	
東京ヨリ廻付金	110 000	
畑代、山役錢、炭売払代	50 361	
家賃	48 450	
雑収入	6 300	
〔東京へ為替金〕		(朱書) 768 500
〔諸税金〕(230付属表ノ裏)		(朱書) (391) 790
		(加筆) (232)
(朱書) 武平作人等へ手当		66 010
(朱書) 修繕費		32 068
(朱書) 雑費		9 316
		1,152 361
		(朱書) [7 783]
		(朱書) [差引不足]

1,160 144  
〔1,160 144〕  
(未納)

一 浅沼大吉所有地

大字下飯岡十一地割二十九番字田中

田式反式畝十六歩 百苜

地価五八二四二

一五 ヲ十ヶ年有合ニテ一三〇〇〇ニ買取貫度尤モ買戻年限中ハ利息ニ宛一ヶ年蔵米式駄片馬ヲ差出シ諸公費ハ大吉ニテ負担スル〔抹消〕〔スル〕コト並ニ年限ニ至リ買戻シ兼ヌル節ハ地価騰貴セハ其丈大吉足シ遣ハシ下落セハ手前ノ損ト致呉度旨申出タルニ付キ買取ヲ承諾セリ〔武平一ノ九手紙〕

一五 前記代金及ヒ第四期地租、地方税ニ宛第一国立銀行送金手形ニテ一八〇〇〇登記委任状共武平へ送ル〔抹消〕〔274〕

二六 此日付ニテ浅沼大吉ヨリ左ノ証書差入同日登記済トナレリ

永代売渡証書

紫波郡飯岡村大字下飯岡第一七地割二十九番字田中

一田式反式畝拾六歩

此地価金五拾八円式拾四銭式厘

此売買金百參拾円也

印 一錢六枚  
紙 六枚

右地所今般売買ニ付キ前書金円正ニ請取永代売渡候処無相違候尤此地所ニ付キ地ニ故障無之若シ故

障等出来候節ハ本人并ニ証人ニテ罷出屹度埒明貴殿へ御迷惑相懸申問敷候為後日之永代売渡証書仍テ如件

紫波郡飯岡村大字飯岡

売渡人 浅沼大吉 ㊦

明治廿年同郡同村大字永井

一月廿六日 証人 小笠原興惣治 ㊦

菊池武夫殿

地所登記第百六十七号

〔抹消〕〔登記済〕〔明治廿〕七年一月廿六日

登記済

〔裁判一カ〕  
盛岡区  
才半所  
印

同時ニ〔加筆〕〔五ヶ年ノ〕有合ニテ買戻シ得ル旨ノ添証モ差入レ之ニ対シテ当方ヨリ返リ証ヲ遣ハス筈ナリ〔抹消〕〔シカ〕〔第一五三丁ヲ見ヨ〕

三 月 日

九

夜九時半猪智同伴ニテ宮中ニ伺候シ銀婚大式ニ付キ御催シノ舞楽陪観立食并銀製鶴亀彫刻菓子入菓子ヲ賜フ

四 月 日

二七

盛岡本宅〔加筆〕〔并別宅〕廻リノ柴垣修繕ニ付キ並柴二〇

(50)

駄(一把五〇本 四把ニテ一駄) 三・〇〇位並杭一〇〇本一・二〇横  
 手小割一五〇本一・〇五垣結夫七人一・四〇合計六・  
 六五ノ予算ナル趣(朱書)〔武平四ノ二六手紙〕  
 浅沼大吉ヨリ更ニ五〇・〇〇買増シ其代リ有合ヲ廢  
 メ真実ノ永代売渡ニ致シ貫度旨申出タリ(朱書)〔同上〕  
(朱書)  
(朱書)  
 三〇〇〇金二・〇〇〇〇第二七銀行ヘ一ケ年定期預ケ利  
 子年五分五厘ノ約(朱書)〔279〕

五月日

一 四月二十八日付手紙ニ封入差送リタル所得税届及  
 ビ養女届共昨三十日届済ト為リタル趣

〔武平四ノ三〇付手紙〕

豊川痴疑雄長女(孫消)ハツ事沼津ノ弁護士榊原周次郎  
 ヘ縁組内定ノ処先方ノ望ニ因リ手前養女トシテ嫁入  
 サスルカ為メ左ノ届出ヲ差出シタルナリ

養女届

用紙ハ半紙 盛岡市加賀野八十六番戸

養父

菊池武夫

妻

(孫消)〔加筆〕  
〔子〕〔イ〕チ

盛岡市志家三番戸豊川痴疑雄長女

ハツ

明治六年十一月廿六日生

(51)

右菊池武夫養女貰受候也

戸主 菊池武夫印

明治二十七年四月廿八日 女家戸主 豊川痴疑雄印

盛岡市長清岡等殿

豊川ヨリモ養女ニ呉遣候也トノ同式ノ届書ヲ差出シ  
 タルナリ

結婚届ハ双方本籍所轄役場ヘ差出ス趣

所得税納入地届

一金參百円

合反別式拾町五反六畝歩合地価金五千貳百八

十式円小作米貳百九拾俵壹俵參斗七升入代金

五百八拾円南岩手郡本宮村大字向中野紫波郡

飯岡村大字下飯岡、永井、羽場ニ於ケル田畑

貸付ノ所得

外ニ

金百四拾五円 地租

金參拾參円 地租割

金貳拾九円 村税

金七拾円 管理費

小以金貳百七十七円

右ハ御所轄南岩手郡内ノ所得金ニ有之候処税金ハ

東京市小石川区ニ於テ合算ノ上相納候ニ付キ此段

及御届候也

本籍寄留

明治廿七年四月十七日 氏名

南北岩手紫波郡長松橋宗之殿

市ノ分ハ県知事宛ニ差出スヘキ所加賀野志家新庄浅岸分ハ

小作米二〇俵此代金四〇〇〇

税金 一、二、八八二地租 三、三、二二地租割 合一七、九四二

管理費 一、八四 村費 三〇、〇〇〇

ニテ差引利益ナキニ付キ届ケス然ルニ郡役所ニテハ所待(抹消)金高ヲ始メ反別地価地租其他ノ税金管理費共毎村書分ケ差出スヘキ旨申シタレト武平ニテ無理ニ押付ケタル由

一五

一昨十三日午前六時四十分上野(汽)汽車ニテ函館へ出發同夜仙台へ一泊翌朝同処午前六時廿五分発ノ(汽)汽車ニテ午後一時頃盛岡停車場へ着武平父子根子久平等二面会武平持参ノ昼食ヲ食シ且夕飯ニ宛ヘキ弁当ヲ貰ヒ直ニ出發鉄道敷設以來初度ノ旅行地(三戸以北ハ曾テ見タルコトナキ所)故退屈薄ク盛岡辺ハ梨花毛散残リテ檜花ノ盛ナルニ(其以北)青森近辺迄ハ桃、梨、山桜咲キ交リ山野ノ気色頗フル佳青森間近ノ原野ヲ除クノ外(汽)汽車ヨリ見渡ス限リハ開墾ノ届キ居ル様子三戸以北ノ線路ト東ニ折レテ(旧)八戸領ニ入ルモノ、如シ三戸城跡ハ古杉鬱叢トシテ保存行届居ル(カ如シ)ト見ユ九時頃青森浜町鍵屋銀之

(52)

助方二十分間計リ休憩シ同処十時出帆ノ郵便会社(汽)汽船ニ乗込(鍵屋ハ荻ノ浜ノ鍵屋ト同家ナリ)翌午前五時頃函館港(着)東浜町勝田弥吉方へ着八木橋栄吉佐藤鉞太郎須賀芳久等東京法学院々友弁護士來訪セリ此前渡港シタル(八)明治二十年故山田伯ニ隨行シタル時分ニテ八年前ナルニ其頃ヨリハ市ノ幅員余程広カリタル様覺フ夜検事正法学士山下雄太郎來リ勝田温泉ニ赴

一七

昨日函館控訴院ニ出頭シ矢野禎吉ノ弁護ヲ為シ夜院友弁護士及ヒ其他ノ院友等ノ招ニ応シ其饗応ヲ受ク今昼八木橋等ト湯ノ川(温泉場)林長館へ乗合馬車ニテ赴キ昼食沐浴夜十二時出帆ノ郵船会社(汽)汽船ニ乘リ込ム浅野店法学士白石元次郎ニ逢フ

一八

朝五時半頃青森鍵屋へ休憩朝飯ヲ食シ直チニ浦町停車場ニテ六時十分青森発ノ(汽)汽車ニ乗り昼過盛岡加賀野本宅ニ着矢野禎吉無罪ナル旨ノ電報佐藤鉞太郎ヨリ達ス夜横濱幾慶島田善躬ノ招ニ応シ八幡町三上停ニテ晩食ヲ為ス横濱叔母島田ヤス、其他クラ、マサ、忠治、長四郎、大吉等來ル

- 上野青森間舟等押賃 5.46 (米)
- 三戸陸奥ホテル宿泊料 2.91 (米)
- 青森函館上陸船賃 2.50 (米)
- 青森船賃 20 (米)
- 〃 鍵屋休憩料 1.00 (米)

函館船 10 (朱点)

湯ノ川林長館 3.00 (朱点)

函館勝田宿泊及買物 7.89 (朱点)

〃 〃 茶代手当 5.00 (朱点)

〃 〃 船 10 (朱点)

〃 青森上等船賃 2.50 (朱点)

青森船 100 (朱点)

〃 健屋休憩料 1 900

青森上野上等汽車賃 9 080

盛岡武平へ手当 5 000

〃 陸奥館休憩料 1 000

仙台陸奥ホテル宿泊料 2 910

矢野禎吉へ手当 10 00

予備金トシテ武平へ渡ヌ 10 00

70 65 (朱点)

浅沼大吉地所愈永代売渡ト為リタルニ付キ同人ヨリ  
左ノ小作証書ヲ差入レタリ

小作証書

印紙錢

下飯岡第拾七地割式拾九番字田中

田式反式畝拾六歩 此苅百苅数拾三枚

此小作米參駄 但シ老俵三斗七升入

右地所私預リ手作仕候相違無(加筆)候小作米ノ儀  
ハ精々相撰上米ヲ以テ年々十(抹消)二(加筆)月中ニ貴殿

御差函ノ処へ附入可申万一相滞候ハ、私持馬并厩

肥杭長木梁下夕家財御引取可被下若不足之節ハ保

証人ニテ弁納可致其共延引及候ハ、催促人御遣可

被下其節ハ賄ノ上一日老人ニ付キ日履金貳拾五錢

ツ、相渡可申候尤凶作其他虫害青立等之節ハ貴殿

へ御見分待候上鎌入可致候小作証仍テ如件

下飯岡

明治二十七年 小作人 浅沼大吉 (朱印)

五月十四日 保証人 浅沼孫太郎 (黒印)

菊池武夫殿(第一四九丁ヲ見ヨ)

二〇 昨午後一時四十分盛岡発仙台二一泊(同夜)九時前

帰宅 (兼之) (加筆) 明治十八年浅沼徳次郎へ田地抵当ニテ拾

円貸付置タル処利子差入無之打過此頃拾壹円ニテ勤

弁ヲ乞来候ニ付キ承知シ左ノ委任状ヲ武平へ遣ハス

委任状

拙者儀地所書入公証取消ノ儀ニ付キ (マ) ヲ以  
テ部理代人ト定メ左ノ権限ヲ代理為致候事

明治廿七年五月 氏名

月 日 六

七 明治十七年富沢武理へ金五〇・〇〇貸置タル処此度

左ノ年賦証ヲ差入レタル趣申越ス

(153)

印紙

年賦約定証

北岩手郡田頭村大字田頭第十七地割七十一番字木ノ下

田反別式反壹畝七步(米俵)(169)

同七十二番字同

田反別壹反五畝十五步

同第拾八割七番地字朝日田

田反別式畝式拾五步

右地所抵当トシテ明治十七年三月十一日書入金五十円拝借罷在候処今般特約ヲ以テ五ヶ年賦済崩ノ儀御聞入相成候ニ付キ当明治廿七年ヨリ同三十一年迄一ヶ年金拾円宛毎年十二月二十日限急度返納可致若シ一期タリモ延滞致候節ハ本約定取消一時御請求相成候共異論無之候且又右備用金ニ対スル最初差入置タル借用証并公証取消ノ義ハ年賦金皆済ノ上取戻可申候右約定証仍テ如件

北岩手郡田頭村大字田頭乙三十六番戸

明治廿七年五月八日

富沢武理

印

菊池武夫殿

右ニ対シテ手前ヨリ左ノ念証ヲ遣ハシタリ

年賦約定証ニ対スル念書

去明治十七年三月十一日北岩手郡田頭村第十七地割七十一番田式反壹畝七步外式筆合反別參反九畝十七分ノ御所有地抵当ニテ金五十円利付御借用相

七月日

成候処今般尚明治廿七年ヨリ同三十一年迄毎年拾円宛其年ノ十二月二十日限御払戻シ可被成若シ一期タリトモ延滞被致候ハ、当方ヨリ一時ニ金額請求可致且前掲借用差戻并抵当公証取消ノ義ハ御借入金皆済ノ上ニ可致旨ノ年賦約定証御差入相成候事實正也右約定証ノ趣ニ付聊異存無之候為後日念書仍テ如件

明治廿七年六月九日

菊池武夫

印

富沢武理殿

(米俵)(169)

午後二時四分強地震事務所南側ノ屋根及ヒ煉瓦壁崩壊シタリ幸ニシテ誰モ化(マ)俄(マ)ナシ(加筆)南隣ノ下宿屋ヘ手当一〇〇〇遣ハス本宅裏煉瓦二階造西洋室ハ煙出ヲ初メ壁破綻シ積直サ、レハ用ニ立タヌ程ナリおちハ香一郎操ヲ兩脇ニ抱(マ)椽側ニ立居ル際強震来リタル為メ転ヒ落香一郎ノ前齒三枚抜懸リ唇切レ鼻血出タレモ外別条ナシ事務所南半分ハ新建足シナルニ木造ノ外ニ半枚煉瓦ヲ積上ケタルモノナレハ外ニ崩ル、コトアルモ家内へ落掛ル氣遣ナキ構造ノ由葛西技師申聞ク同工学士ノ差図ヲ受ケ南壁ハ煉瓦ヲ皆取崩シ瓦ノ間ニ壁土ヲ置キ昔ノ屋敷塀ノ構造ニスルコト、為シタリ



二 夜八時頃榊原周次郎ハ其姉ト共ニ来リ豊川ヨリハ

痴疑雄母来リ吉川義質夫婦ハ媒酌ヲ為シハツノ婚義  
ヲ濟セ十二時頃新夫婦ハ榊原ノ旅宿ニ歸レリ翌日ハ  
ゑき、よし、本宿数代来リ親類ヘノ引合ヲ為シ吉川  
夫婦モ来会セリ四日朝六時榊原夫婦ハ沼津ヘ出立セ  
リ

三 先月十七日約定済ノ売米百駄代金五(抹消)六(加筆)五〇・

〇〇及糯米壹駄代五・九〇合計五六〇・九〇ノ内五五  
〇・〇〇安田銀行盛岡支店ノ送金手形ニテ到来武  
治ハ胃病武平ハ転テ膝蓋骨ヲ損シタル趣(抹消)〔982〕

(武平七ノ二日付手紙)〔983〕

四 左ノ届書ヲ国許ヘ送ル「スミ」ノ節ハ夫ノ連印ヲ

要シタルト今ハ要ラヌト申ス者アルニ付キ手前丈署  
名捺印シタリ

婚姻届

盛岡市加賀野八十六番戸士族菊池武夫

養女

ハツ

明治六年十一月廿六日生

右ハツ静岡県駿東郡沼津町城内四百五番戸同県士

族榊原周次郎妻ニ具遺シ候也

右戸主

明治廿七年七月二日

菊池武夫 印

盛岡市長清岡等殿

(朱書)榊原周次郎 印

(欄外注記、朱書)  
〔貴方ノ届ニハ無要ナレト呉方ノ届ニハ双方ノ連署  
印必要ナル旨武平ヨリ申越ス(二七ノ七ノ八手紙)〕

一四 盛岡表ハ氣候順当ニテ早苗ニハ雀知ラスト唱フル

出穂アリ二年分モ收穫アルヘキ由申来ル

(朱書)〔七ノ一三武平手紙〕

一七 ゑき名義ニテ第一一九国立銀行ヘ特別当座預ケ初

ヲ為ス通帳番号ハ第五七七四七番利八年五分四毛附込  
見積金高式万円自明治廿七年至同三十二年七月十五  
日満五ヶ年也此口積テ三〇〇・〇〇以上トナラハ薫  
ノ嫁入費用トシテゑきニ具遺ハス心組ナリ(抹消)〔983〕

二一 中津川水源ノ山林所有主錢懸ノ五助鼻子ノ善助太

田小次郎并拙者代理武平等ハ太田ノ宅ニ集会シ檜巻  
間従来〇・二四ノ処〇・二〇ニ炭竈壹(抹消)〔加筆〕四季ニ  
割毎季五・〇〇ニ定メ炭竈設置ノ節ハ山持主ヘ申出

鑑札貰受ケ焼済ノ上ハ持主ヘ鑑札ヲ返スヘク返サ、  
ルトキハ月割ヲ以テ竈役錢取立若シ又無鑑札ニテ入  
林スルカ檜伐リノ節松杉桧ノ角材伐採スル者ヲハ規

約ノ罰ニ当ルカ告訴スルコトニ定メ規約書起草ノ上  
持主九人及山守等ニ調印致サスル等ニ評決シタル由

(朱書)〔七ノ二〇武平手紙〕

二六 持山ヨリ檜三百八十五間三分七厘売払右代価トシ

テ山役錢七七・〇七四収入相成リ(巻間〇・二〇)炭

竈式工築立右ニ対シ一〇・〇〇〇收入相成ル筈

(朱書) (七ノ二五武平手紙)

山守佐々木村松ハ其所有山新庄村第二十一地割廿六番字中津川(抹消)山二四四町壹反三畝六步地価金三六・

六二ヲ有合ニシテ二〇〇・〇〇〇借受度申出ニ付キ年

利一割カ一割二分ニテ五ケ年ナラ然ルヘキ旨武平ノ

見込ノ由又鼻子ノ善助ト申ス者ノ持山千二百町余

一、二〇〇・〇〇〇位ニテ売却相成リソウニ付キ太田小

次郎ト半分宛買受ケテハ如何ト太田ヨリ申込アリタ

ル由(朱書) (同前)

二七 武平手当ハ此迄三、〇〇〇ナリシヲ今月ヨリ月五、〇

〇ニ増給スル趣申遣ハシタリ

二八 当座預リ金利率此迄年四歩ノ処来八月ヨリ四分八

厘ニ引揚ル旨第二七国立銀行ヨリ申来ル(朱書) (145)

八 月 日

二 母君ハ笹、貞、濱、下女梅、事務所ヨリゑき、薫、

啓磨ヲ伴フテ鎌倉海浜前勝見医士ノ持家へ出発セラ

ル清水弁、菊池元朔モ付添行翌日帰ル香一郎、操ハ

百日咳未タ全治セサルニ付キ同行見合ス

七 表座敷雨漏ニ付キ大工へ修繕申付タル二二・一〇

ナリ瓦師ハ未タ積書差出サ、ル旨申来ル

(朱書) (五日付武平手紙)

八 去ル五日米七五駄壹駄五・七五替ニテ(加筆) 四二二・

二五二売払ヒ五日間二金二三一・二五来ル二十日二

残二〇〇・〇〇〇請取筈ノ処第一ノ割払金受取済前月

ヨリノ持越金高八五・〇〇(抹消)ト合セ金三二六・二五

ノ内二〇・〇〇〇地租割、一〇・〇〇〇予備金三・三三瓦

屋根修繕二・〇〇塀足取替メ三五・三三引残二八〇・

九〇ノ内二八〇・〇〇安田銀行送金手形ニテ到来

(朱書) (288) 瓦屋根師積書八一・二三ナル由生ケ町小野寺

茂兵衛妻病死ノ趣同人ハ一時ゑきノ乳母タリシ者ナ

リ土用前ヨリ暑氣減退セス旧盆頃ニハ中、奥共稲花

納ルヘク早苗ハ既ニ鎌入レタル由稀有ノ豊作ナリ

(朱書) (七日付書留武平手紙 & 284)

一八 猪智、香一郎、操、香一郎乳母クマヲ伴ヒ朝九時

二十分新橋発ノ列車ニ乗ル筈ノ処出宅ノ節強雨ニテ

人力車ノ雨覆懸閉チ鬱陶シキ為メカ操ハ途上嘔吐ヲ

催フセシニ付キ宮本仲へ廻リ其診察ヲ乞ヒタルニ因

リ乗リ後レ十一時四十五分ニテ出発

二二 母君、ゑき、啓磨ヲ伴ヒ帰京尤ゑき翌日ハ又鎌倉

へ戻ル

(朱書) (159) 二十日請取ルヘキ二〇〇・〇〇ノ米代(加筆) 金ノ内一

〇〇・〇〇安田銀行送金手形ニテ到来残半額ハ晦日

マテ猶予シ與ルヘキ旨申出聞置タル由又中津川筋山

林持主等ノ規約案ハ左ノ通り(朱書) (ナル由) (加筆) (二テ) 各調印

済トナリタル由(朱書) (廿日付武平手紙)

(58)

壹錢  
印紙

中津川筋山林所有者一同協議ノ末

規約ヲ取結ヒタル条件左ノ如シ

第一条 山林所有者タルモノ互ニ新睦ヲ旨トシ毎年大勘定ノ節ハ一同集会シ山林保護上ノ儀其他薪炭山出銭ノ事ヲ協議決定スルコト

第二条 前条ノ旨趣ニ基キ山林所有者ハ常ニ互ニ注意ヲ為シ山林ニ火入等ヲ為ス者アルトキ又ハ盜伐木等ヲ見付ケタルトキハ誰彼ヲ問ハス見付次第取押其山主ニ引渡シ相当ノ所分ヲ為サシメ山林保護ヲ專トスヘキコト

第三条 真木剪出ノ寸尺ハ從來一定ノ規則アルニモ拘ハラズ近年木剪ノ者猥ニ木尺ヲ長クシ山主ノ不利益少ナカラス仍テ自今左ノ通木出シノ寸法相定メ嚴重ノ取締ヲ為スヘキコト

一 真木丈 中積 三尺五寸  
縁り木 三尺六寸

但從來長木ト称シテ切出シ候モノハ自今堅ク差止メ候コト

第四条 前条ノ如ク定ムルト雖任万一長尺ニ切出シタルモノ有之節ハ検査ノ節相当ノ歩増ヲ為シ山役銭ヲ出サシムルコト

第五条 木剪人ニ於テ山主ノ許諾ナクシテ松栗等ヲ自假ニ剪出シタル者アルトキハ該木品ハ取揚ケ山主一同ニ於テ其者ニハ永年薪剪炭焼稼トモ山入ヲ禁シ申スヘキコト

第六条 薪炭山出銭ハ本年ヨリ左ノ通相定メ候コト

一 薪山出銭 壹間ニ付キ 金貳拾錢  
一 炭竈 壹ヶ年 金貳拾円  
薪炭ノ相場ニ依リ協議ノ上山出銭ヲ増減スルコトヲ得

第七条 薪剪出シ木流シノ際出水等ノ為メ万一流失木ヲ為スルコトアルモ壹人切貳拾五盛ノ割合ヲ以テ山出銭ヲ出サシムルモノトス

第八条 薪剪人并炭焼人トモ入山ノ節壹人ニ付キ一枚宛山主ヨリ入山鑑札ヲ渡シ置キ下山ノ節直チニ山主ニ返付セシモノトス

但無鑑札ニテ山入ノ者アルトキハ山主及ヒ見廻<sup>(加筆)</sup>人ニ於テ相互ニ吟味ヲ遂ケ各自ニ報知シ相当ノ処分ヲ為サシムルモノトス

第九条 薪剪出シ又ハ炭焼ノ為メ入山ノ者ニシテ泊リ小屋家根葺方ニ木皮ヲ用フル場合ニハ仮令ハ甲山主ノ山ニ於テ稼方ヲ為スルニ付キ乙又ハ丙山ニ於テ木皮ヲ取り其用ニ供スルヲ許サス万一右ヲ犯ス<sup>(抹消)</sup>者<sup>(加筆)</sup>キハ其損害ノ弁償ハ稼人ニテ負担スルヘキコト

右規約ノ証トシテ此約定書九通ヲ製シ各自記名調印ノ上山主ニ於テ壹通ツ、所持スルモノトス但此約定ハ協議ニヨリ改正スルコトヲ得ルモノ

トス

菊池武夫人

菊池武平

印

太田小(採酒)郎(加筆)印

糖塚義順 印

明治二十七年七月

佐々木治助 印

厨川三蔵 印

佐々木三右衛門 印

熊谷孫十郎 印

川原春松 印

(朱書)二十日付武平手紙(朱書) 佐々木村松 印

奥稲毛花納マリ七分通り実入極上作合ノ由(朱書)

塀押木及家根板取替ニ付キ大工川勘六ノ積

書送り来ル合計二、五八五ノ由

(同上)

二九 多き鎌倉ヨリ帰ル

月 日

九

五 薫、笹、貞、濱、及ヒ下女梅ヲ伴ヒ正午頃帰京

(朱書)〔157〕米七五駄壹払代残金高一〇〇・〇〇ノ内ヨリ第一期

地租金一六・〇〇ヲ差引残額八四・〇〇例ノ通安田銀

行支店送金手形ニテ到来(朱書)〔285〕(三日付武平手紙)

武治ハ粥弁当ニテ出勤スル程ニ快ク為リタル由同人

五月ヨリノ長煩ニ付キ費用欠乏シ困難ナルニ因リ米

壹駄借用ノ義申来承諾セリ(朱書)〔同前〕

二百十日ニハ輕風雨ヨリ大雨ニ變シタレト作物ニ害ナカリシ由(朱書)〔前同〕

一三

(60)

本年ハ豊作ニ付キ小作人ニ貯蓄勧誘ノ義申遣ハシタル処武平ヨリ左ノ方法ヲ申越シタリ尤粃ヲ積ムヨリハ粃代ニテ当方へ預リ利殖ノ方法ニシ度ニ付キ未タ同意ハセサルナリ

一 小作米壹駄納ノ者ハ豊年五升並年三升粃十ケ年間毎年納メサセ減納ハ許サヌコト尤納入台帳ヲ製シ置名寄ニ記シ小作人へ受取証差出スコト

二 地頭ハ助勢穀トシテ豊並作ニ拘ハラス収入米壹駄ニ付キ粃壹升宛五ケ年間毎年給与ノコト尤異作等ニテ引米スル場合ヲ除ク(収入米二〇〇駄トスレハ粃二石挽立壹石)

三 蓄積米ハ凶荒非常ノ節ナラハ使用セサルコト

四 十ケ年内ハ利付貸穀ハ一切不致十ケ年後ハ三分一以下ヲ利付貸スルコトアルヘシ

五 (採酒)〔相場〕豊作ノ折ニハ積粃ヲ二百十日頃売払テ廉価ノ新粃ト仕替ヘルコト

右ノ如クスルトキハ並年三升二地頭ノ助穀ヲ合セ五ケ年ニテ四〇石十ケ年目ニハ七〇石ト為ル計算ノ由(朱書)〔武平九ノ二二〕

〔採酒〕二〇〕二八 猪智、香一郎、操、乳母熊鎌倉ヨリ帰宅

月 日

猪智、香一郎、操、乳母熊鎌倉ヨリ帰宅

猪智、香一郎、操、乳母熊鎌倉ヨリ帰宅

月 日

一 臨時帝国議會ヲ広島へ招集セラレタルニ付キ朝六、

二〇ノ汽車(ママ)ニテ新橋ヲ発ス広島迄通シ切符ヲ買ヒ大柳行季ハ同所請取ニシ革提ハ名古屋迄ノ合札(採消)

(加筆)シタリ発程ノ日比宜シキ故議員多勢乗合上中等

非常ニ込合タリ乗車賃上等ニテ一三〇〇余ナリ当

一 夜ハ名古屋富沢町信濃屋忠左衛門方ニ泊シ翌朝一

番列車ニテ尾道へ通フス積ノ処軍隊送りノ為発車時

刻狂ヒ其意ヲ果シ難キニ付キ午後二時頃神戸三ノ宮

停車場ニテ下車シ海岸通西村貫一方ニ着好晴ニ任セ

布引瀧ヲ一覽シ帰途太田保太郎ノ病状ヲ問ヒシニ知

人寄来リ山手通中ノ常盤ト云フ料理茶屋ニ誘引シタ

リ当夜ハ恰モ旧曆九月十三日ニ当ル由ニテ月色朗ニ

(61) 一三 テ諏訪山ヨリ海原ノ詠殊ニ好カリシ翌朝九時発

(ママ)ノ汽車ハ殊ノ外ニ混雑シ殆ント乗兼タル人モアラン

ト思ハル、程ナリシ昨夜ハ須磨、舞子辺ニテ月ヲ賞

シタル輩モ多カリシト見ヘ同車ヨリ余程乗込タリ午

後四時過尾道浜吉方へ着車中ニテ朝鮮行ノ齊藤修一

郎ニ逢タリ元来此度ハ尾道ヨリ広島へ通勤セントノ

初念ニテ花井卓蔵ノ紹介ニテ先年山田伯随行ノ折顔

見識ノ豪商橋本吉兵衛へ止宿所ノ世話ヲ頼置タレト

軍隊送りノ為汽車(ママ)発着時刻変更セラレタルカ為メ此

計画ヲ果スコト能ハサルニ至レルハ遺憾ナリ其厚情

ヲ謝スル為メ下車シタル処橋本氏并其甥同姓太七ナ

ル人來訪シ同夜竹亭ト云フ料理屋へ舟ニテ月ニ乗シ誘ヒ行丁寧ナル馳走ヲ預カレタリ

一四 朝尾道区裁判所書記勤務ノ同県人名久井實尋ネ來

リ橋本叔姪モ來タリ十時過同所出発十二時過広島停

車場ニ着シタル処河上謹一ノ命ニ依リ広島地方裁判

所判事勤務ノ岩国人(加筆)佐藤信カ配慮ヲ為シ

(採消)頼ミ呉レタル宿所ノ主人土木監督署技師工学士

中原貞三郎(矢張岩国人)ハ佐藤ト共ニ出迎居リ呉

タルニ付直ニ車ヲ(採消)列ネテ中原ノ宅ナル大手町八

丁目百三十六番邸ニ着タリ幸日曜日ニテ同人等モ休

暇ナレハ午後緩々談話シ同夜春和園ニ開カレタル臨

時学士会ニ列ナリタリ同席ニハ朝鮮支那行ノ医学士

少尉若クハ士官見習ノ志願兵ナル法学士杯モアリタ

リ此園ニ赴ク途中字品ヨリ上陸シ來ル(採消)虜ノ支那

兵(採消)ヲ見(加筆)行ヲ見タル二十五六歳ヨリ五十余歳

ニ至ル年齢不揃ノ者共ニテ顔色憔悴衣服汚穢人足ト

ハ見ユレト兵トハ受取ラレヌ有様(後略)

一五 召集日ニ付練兵場内ノ仮議事堂ニ赴キ(加筆)簡

略ナル手續ニテ貴族院ハ成立シタリ夫ヨリ城内ナル

大本營ニ赴キテ天機ヲ伺ヒ帰途中ヲ彼地此地ト見

廻リテ戻リタリ昼食後貴族院内ニ陳列シタル平壤分

捕品ヲ見タルニ眼ニ着クモノハ簾織ニシテ大キサト

云ヒ色取リト云ヒ格別賑シキモノナリ戻リニ宅ヲ過

テ主人ノ詰処ニ至リタルニ川尻ニ在ルニ階家ニテ宇

品ノ方ヲ見晴シ役所ニハ惜キ好景ノ処ナリ今朝ヨリ  
第一師団兵乗込居ルニ付其容子ヲ見ント宇品ニ至  
レハ満目皆兵士ニテ港ニハ三十余艘ノ運送船居並ヒ  
兵士ヲ運フ舢ノ往来織ルカ如ク希有ノ壯觀ナリ中原  
氏ノ借宅ハ川ニ添タルモノニテ其概形<sup>△</sup>ノ如ク○  
ハ玄関ヨリ表裏座敷応接ノ間兼書齋ニテ△ハ勝手向  
ナリ而シテ○ノ部ハ全ク吾用ニ供シ呉タレハ一人ニ

(66)

一六

メ書生下女ニ至ルマテ皆信切ナル人々ニテ殊ニ幸ナ  
ルハ令闈カ調理ノ心得一方ナラス常ニ吾嗜好ニ投ス  
ル様ナル諸菜ヲ給シ呉タル一事ナリ湯ハ毎日沸カシ  
〔吳〕夜具ハ清潔ナル布団ヲ重ネ呉レタルハ待遇残ル  
所ナシ又夜ノ從然ヲ慰ムル為メ佐藤氏ハ必ス来リテ  
将棋ヲ闘ハスカ故ニ夜蘭ニ至ルマテ面白ク暮シヌ  
吳港ヨリ蒸氣船ヲ出シテ貴族院議員ヲ乗セ十時過  
宇品ヲ發シ十一時過吳ニ着シ舢ニテ上陸シタレハ直  
チ鎮守府長官有地中將ノ官宅ニ導カレ折詰ノ午餐ヲ  
供セラル了テ海軍病院ヲ見舞タルニ負傷兵ハ孰レモ  
血色甚宜ク身体ニ故障アル者ノ如クナラス平生ノ食  
物ノ然ラシムル処ニモヤ夫ヨリ海岸通り確泊軍艦松  
島ニ入レハ士官案内シテ黄海交戦中ノ模様ヲ説クコ  
ト詳ナリ艦ノ修繕既ニ成リ居タレハ着港早々ノ如ク  
慘憺タル状ハ顯明ナラス唯補修部ノ広狭多少ヲ見テ  
被害ノ浅深ヲ量ルノミ艦ニ備ヘアル有名ノ巨炮ハ交

一八

戰間モナク偶合損シタルモノト見ヘ僅カニ三〔發〕  
〔度〕發丸シタル由新聞紙及ヒ案内士官ノ曰フ所ヨリ  
實際ノ危害多カリシカ如シ此頃午後宇品ヲ發シタル  
衆議院連モ来会シ追々混雜シ出シタルノミナラス松  
島士官ノ説明丁寧ナリシカ故ニ素人ノ耐力力幾ント  
罄尽シタニ付キ今一艘ノ軍艦ヘハ上甲板ニ乗リタル  
マテニテ辭シ去リ元來シ路ヲ戻リ波止場ニ至レハ小  
蒸氣船待受ケ居同行者ヲ乗セテ宇品行ノ蒸氣船ニ送  
リ付ケタリ貴族院議員ニハ華族、老人、豪商、農家  
ノ丹那杯足弱キ人多キカ故ニ満船ノ顔色疲労ヲ現示  
セリ

一九

開會式參行 陛下臨御議事堂ハ旧練兵場憲兵本部  
ノ隣ニ仮設セラレタル木造家ニテ天井モ〔壁〕横構モ  
段幕ノ如キ青白入違ヒノ木綿張ニテ宛カラ芝居ノ陣  
屋ノ如シ然ルニ式了ルヤ議長ハ協議ノ件アルニ付キ  
待居ルヘキ旨申触レシ故〔諸議員〕其侃議場二居残り  
居タルニ式台ヲ取除ケ絨毯ヲ布直シ演台ヲ持出シ其  
下ノ段楷ニ欄干ヲ取付クルカ為メ職人現ハレ出トシ  
くカチく遣出シタルハ芝居ノ様タトノ感想尚一  
層強メラレタリ  
忽チ臨事議會ノ議案ヲ可決シ午後陸軍予備病院ヲ  
見舞タリ病院ハ藁葺長屋ニテ簡潔ナリ俘虜支那人モ  
在院シ昨日ノ敵味方向室ニ居テ平隱ニ加養シツ、ア  
リ西洋人杯ハ奇觀ナリト〔テ〕頻リニ驚歎スル由邦人

ノ酒落ナル此ノ如キハ尋常ナルノミ

二〇

市外ノ遊覽場コヒ已斐ニ登ル植木職ノ多ク住ム所ノ由高所ヨリ望メハ右八字品左ハ停車場、広島城前ハ県庁等ヲ見下シ風光佳ナリ戻リテ宮島街道ニ出テ右ニ向テ九鬼隆一ノ寓所ニ至ル家ハ此辺ノ豪家ニテ宮島街道十里許リヲ自費ニテ作りタル由先年 陛下モ御休憩被遊其記念碑庭上ニ在リ 御休息ノ家屋ハ態ニ建タルノナルニ子孫ノ瀆ス者アルヲ恐レ還御後取毀チテ燒棄タリト云フ奇特ナル人ナリ

二一

議事アリ忽チ決ス(採酒)高橋佐藤信ト同行公園饒津ニ遊フ浅野家ノ祖先ヲ祭レシ所社後ノ高地ニ登レハ掛茶屋アリテ眺望佳ナリ午後浅野侯ノ招ニ応シ其別邸泉邸ニテ立食ノ饗応ヲ受ク邸ハ庭ノ美ナルヲ以テ高名ナリ好ミ少ク細カキ方ト覺フレ氏大諸侯ノ庭園悪シカルヘキ管ナシ離レ座敷ノ一ニハ祖先カ朝鮮征伐ノ分捕品ヲ据付ケアリ

二二

閉会式午後泉(採酒)邸ニテ慰勞ノ宴ヲ賜ヒ各員ヘ大本營ノ金字アル瀬戸大杯一箇ヲ記念ノ為メ下賜セラル夜法学院々友等四五名弁護士横山金太郎宅ニ宴ヲ開テ此方ヲ迎フ又中原方ニテモ送別ノ宴ヲ張ル

二三

八時頃(ママ)發ノ汽車ニ乗ル心算ニテ停車場ニ至レハ其列車休止ト為リタル趣ニテ止ムナク昼少シ前マテ待居タルニ二度分ノ客一時ニ落合タル為メ手荷物ノ預ケ方撈取ラス荷物ヲ預ケントスレハ乘リ後ル、ノ惧

アルニ付キ荷物ヲハ吉川支店ニ托シ置キ小革包ヲ提ケテ先ツ車ニ乗タルニ車室充滿頗フル究屈ヲ覺フニ駅許リ過キタル頃(ママ)汽車止リテ中々發車ノ模様ナシ前夜列車脱線シタレハ又候事変起リタルニハ非ストテ人々心配シツ、段々聞配タルニ駅長カ上リ列車へ渡スヘキ進行証ヲ誤リテ下リ列車ニ与ヘタルニテ今シモ当駅ト後駅トヨリ態夫ヲ發シ進行証ノ受渡ヲ為サシムル次第ナルコト分リ一同罵り合ヘリ之カ為メ一時頃尾道ニ付キ昼食ノ支度ヲ調ヘル心算全ク外レ四時頃同地ニ着キタリ幸ニ軍用ビスケット罐詰肉ヲ用意シ居タレハ同車ノ知人ヘモ頒ケ与ヘタリ元來此度ノ旅行先ハ旅宿モナク人力車モナク食物モ不自由寢具モ不揃トノ評判高キ広島ナレハ各種々ナル用心ヲ為シタリ此方モ先ツ洋服ヲ製シ(加筆)「帽子付」雨衣、泥靴ヲ持ラヘ人力車ニ頼ラサルノ覚悟ヲ為シタリ明治廿三年冬ヨリ日本服ノミヲ用ヒ来リシ者カ此度服装ヲ改メタルハ軍國ノ事ヲ議スル議會ニ相應スル身装ヲ為サントノ意及ヒ(採酒)「今後ハ」帰京後ハ晴雨ニ拘ハラス事務所迄少ナク氏片道丈ハ必ス歩行セントノ決心ニ出タルナリ又議會ニテ昼食スル折ニハ弁当モアルヘケレ氏或ハ腐リタル茶杯ヲ付合ハセアルナラン夫ヨリハ軍用ビスケット罐詰牛肉杯ノ方安全ニシテ爾モ味好ントノ工夫ニテ此二品ヲ入荷ノ比例ノ許ス限り仕込シタリ又夜具ノ不足ヲ補ヒ不潔ヲ避ク

ル<sup>(加筆)</sup>〔〕両便アルニ枚統キノケツトヲ大礼服箱ノ毀ハ  
 レヌ用心旁大柳行季ニ詰込ミシヤツ類モ多ク所持セ  
 リ然ルニ寓所ハ手広ク夜具ハ卸シ立ノ厚モノニ白キ  
 上敷サヘ添アリテ殆ト自宅ノベッドニ異ナラス食物  
 ハ妻君ノ調理巧ミニシテ善ク吾口ニ<sup>(採消)</sup>〔<sup>(加筆)</sup>適〕ノミナ  
 ラス議會ヘノ距離遠カラサルニ付キ(但シ土着ノ人  
 ハ遠シト云フ)議事午後ニ跨ルトキハ寓所ニ帰テ昼  
 食ヲ為スハ容易ナリ殊ニ中原氏ノ注意ニテ人力車尅  
 輛雇切ニ約束シ呉アリタルニ付キ歩行ハ此方ノ物数  
 寄ニ属ス扱又氣候ハ例年ニナキ暖氣ノ由ニテ常ニ單  
 衣ヲ持參セサルヲ啣タシメタリ右ノ次第ナレハビス  
 ケツトヤ牛肉ノ罐ハ出スモ氣ノ毒ニテ深く柳桑折ノ  
 底ニ藏クシ置キケツト<sup>(加筆)</sup>〔<sup>(採消)</sup>モ〕日光ヲ見セス帽子付ノ  
 雨衣ハ呉軍港行ノ節只一度用ヒ滞在中日用ニ供シタ  
 ル品ハ靴丈ナリ用意ノ無ヨリ有過ル方ハ優ルニハ相  
 違ナキモ心可笑次第ナリ然ルニ帰ルニ付キ彼ノ鐘類  
 ヲ又候持歩行クモ氣ノ利タル話ナラス今更差出スモ  
 余リドツトモセ<sup>(採消)</sup>〔<sup>(加筆)</sup>又〕ト案シタル末終ニ置土産ニ  
 シタル所今朝<sup>(採消)</sup>〔<sup>(加筆)</sup>汽車〕時間狂タル由ヲ聞込ミタル妻君ハ  
 注意深クテ此ノ方ノ遣セシ鐘類ノ中牛肉トビスケツ  
 ト各一個ヲ贈リ呉タリ去レ尾道ニテ昼食ノ支度充  
 分調フ心組故其中ビスケツト十計リト牛肉ヲ貰ヒ置  
 シニ何ソ料ラン駅長ノ誤リ列車ヲ三時間近ク後ラセ  
 タレハ爰ニ始メテ吾卓見ニ出タル準備品ノ効能著ハ

月 日

〇一〇

四二

レタリ例ノ名久井氏ハ折詰ト栓ヲ抜タルビール德利  
 ニ水呑ゴツプマテ添尾道ニテ差入レ呉タレハ又モ意  
 外ノ馳走ニ有付此方ノミナラス同車ノ人々モ其<sup>(採消)</sup>〔<sup>(加筆)</sup>德〕  
 沢ニ潤ヒ栓抜瓶トコップノ添付トノ好工夫ヲ賞シ合  
 ヘリ其夜十時過神戸西村方ニ着ケルニ法学院  
<sup>(採消)</sup>〔<sup>(加筆)</sup>神戸支〕<sup>(採消)</sup>〔<sup>(加筆)</sup>関西事務〕局ノ事務員<sup>(採消)</sup>〔<sup>(加筆)</sup>塚〕早雲、宮本等  
 来リ諏訪山ノ常盤ニ伴ハント云フ去レ氏此方ノ希望  
 ハ一刻モ早ク寢床ニ入テ足ヲ伸ハスニ在リタル為メ  
 カ彼好意ヲ解シ得サリシ

今朝緩々出立ノ心得ナリシニ番頭入来リテ曰フ様  
 甚タ申シ兼タルコト乍ラ実ハ主人ノ病危篤ニテ今ニ  
 モ息ヲ引取ラン有様若シ御滞在中ニ死去シテハ彼我  
 ノ迷惑ナルニ付キ今日御滞留ナラハ脇方ヘ御案内申  
 スヘシトナリ道理コソ昨夜着ノ節ハ寒イノニ湯モ沸  
 シ居ラス杯思合スルモ無益ナレハ何ハ扱一刻モ早ク  
 立退クニ若カスト直チニサントウ井ツチノ折詰ヲ命  
 シテ三ノ宮ノ停車場ヘト飛行タリ大阪ニ立寄ルモ面  
 倒ナリ京都ニ止マル余暇ハナシ満室ノ同車議員京大  
 阪ニ下車シ尽シテ残ルハ此方ト昔ノ小大名<sup>(加筆)</sup>〔<sup>(採消)</sup>今ノ〕子  
 爵某殿トノ二人ノミ名古屋停車場ニハ安東等待受ケ  
 居リテ例ノ志那忠ヘ同行セリ翌廿五日ハ矢野才次郎



等ヲ弁護シ廿七日ハ平井報助ノ代理ヲ為シ

二八 帰京セリ

三一 収納残米九駄壹駄五円拾八銭ノ割ニテ四六.六二

ニ私ヒ予備金へ繰入タリ(抹消)(208)八月ヨリ十月迄ノ

炭竈山役銭五.〇〇収入

松尾前ノ所有畑ヲ田ニ仕換フル得策ナル旨武平ヨリ

申来ル(朱書)(三〇付ノ手紙)

月 日  
二二

二斗二升九合等ニテ比例モ得居ルニ付キ増賃ノ義申  
来ル(朱書)(一一ノ九・二二(抹消)及ヒ二二ノ二)武平手紙)

二 去月二十八日ニハ大庭振舞奉行シタル由時節征清

軍目出度凱旋并海軍敵艦撃沈ノ新形手拭ヲ配付シタ  
ル由 (朱書)(一一ノ二)

(抹消)六 昨六日ニテ小作米ハ勿論仕付貸米及ヒ滞納年賦米  
(加筆)七 トモ悉皆収納済相成タル由其種類及ヒ量ハ左ノ如シ

米 二二二駄 此石数一五六石八斗八升

餅米 一駄片馬

蕎麦 一駄

合計 二二四駄片馬

(朱書)(一一ノ九・二二・二二ノ一及ヒ六日付ノ端書)

二二 第二回軍事公債ノ募集ニ応シ九五.五〇ニテ二〇

〇〇.〇〇ヲ申込保証金トシテ二〇〇.〇〇納メタリ

証書ノ種類ハ無記名ナリ(朱書)(201)千円券路号第〇七

四九壹番、五百円券路号第壹式九壹九番、第壹式九

式〇番)

一六 山王畑貸代二〇.〇〇ヲ三〇.〇〇ト約定整新小作

代金ノ証差相成タルニ付キ旧証返戻スヘ(加筆)尤モ米

価五.〇〇積ノ割ニテ定メタレハ若シ七.〇〇余ニ騰

ルトキハ相当ニ小作金ヲ引上ホセ三.〇〇以下ニ下

月 日  
一一

一〇 六日ニ鶴子ヨリ七五駄(加筆)片馬八日ニ飯岡ヨリ三〇

駄片馬都合一〇六収納セルニ米質甚タ佳ナル由今年

ハ皆納可成見込ニ付キ二〇駄以内納ノ者ヘモ穀数ト

人分ニ寄り〇.一五或ハ〇.一〇ノ特別手当遣シ度旨

申来リ承諾セリ 松尾前畑ヲ田ニ直ス義ニ付キ用水

上ノ故障ナキヤヲ尋ネ遣シ置タルニ差支ナキ見込ナ

レト尚ホ取調フル旨申来ル 山王一等畑四筆ニテ壹

町七反三畝十三歩坪数五.二〇四坪ノ小作料従来二〇

〇.〇〇ノ処老坪ノ地代、〇〇三八四ニ当リ余リニ安

過クル(抹消)カ故ニ(加筆)モノナリ)壹反歩玄米式斗七升位ニ

テモ世間並ヨリ安ケレト其割合ニテ尚ホ七駄片馬ト

為リ壹駄五.〇〇ト見積テ三八.〇〇ヲ超(抹消)(シ)且

長四郎作(加筆)八等畑ハ壹反ニ付キ二斗六升六合松尾前

(加筆)壹等畑ハ式斗六升八合大吉作ノ分(抹消)八(加筆)四等畑ハ

ルトキハ亦畑代ヲ引下ケル約束ノ由

(朱書) (一)一ノ九、一(二)一、一(五)

二四

収納米穀ノ内親類出入ノ者へ〔歳暮トシテ〕左ノ通配付スヘキ旨申遣ハス

- 一 蕎麦一駄 餅米半俵 小豆五升 金一〇〇〇 武平
- 一 小豆五升宛 嶋田善躬、横濱幾慶
- 一 餅米一斗宛 遠畑クラ、戸田マサ

明治二八乙未年

一月日

一 第五女ツル誕生実ハ昨夜十時分娩ナレト計算都合好キ故今日出生ノコトニ届出

一〇 国許ニ於ケル昨年中ノ出入概況左ノ如シ但シ出高租税ノ部ニハ浅岸第三期地租〇・九五七算入シアリ右ハ其実体年一月ニ上納スヘキ分ナレ〔注〕〔八〕〔加筆〕第二三〇枚付属ノ表二七年分ニハ省キアルナリ又赤林(六月)羽場(七月)ノ建物取調費ハ税トハ思ハレサレト暫ク臨時村税トシテ税ノ部ニ組込ミタリ〔(朱書) (295)〕

入 出

収納米売払代 (朱書) 1,038 770  
東京ヨリ廻付金 326 000

山、畑収入

115 940

家賃

16 400

賃金取立

16 000

雑収入

1 000

(朱書) 東京へ為登金

(朱書) 諸税金 (230付属表)

(朱書) 地所買入代

武平、小作人、山守等へ手当

雑費

修繕

出総高 (朱書) 1,505 991  
差引残 (朱書) 1,514 110  
+8,119 = 41,052

入総高

(朱書) 1,514 110 (朱書) 1,014 000

下シ金

(朱書) 1,514.110 (朱書) 326.000 = 1,188.110

(朱書) 為登金

(朱書) 1,505.991 (朱書) 1,014.000 = 491.991

(朱書) 696.116

一月日

一六

明日ハ亡父君第十三回忌日ニ相当スル処曾祖母様ノ第五〇年伯母様ノ第二三年又来年ハ祖母様ノ第一

(66)

一九

三年ナルヲ今年に繰越シ四人様ノ仏事ヲ當<sup>(抹消)</sup>〔ム〕〔ミ〕  
横田伯母本宿伯父嫁杯案内シ置タルニ母君腹ノ悪シ  
キ為メ発熱セラレ子供等ノ中ニモ熱氣アル者出来タ  
ルニ付キ俄カニ招待ヲ取消シタリ去レ氏翌日孰レモ  
見舞旁参ラレタリ

国許<sup>(普力)</sup>菩提寺久昌寺ニ於テモ玄十七日御四方ノ法事  
ヲ當ミタリ右ニ付キ寺ヘノ付届ハ御布施三〇〇納  
尚ヘ〇・五〇蠟燭代〇・二〇ナリ仏前ヘハ金銀蓮花一  
封、赤椿一樹(一〇〇)及ヒ参詣人ヘハ<sup>(抹消)</sup>〔配付物〕  
三盛紅白吉野餅(二十人前一〇〇)ヲ供ヘ又配リ  
タル由<sup>(朱書)</sup>〔二ノ一八〕

乳母遠畑クラヨリ夫嘉藏所有南岩手郡上田村二地  
割九三番字黒石野畑ニハ歩地価〇・三八七地租〇・〇  
一同二二地割四八番字同畑一反九畝二二歩地価八、  
四八七社租〇・二二ニヲ相对抵当トシテ一五・〇〇借  
受ケ年賦返金致シ度旨願出タル由<sup>(朱書)</sup>〔二ノ一八〕同人  
ハ余命モ長カル間敷ニ付キ生前最終ノ恵トシテ聞届  
遣ハシタリ

三 月 日

二四

加賀野八六番戸(本宅)田甫通ノ柴垣又候破損シ  
タル処柴垣ニテモ毎年六、<sup>(抹消)</sup>〔七〕<sup>(加筆)</sup>〔〇〕〇七・〇〇ハ懸ル  
カ故ニ寧ロヒバ生垣に仕換ル方然ルヘク見積間敷九

四 月 日

二五

〇間へ平均三尺五寸ノ若ヒバ六三〇本(八・八二)  
栗柵横手、針金、運送、植付手間トモ<sup>(抹消)</sup>〔二テ〕二四、  
七三ニテ出来ル由庭師平栗長治ノ見積書来ル依テ申  
付クヘキ旨返詞ヲ為ス<sup>(朱書)</sup>〔二ノ四・三ノ二二〕〔七〇〕  
三ノ二三日迄ノ出入明細帳送り来ル<sup>(朱書)</sup>〔三ノ二三〕  
母君漸ク床ヲ払ハレタリ

九

所得納入地届書式<sup>(朱書)</sup>〔〇九〕并右ニ付キ問合セタル  
廉々武平ヨリ申来ル<sup>(朱書)</sup>〔四ノ八手紙〕

(イ)浅岸村ノ村税高キハ同部内貧乏人多ク戸数割  
難堪ニ付内務大臣ノ認可ヲ得テ地租七分ノ二マ  
テ割賦スルコト<sup>(朱書)</sup>〔三〇付調書〕

(ロ)市税ノ内所得税割ノ率ハ所得税ノ半額ナリ  
(ハ)大字所属ノ村名<sup>(朱書)</sup>〔三〇〕

仕付米貸与ノ割ハ巳之松、大吉、政之助、亀吉、栄  
助ニ老駄宛久左衛門、清藏、与惣吉ニ片馬宛合計六  
駄片馬ノ見積ノ由

二七

富沢武理ヘ地処抵当ニテ五〇・〇〇年賦貸付ケ  
<sup>(朱書)</sup>〔七〕本年一月一〇・〇〇請取リタル処今般殘金四  
〇・〇〇返済シ来リタルニ付キ左ノ委任ヲ武平ヘ遣  
ハス

委任状

拙者儀菊池武平ヲ以テ部理代人ト定メ左ノ権限ヲ代理為致候事

北岩手郡田頭村大字田頭十七地割七十一番字木ノ下田式反壱畝七步外式筆ヲ抵当ニ引受ケ富沢

武理ヘ金五拾円貸付置候処今回元利金悉皆受取濟ニ付キ某裁判所ヘ登記取消ヲ請求スル事

其他登記ニ付キ必要ナル全權

右代理ノ委任状仍テ如件

肩書

年号 月 日 氏 名 印

田甫通ヒバ垣九〇間ノ見積ノ処實際九二間六歩アリ折曲分共九六間分代価二六・三八支払タル趣 右ヒハ垣ハ東北隅捨水溝アル処ニ於テ凡ソ八九寸邸内ヘ引込テ植付ケ溝ヲハ垣外ニ設ケ換タリ尤モ地主ト示談ノ上実行シタル趣〔(四ノ二六手紙)(169)〕

五 月 日

五

榊原周次郎判事ニ任シ仙台地方裁判所管内古川区裁判所詰命セラレタルニ付キ赴任ノ途次妻ハツ同伴ニテ一泊シ翌日午後出發

一四

母君ハ大竹スミ懐妊見舞旁水戸見物〔(抹消)〕〔(加筆)〕招カレ小山マテ盛岡行ノ信岡雄四郎同行同処ニテ大竹長寿入替リ〔(抹消)〕宰領スル手筈ニテ午後二時半上野發

ノ汽車ニテ出發セラル

二五

下飯田田中堰大破修繕費反別割九・二三六ノ協議費賦課セラレタルニ付キ予備金手薄ト為リタル故一〇・〇〇送り呉ルヘキ旨申来リ翌日安田銀行送金手形ニテ送ル

二七

猪智ノ眼辺腫レ気味ナルモ枕外シテ寝タル為メニモヤト思ヒ居タル処日増ニ腫加ハリタルニ付キ宮本ノ代診ニ見〔(七)〕タルニ腎臟病ニ非サルヤトテ宮本弟叔ニ診察サセタル処矢張腎臟病ナル趣ニ付大ニ心配シ三十一日午後二櫻村清徳ノ診断ヲ受ケサセタルニ同様ノ診断ナルニ付キ投薬ヲ乞タリ

軍事公債証書払込今月ニテ終了

三〇

貴族院通用門外設ケノ〔(抹消)〕〔(加筆)〕ニテ 陛下ヲ奉迎セリ

三一

仕付米貸付ハ小作人ノ作高ニ不拘一人ニ付キ壹俵宛〔(抹消)〕〔(朱九)〕〔(加筆)〕定メ呉ルヘキ旨大吉ノ申出ニ任セ其事ニ取計タル由

加賀野本宅前ノ地処ニ筆買受ケ希望ノ旨申遣シ置タル処水路ノ左側ハ元ト高橋吉太郎持家數ナリシモ今ハ輾転シテ仁王小路ノ七戸某持ト為リ直段ハ八七・〇〇位ナラン流ノ右側ノ畑地ハ太田七郎ナル人ノ持地ノ由ニテ直段ハ分ラネトモ幅買ハ壹反二十歩位ニテ七十五番戸持地ヨリ八十七・八坪多キ見当故土蔵

ラ除キ七十五番戸ト交換セント云ハ、多分相談纏マ  
ルナラント思ハル、旨申来ル〔五ノ三〇手紙〕

六月日

一 午後母君ハ水戸在勤ノ檢事横田信謹ト申ス人ニ送  
ラレ帰宅セラルルルル病氣〔ヲ〕〔下〕聞キ見込ヨリ早ク  
歸ラレタルナリ

一三 〆ちハ帝国大学第一医院へ釣台ニテ入院内科上等  
第三号室ニ寄寓ス

一五 泉屋両換店小林吉之助ノ手ヲ經テ日本郵船株式会  
社ノ株式五〇株即チ明治十八年十月一日發行乙第壹  
七五六番、乙第式五式壹番各二〇株券明治廿八年六  
月五日書換發行丙壹八四五番一〇株券都合三枚ヲ壹  
株七五・四〇宛合計三・七七〇〇〇ニテ〔太〕村上太  
三郎ヨリ買受ケ会社ノ証印ヲ得タリ〔赤〕〔340〕

三〇 九州鉄道株式会社株二〇ニ対スル一ヶ年ノ配当金  
ハ五六・〇〇ノ由会社ヨリ申出アルニ手前ノ届出ハ  
三〇・〇〇ナリ又法典調査手当モ届出ツヘキ由小石  
川区役所ヨリ申聞アリ乃チ追加届トシテ差出シタリ  
〔赤〕〔355〕

〔72〕

七月日

一 第二七国立銀行ハ新当座預金通帳ヲ渡セリ從來ハ

映入日本紙ノ冊子ナルニ今度ハ西洋紙西洋綴ニテ附  
込見積金高ハ壹百万円期限ハ今月ヨリ三十八年八月  
マテ紙数ハ參拾枚繰越金高ハ壹万九千四百四十壹錢貳  
厘ナリ〔赤〕〔341〕

一五 榊原ハツ陸前古川町ヨリ着懐妊ニテ八月下旬〔免〕

〔分〕〔加〕婉スヘシトノコトナリ

二一 十一時四十五分新橋発ノ列車ニテ母君ハ笹、貞、

濱、香一郎、操、鶴及ヒクマ、鶴ノ乳母タケ、クマ

妹ミツヲ伴ナヒ菊池元朔ノ幸領ニテ相模鎌倉坂ノ下

村田久四郎ノ別宅へ赴カレタリ元ト九時ノ汽車〔マ〕ニ乗

ラル、筈ノ処荷物車カ時ノ間ニ合ハサリシ為メ一車

後レタルナリ長々雨降続ノ処幸ヒ晴天ニテ好都合ナ

リシ村田宅ハ三橋与八ノ世話ニテ借受ケ期限ハ着日

ヨリ二个月家賃ハ一个月二五・〇〇ノ約ナリ留守居

ハ榊原ハツ、柴内、池田、キク、テツノ五人ナリ

二四 一昨夕蔵米百駄壹駄五・五五ツ、〔赤〕〔八月〕十

日マテノ延期限ニテ売払其内七〇・〇〇〔赤〕〔手金〕ト

シテ受取タル分安田銀行送金手形ニテ送り来ル尤モ

一〇〇駄ノ内五駄片馬ハ鹿角早苗ト称スル種ニテ此

分ハ五・四五ナル故一〇〇駄ノ総代金ハ五五四・四五

ナリ〔赤〕〔八ノ七ノ二三武平手紙〕〔342, 343〕

山林ノ真木二二一間四分五厘剪出ニ付キ山役錢四

二〔四〕〔二〕九受取タル処来月ハ地租、町村税ノ納

付アルニ付キ右へ宛予備金へ繰込置旨申来ル

八月日

(朱書) 二八ノ七ノ二三)

四

(加筆) 百駄代残金ノ内三〇〇・〇〇例ノ通送り来リ武治へ盛岡留守宅用向ヲ見習ハセノコト及ヒ(抹消) 山林前項山役銭残真木一七間二分伐り出シ分山役銭三三四受取タル旨申来ル

五

(朱書) 二八ノ八ノ三武平手紙(343)

第一医院上等室ハ雇独逸人ベルツ氏ノ受持ナルニ暑中休暇二人テ以来回診ノ度少ナク不安心ナルニ因リ佐々木政吉へ特別ノ診察ヲ依頼シ来リタル処佐々木ノ投薬ハ病人ノ氣ニ適ヒベルツノ処方ハ不適応ナリトノコトヨリ佐々木ニ担任施療ヲ懇談シタレ何分遠慮ノ様子且当直医等も暑中休暇ノ為メカ屢交替アリテ病人ノ取扱向面白カラス付添ノ看護婦等ハ痛ク心配シ寧ろ口佐々木カ設置スル駿河台ナル杏雲堂病院ニ移転シテハ如何ト勸ムル故宮本仲叔等ニ相談シタルニ彼等モ其方可ナルナラントノ意見ナルニ付キ病人ニモ話シタル此病院ナラハ移ルヘシト云フ依テ同病院第一等第二号室ニ遷寓ス

八

昨夜老駄五・九五ニテ八〇駄売タル旨電報アリ今日一〇〇駄ノ残金一八四・四五安田銀行送金手形ニテ送り来ル(朱書) 二八ノ七武平手紙(343)

一四

残米一〇八駄ノ内八〇駄売代金四七六・〇〇ト糯米一駄五・七〇メ四八一・七〇ノ内(抹消) 三五五・五五・七〇ト三・〇〇トノニ手形ニテ三五五・七〇送り来ル差引残米ノ内二〇駄ハ今月廿七、八日頃強風ノ有無ヲ見定メテ後売り八駄ハ二二〇日頃払出ス旨申来ル(朱書) 武平八ノ二一、一三手紙(343)

二〇

八〇駄代ノ残金二二六・〇〇ハ三一日迄猶予ノ義申出タルニ付キ聞届ケタリ残米二八駄ノ内二〇駄ハ二七、八日頃八駄ハ二二〇日過払テハ如何ト申来リ此方ヨリハ総テ見合ノ返詞差出シタリ(朱書) 武平八ノ一九日付手紙)

九月日

三

米八〇駄代金四七六・〇〇ノ残金二二六・〇〇安田銀行送金手形ニテ送り来リ作合ノ模様ハ昨年ニモ劣ラヌカ如ク見受ケラル、由武治長男誕生後六二、三日目ノ写真一葉贈リ越ス

四

朝六・四〇上野発ノ(馬車) 汽車ニテ(抹消) 植村(原嘉道) 小山停車場ヨリ植村俊平同道シ宇都宮ニテ乗換一二時前日光町ニ着シタルニ古河市兵衛持足尾銅山詰員戸田得三等停車場迄出迎居リ用意ノ人力車ニ乗り同道ニテ旅人宿会津屋ニ至リ昼食ノ馳走ニ逢ヒ二時前山駕

(74)

籠ニテ発シ含満清瀧ヲ径テ細尾峠ノ麓ニ〔至リ〕在ル銅山ノ出張所ニ休憩シタルニ爰ニハ水力〔電氣〕ヲ以テ運転セシムル鉄索アリテ荷物ヲ峠ノ彼麓へ輸送ス頗フル奇観ナリ日光町ヨリ当出張所マテ又峠ノ蔭ナル出張所ヨリ本山マテ十哩余ノ馬車鉄道アリテ荷物ヲ運送ス日光町ヨリ当処マテハ人モ運ヒ得レト人足等ノ苦情アルカ為メ町トノ特約ニテ人ヲハ運ハス人力車駕籠渡世ノ者ニ一任スル由峠西麓ナル地藏坂下ノ出張所ヨリ馬車ニ乗換テ渡良瀬ヲ経夜八時頃山内木村長七ノ役宅ニ着銅山ノ手前ナル町ハ金ク銅山ノ為メニ開ケ且存スルモノニテ数百戸アリ中々繁昌ナルニ搗テ加ヘテ当夜ハ旧曆ノ宇蘭盆会七月十六日ニ相当シ銅山休業ノ由ニテ殊ノ外賑ハシ日光町ヨリ銅山マテ一六マイル計リノ由銅山ニハ強大ナル水力発電所アリテ日光町ト山及ヒ山ト諸所ノ出張所間ノ電話ヲ通速シ電灯ヲ点シ電車ヲ運転シ又坑内ニ風ヲ等種々ノ役ヲ為シ粉碎器械アリテ選鉱ノ残余ヲ摧キ且渡シ製煉器械アリテベスマールトカ称スル新式ノ溶解製銅方ヲ行ヒ規模願フル大ナリ少ナクモ一個人ノ事業トシテハ洪大実ニ驚クヘシ

五

例ノ鉄道馬車ニテ町外レヨリ西ニ向ヒ足尾古町ノ〔北〕裏通り字唐風呂ニ至ル此所ヨリ川ヲ北へ渡リ山路ヲ登リテ唐風呂ノ旧村ヲ過キ餅ヶ瀬部落ニ入テ川端ニ休憩ス足尾町ノ内唐風呂餅ヶ瀬ノ者カ同所及ヒ

(7)

町最寄ナル字原ニ於テ所有スル山林ノ樹木及畑ノ野菜穀類桑葉ハ銅山ノ烟毒ニ罹リ年増ニ漠大ナル損害ヲ蒙ル由苦情ヲ唱ヒ過ル頃出訴シ復將サニ出訴セントスルニ付キ實際ヲ目撃シ置キ呉ヘキ旨銅山ノ持主古河市兵衛ノ請ニ応シテ此度来レルナレハ素人眼ノ届ク限り〔注意〕烟害ト覚シキ廉更ニ見ヘス友ヲ桑葉ノ如キ目立テ生宜シキカ如シ先ハ安堵ノ体ニテ引戻シ中途ヨリ左ニ折レテ小瀧銅山ニ至ル此所ニハ母君ノ妹子ノ嫁セラレタル高屋政一在勤ナレハ其人ニ面会シ母君ヨリノ進物ヲ渡シタリ所長木部末次郎ハ足尾本山迄出来リ今日ノ案内者ナレハ其人ノ役屋數ニテ昼食ノ振舞ニ遇ヒ食後洗鉢碎及ヒ粉鉢沈澱ノ手続ヲ巡覽シタルニ本山ヨリ却テ整頓シアルニ似タリ新設ニ係ル故モアルヘシ高屋氏ノミナラス本山ニモ工部長青山五三郎(或ハ三七郎)蓋シ鹿角地方ノ人ナラン)千葉某杯盛岡地方ノ人々追々此山ニ在勤スル由

六

朝精煉場ヲ觀七時前例ノ鉄道馬車ニテ發シタルニ途中荷物車ト行合タル為メ大二手間取り渡良瀬ヨリ更ニ手広馬車ニ乗換ヘテ十一時頃地藏坂下ノ出張所ニ至リ昼食ノ馳走ヲ受ケ用意ノ駕籠ニ打乗り細尾出張所ニ着キタルハ二時頃ナリシ自分ヲ担キタル者ノ中二人ハ第一師団ノ兵卒トシテ金州旅順ニ戦ヒタル輩ノ由ニテ種々勇マシキ雜談セリ〔リ〕〔ル〕モ可笑シ細

076

一九

尾ヨリハ人力車ニテ日光町会津屋ニ帰リタルハ三時過ニモアリツラン少シ早ケレト四時頃夕飯ヲ喰ヘテ停車場ニ至レハ定時ハ四・四〇ナレト後レテ五時過ニ発車シタリ又宇都宮ニテ一時間計リモ待合セタル為メ上野ニ着キシハ十一時頃ナリシ

此旅行中可笑シキ節一ツナラスアリタル中自分カ中村ノ妻君ヲ植村ノ細君ト察シ違ヒ帰ル途上漸ク間違ヲ発見セルト出迎人戸田得三等カ自分へ向ヒ貴殿ハ菊池様ノ御連カト問タルトナリ尤是ハ戸田ノ過失ニアラス其訳ハ自分ハ海水浴人カ冠ル麦藁ノ大笠ヲ被リフラン子ルシャツニ襟飾ヲモ着ケスニ長靴杯穿キテ行タルカ故ニ戸田カ待設ケタル姿トハ大相違ナリシナリ

町村税一三・〇〇羽場沖田留釣木共修繕費反別割  
一一・七〇余及ヒ予備金一〇・〇〇合計二五・〇〇差  
下スヘキ旨申来ルニ付キ遣ハス〔武平一八日付〕  
勝手ノ流シ向ノ格子障子修繕〔同上〕  
七〔七〕〔五〕番戸ノ南隣ノ畑地太田七郎持分ト七五番  
戸ト交換ノ義ハ太田モ希望ノ趣空屋敷ト七五番戸建  
物ノ代トノ差ハ一〇〇・〇〇ナルヘク年賦杯ニテ可  
然歟ノ由申来ルニ付キ一〇〇・〇〇ノ差ハ一時払ト  
シテノ勘定ナルヘク且井戸ナケレハ浚設ノ費用モ見  
積ラサルヘカラサルニヨリ尚ホ其辺篤ト取調フヘキ  
旨申送ル〔九ノ二二日付及同上〕内丸中学校同側ニ

月 日

一〇

一

堀内某ノ所有宅地一反九畝一〇歩外ニ付属田畑六反  
余代価二五〇〇・〇〇ニテ売払フ由ノ処南隣ニ在ル  
司法省用地并建物ヲ合併スルトキハ位置ト云ヒ将来  
ノ希望ト云ヒ此類ナキニ付キ司法省ニ聞合セノ上買  
受ケ然ルヘキ旨申来ル〔同上及九ノ二二日付〕  
二 午前十時四十何分鎌倉発新橋直行ノ汽車ニテ母  
君香一郎、操、鶴及ヒクマ、タケト共ニ帰京尤モ大  
子供三人ハ今月初ヨリ学校ノ授業アルニ付キ先月廿  
九日ニ帰京シタリ其日ノ朝、啓磨、貞、濱、香一  
郎、紫内豪吉、品川熊〔孫〕〔松〕ヲ伴ヒ兼テノ約束ノ  
通り横須賀止ナル内山邦久ヲ訪ヒ其案内ニテ船渠  
ニ在ル有名ノ鎮遠号ヲ觀午後姉共三人ヲ連レテ帰京  
シタルナリ

一 残米二八駄每駄五・六〇ニテ一五六・八〇ニ売払ヒ  
内一六・八〇ハ第一期地租ニ充テ引去リ残金一四〇・  
〇〇安田銀行送金手形ニテ送リ来ル

五 新庄及ヒ浅岸ノ田畑所在ノ地割絵図二枚長嶺喜代  
吉ニ托シテ送リ来ル

二 外加賀野七五番戸借家人長嶺喜代吉ハ他へ移転シ  
タル由〔二日付武平手紙〕

077



一九

朝八時頃猪智ノ生命昼迄持続クコト六ヶ數旨<sup>(加筆)</sup>在  
病院多きノ伝語法学院ノ電話ニテ通報アリ直様病院  
へ駈付見タルニ成程容体頗フル悪ク精神ハ確カナレ  
氏數日前ト違ヒ痛ク疲労ノ様子故在京ノ親類及ヒ猪  
智ニ厚縁ノ人并京外ノ親類ニ猪智危篤ノ旨電報ヲ發  
シタリ然ルニ午時近ク副院長佐々木政吉廻診シ未タ  
左程迫リタル様ニ覺ヘス尤モ腹膜炎併發シ身体疲労  
シアル故確カニ變ナキヲ保証シ難キ申シタリ電報ニ  
接シテ來訪シ呉レタル人々ハ

井上子爵夫人遊龜子 柏井登 真鍋波 富田ヒサ  
本宿數代 豊川痴疑雄 同ヨシ 大竹長壽

那珂通世 同母 古川義質 横田歙太郎 吉本強

菊池元朔

鶴ヲ除キ家族一同 檜崎平太郎 池田直矢 鈴木クマ  
然ルニ病人ハ危篤ノ容体ナルヲ覺ラス加減悪キ故今  
日ハ見舞人ヲ断リ呉ルヘキ旨申スニ付キ甚タ当惑シ  
タレ氏兎ニ角大抵ノ人ニハ面会サセタリ尤モ朝ノ廻  
診者ハ少ク判断ヲ誤マリタルモノ<sup>(抹消)</sup>如シ<sup>(加筆)</sup>ニシテ  
病人ノ感覺ノ方ハ正シカリシカ如シ此日以後医者ノ  
診断ハ姑息ニテ朝聞ケハ今日中ハ宜シカラン晚聞ケ  
ハ今夜ハ別条アルマシ但確言ハ出来ヌトノ趣旨ナル  
故帰宅スルニ忍ヒス遂ニ廿六日迄此方モ入院ノ身ト  
為レリ国許ヨリハ武平及ヒ横濱幾慶古川ヨリハ榊原  
周次郎孰レモ翌二十日夜迄<sup>(抹消)</sup>到着<sup>(抹消)</sup>遠路態々見舞ニ

(176)

參リ呉レタリ此他仙台ヨリ嶺八郎夫人大場茂馬夫人  
モ二十五日夜<sup>(抹消)</sup>大阪カ<sup>(抹消)</sup>神戸ヨリ横田伯母様モ二十六  
日夜見舞ノ為メ態々上京セラレタリ

病院付ノ看病婦二人雇アレ氏病ノ篤キニ連レテ扱方  
病人ノ氣ニ適ハヌコト、為リ何事モ多キニ非サレハ  
弁セサル仕合ナレハ多キハ殆ント眠ムルコト能ハス  
然ルニ此際多キノ身体ニ申分生シテハ双方ノ不為云  
フヘカラサル程ナルニ付キ飯田町一丁目<sup>(加筆)</sup>看護婦<sup>(加筆)</sup>船  
曳ミキノ世話ニテ同業者池本タツ江ヲ雇入レタルニ  
幸ニシテ病人ノ氣ニ合ヒ且真鍋姉モ夜九時ヨリ翌早  
朝マテ手助ケヲ為シ呉ル、コト、ナリタルニ付キ漸  
ク看病人モ揃ヒ多キモ半夜位ハ転寝シ得ル次第ニ立  
到レリ

二六

病人ハ薬トテハ此日以来一度位ノ外用ヒス食物ハオ  
モ湯少々食ヘタルコト二度位アレ氏其他ハ稀薄ノ葡  
萄酒ト水<sup>(抹消)</sup>ヲ味ヘルノミナレハ漸次ニ衰弱ノ度  
増シ行タレ氏精神脈膊共ニ案外確カナリシ唯自分ハ  
更ニ死ヲ期セサルモノ、如ク小供等<sup>(ママ)</sup>ヲ視テモ涙ヲ催  
サス又死後ノ事ニ付キ一語ヲモ發セサリシ(中略)

朝ハ葡萄酒ノ欲絶テ氷モ含ミ兼ヌルニ至レルカ故  
ニ太キ筆ヲ以テ氷ノ融解レタル水ヲ口中ニ入レタリ  
早朝迄ハ痛イトノ声ヲ聞キタレ氏言語ハ低クテ殆ン  
ト聞クヘカラス十時ヨリハ痛ミヲ訴フル声モ消ヘ頻  
ノ動クニテ痛ヲ感シツ、アルヲ知ルノミ此頃ハ最早

二七

視力ナキモノ、如ク全ク息絶レタルハ正午二三分前ニシテ眼ヲ閉チテ遣リ杯スルトキ号炮ヲ聞キタリ医師ノ死亡届ニハ慢性腎臓炎兼腹炎虚脱ニ依テ斃ルトアリ臨終ノ床側ニハ鶴ヲ除クノ外家族一同猪智ノ兄弟守屋夏 豊川夫婦、大竹、榊原、横濱、吉川、横田 田 鎌太郎、嶺、大場夫人等在リタ(採消)ルカ故(加筆)リ豊川、大竹、榊原、横濱、横田、吉川、吉本、檜崎、品川、柴内、池田等ハ交ルル病院ニ宿泊シテ世話シ呉レタリ釣台ニ乗テ家ヲ出タルハ六月十三日ナリシニ今夕景ハ又(採消)釣(加筆)乗物ニテ帰宅セリ

腫病故日ヲ経テハ腐敗ノ惧モアレハ成ルヘク早キ方然ルヘシトニテ葬送ノ日ヲ二十九日ト定メタル処友引トヤラ云フ日ニ当ル由申ス者アリ止ムヲ得ス三十日ニ延シ染井共同墓地ハ猪智ノ実父柏井放心翁ノ墓ノ在ル所ナレハ此処ヲ墳墓トシ当市ニハ手前(善)菩提寺ナキ故墓地ノ近所(採消)ナル(加筆)ニシテ国許菩提寺ト同宗ナル駒込吉祥寺ヲ葬式場トシ鎌倉河岸杉本商店ニ葬具一式ヲ注文シタリ入棺前ヨリ少シク臭気発生ノ気味アリタルニ付キ医師ニ防腐手当ヲ頼ミ檢シタルニ下肢処々ニ茶褐色ノ悪水溜リ今ニモ皮膚ヲ破リテ出シ有様ナリシカハ止ムナク其水ヲ取出シ衣服ヲ替ヘテ二重棺ニ収メ石灰及ヒ防腐剤ヲ以テ嚴重ニ手当ヲ為シ入棺ヲ了レリ

近來ハ死亡及ヒ葬送ヲ新聞紙ニ広告(採消)スルコト流行

三〇

(加筆)且知リ合ナラント想像セラル、凡テノ人々ニ為知状ヲ発スルコト流行スレト吉凶ハ親族其他特別ノ交際アル人々ニノミ報スヘキモノト信スルカ故ニ新聞紙ノ広告ヲ止メ親族及猪智ノ知友并吾親友ニテ猪智ヲ識ル輩ニノミ為知状ヲ差出シ且出棺ノ時刻ヲ示サスシテ法会ノ時間ノミヲ報セリ右ハ一ニハ宅ノ狭キ為メ一ニハ来会ノ迷惑ヲ減センカ為メナリ為知状ノ名前入ハ親戚菊池武平豊川痴疑雄大竹長寿柏井登ノ四人ナリ

正午出棺午後一時着寺ノ予算ナリシモ折悪ク雨降り出シ棺及造花蓋ノ桐油取寄等葬具屋ノ手配届キ兼タルカ為メ彼此一時近クニ漸ク出棺セリ行列次第ハ

- 高張提灯 先花 高張提灯 造花 龍灯 迎僧七人 名旗 高張提灯 同上
- 高張提灯 先花 高張提灯 造花 龍灯 同上
- 龍灯
- 香爐(清水) 位牌(柏井) 榊(横濱) 新井(柴内) 要太郎(豪吉) 熊松(キク) 高張提灯 棺台
- 龍灯
- 墓標 喪主(香一郎) 附 柏井 登 豊川痴疑雄 親戚 会葬者 手桶 出欠諸人
- 啓慶同乘 添 大竹 長寿 榊原周次郎 柄杓

通行筋ハ竹早町通東へ伝通院前通西富坂ヲ下リ南へ春日町通り東へ壹岐坂ヲ登リ元町通北へ本郷通森川町追分町ヲ経テ浅香町通駒込吉祥寺へ入ル自分及

(80)

ヒ娘共其他婦人会葬者ハ別路吉祥寺へ先着セリ棺ノ寺ニ着セシハ午後二時ニシテ三導師始メ出僧二十五人ニテ式執行二時四十分に終ル夫ヨリ吉祥寺ヲ出テ北へ富士前町通り順路墓地へ着タルニ降雨愈強クナリ寒氣益ス募リ且日暮前ニハ迫モ埋葬終リ難キ有様ナリシ故多キヲ除クノ外家族親族婦人ヲ返シ全ク墓標ヲ建了リタルハ夜八時頃ナリシナラン此日ノ天氣ハ実ニ会葬者殊ニ手伝人等ニ対シテ氣ノ毒千万ノ思ヲ為サシメタリ当日吉川義質ハ元締其他役割ハ

葬儀、行列掛 横田歙太郎、後見 柏井登

寺院掛 小山朝寛、吉本強、信岡雄四郎、

坂本武治、三浦大之助、中沢長

春 外大工、左官、畳屋、植木

屋、ブリキ屋、いろは

寺院受付 檜崎平太郎 岡野、中原、

渡辺 (法学院)

自宅々々 横田歙太郎、横濱幾慶、池田直

哉

諸準備総支配ハ大竹長寿ナリ墓標、名簿ハ山沢簡ノ

筆蹟ナリ

焼香次第ハ

○武夫 香一郎 介添豊川 痴疑雄 笹 貞 濱 操 母上代

多き 豊川ヨシ 大竹スミ代 榊原ハツ 薫 啓

磨 柏井登 周錦三郎 真鍋ナミ 守屋ナツ 富

(81)

三二

田ヒサ 横田チセ 本宿数代 同藤五郎 豊川痴  
疑雄 大竹長寿 榊原周次郎 (採酒) 大隈英磨 (採酒) 横濱

幾慶 島田善孝娘

○ (採酒) 豊川 (加筆) 大隈英磨

○安東敏之 信岡雄四郎 新井要太郎 吉川義質

岩田実 末永晃庫 清水辨 柴内豪吉 檜崎平太

郎 品川熊松 池田直矢 横田歙太郎 小山朝寛

吉本強

○婦人会葬者

○齊藤キク 鈴木クマ 太神ハナ

○男子会葬者

○出入諸職人

会 (採酒) 送葬者中ニハ伝聞テ参リ呉レタル輩アリテ宿所不明ノ分モアリ見事済タル上ハ広告モ披露ノ嫌ナキカ故ニ今日ノ新聞紙ニ例ノ尊名何洩ノ広告ヲ出シ又端書ニテ吊詞及ヒ会葬ノ礼ヲ述フ孰レモ親戚四名の名前ナルコト死亡報状ニ同シ今夕ハ初七日逮夜相当ニ付キ吉祥寺住職ヲ招キタルニ伴僧二人引連レ来リ読経ス夫々齋ヲ供シ布施住職ニハ五・〇〇伴傷ニハ〇・五〇宛差出シタリ後ニ聞ケハ住持ニハ一・〇〇以上トノコトノ由此忌日ノ法会ハ内輪同士ニテ営ミタレト葬送ニ加ハリテ其夜凶事アル家ニ宿泊レタル親戚ハ初七日過マテ居ルヘキモノ、由ニテ大竹、榊原、横濱等居合ハセタレハ賑ハシカリシ

月 日  
一一

五

二十日ノ忌ナレト先月十九日以来休業シタルカ故ニ事務打湊ヒ止ムヲ得サレハ自カラ忌ヲ半減シ今日ヨリ事務所へ出掛ケタリ尤モ午前ハ諸方へ悔若クハ手向ノ挨拶ニ廻リ二日程掛リテ済セタリ又此日国許ニテハ布施金一〇〇ヲ普提寺久昌寺へ納メ住職海野義岳へ猪智ノ戒名瑤樹院殿浄室皓観大姉ナルコトヲ通報シタル旨武平ヨリ申シ来ル殿号ヲ付シタル先例当家ニナケレハ今更之ヲ用フルハ何トナク嗚呼ケ間敷思ハル、カ故ニ院号ニ止メントシタレト位以上ハ殿号ニテ然ルヘキ旨大竹等申スニ任セテ用フルコト、ハシタリ

一六

子供等ニ長ク学業ヲ休マスルハ死者ノ意ニモ適フマシケレハ三七日ヲ過キタル今日ヨリ通校ヲ始メサセタリ

二九

三十五日相当ニテ此日法事執行フ積リノ処今月初ヨリ母上ハ風ノ心地トテ打臥サレシカ未タ快氣ニ向ハセラレサルニ付キ法会ハ延ハシ手向物贈リ呉レタル方々へ京橋(抹消)米女(南鑑)町風月堂製蕎麦饅頭入菓子折(代金)〇・五五ツ、平タキ麦饅頭入〇・四五ツ、(加筆)上下二種ニ分チ事務(加筆)近所ノ人力車(加筆)大金ト手前ノ松次郎トニテ夫々へ配リタリ又守屋、

182  
月 日  
一一

五

大竹、榊原へハ上茶ヲ遣ハシタリ  
国許ニテモ普提寺へ位牌安置式ヲ行ヒカタクリ落雁三枚牛皮大三ツ羊羹二本外詰小菓子ヲ七寸五分角二寸五分深ノ折箱ニ入代金・四〇ツ、ヲ上トシ紅白吉野餅大三ツ大落雁五枚代〇・一八五ツ、ヲ下トシ赤飯煮染ト共ニ参詣人ニ配リ小作人へハ(加筆)樽酒(一升)ヲ給シ(加筆)手向物ヲ贈リタル連中ニテ不参ノ向へハ菓子折ノミヲ配リタル由右ニ付キ到来物ハ赤飯煮染菓子ノ外香奠料三・五〇アリテ予備金へ組込タル趣久昌寺へハ布施金二・〇〇蠟燭代〇・二〇又金銀蓮花及位牌隱シノ菊花製造代金一・〇〇ナリシ(朱書)  
〔三〇日武平手紙〕

母上モ昨日頃ヨリ床放レ成サレ又四十九日ト云ヘハ余リ年末ニ近ツキ寒氣モ烈ク随テ来客ノ迷惑少ナカラサルヘク旧四十九日ヲ繰上ケテ明四十二日ニ法会ヲ営ムコト、シ今逮夜ニハ再ヒ吉祥寺住職ヲ招キ読経セシメ且親戚及ヒ通夜其他葬送以来世話シ呉レタル人々ノ内男子ノミタルニ来会者左ノ通り

- (住職三・〇〇伴僧〇・三〇ツ、)  
柏井登 豊川痴疑雄 柏井錦三郎 那珂通世 小  
山朝寛 吉本強 横田鉄太郎 吉川義質 新井要

太郎 檜崎平太郎 品川熊松 不参者 信岡雄  
四郎 坂本武治 三浦大之助 中沢長春 出入  
客 竹原勘七 (左官) 高橋米吉 (大工) 城坐  
寅松 (人力車屋) 川嶋平助 (同上) 植木屋二  
人

六

午後一時ヨリ来駕ヲ請フタルハ親戚猪智親友ノ婦  
人方ニシテ来会者ハ左ノ如シ 男ハ清水弁 菊池元朔  
但シ皆不参

本宿数代 真鍋ナミ 豊川ヨシ 富田ヒサ 平佐  
是純夫人 穂積銀 高木豊三夫人 太神ハナ ゑ  
き

不参者 山田龍 片山亀 高原コウ 清水彦五郎  
夫人

午前ハ家族一同吉祥寺及ヒ墓所へ詣テ寺ニテ鄭重ナ  
ル回向アリタリ右ハ四十九日及百ヶ日ヲ繰上ケテ一  
度ニ法会執行〔七〕<sup>(採通)</sup>へ呉ルヘキ旨申向ケタルニ因ル家  
族外ニ横田鋏太郎吉川義質来会セリ

此際形見分配ヲ左ノ人々へ為シタリ

柏井登 夜具、布団、掛布団、上敷

同 夫人 綿細絞付単物一枚

同 錦三郎 銀時計 (武夫米国ニテ求メタル分)

同 次男 薩摩飛白単物一枚

同 三男 白絞単物一枚

同男四郎 近物飛白単物一枚

(83)

同 トシ 縮緬茶染綿入一重

同 エイ 赤メリンス半橋袴  
メリンス腰巻一ツ

守屋ノブ 黒縮緬羽織一枚

同 ナツ 糸織綿入一枚  
橋袖外小物

真鍋ナミ 衛召縮芽綿入一枚

豊川ヨシ 小紋縮緬羽織一枚  
絹縮橋袴袖

大竹スミ 縦絹綿入一枚

榊原ハツ 亀綾紋付一枚、带上

太神ハナ 南部糸織綿入一枚

富田ヒサ 带上、襟

ゑき

横濱幾慶 絹ハンケルチーフ一

菊池武治 同 上

鈴木クマ 御召綿入一枚、  
白縮緬腰巻、带上

タケ 菱絹綿入、带上

ミツ フランネル単物、带上

タキ 縮緬下着廻り、带上

キク 博多腹合帯

車夫松次郎 敷布団一枚

同妻シン 糸織綿入一枚  
メリンス腰巻

竹原勘七 真岡単物

同妻タメ 縹絵腰合帯

高橋米吉 真岡単物

トシ フランネル単物、小布団  
ドテラ

遠州猪智乳母〔フランネル及絞単物、布、掛布団、  
上敷、糸織綿入、外小物〕  
遠畑クラ フランネル長襦袢、縮単物一枚

又市外ノ手向人等へハ法事首尾能為済タルコトヲ報  
シ且其厚情ヲ謝スル旨ノ札状ヲ發シタリ

七

墓地ヲ染井ニ定メタルハ瑤樹院ノ実父柏井放心殿  
ノ埋葬地ナルカ故ナリ墓地ノ広サハ八坪ナレト一人  
ニテ二坪以上ヲ〔抹消〕〔加筆〕〔買入〕〔使用ス〕ルトキハ使用賃通次  
ニ陪加スル由ニ付キ〔自分及ヒ〕〔加筆〕深川佐賀町二丁目五  
十一番地大竹長寿神田五軒町二十番地豊川痴疑雄小  
石川大和町十七番地吉川義質ノ名義ニテ二坪宛ノ使  
用ヲ請置キタルニ今日二坪九〇〇宛ノ使用料ヲ納  
メテ墓地使用券ヲ得タリ尤大竹外二人ヨリハ自分カ  
使用シテモ差支ナキ旨ノ約定書ヲ貰ヒ夫レヲ添テ願  
置タルナリ

墓地使用券

小石川区竹早町七十七番地

染井墓地 第四号  
七ノ側

菊池武夫

一上等地貳坪

此使用料金九円

右使用ヲ許可シ此券ヲ付ス

明治二十八年十二月六日 東京市本郷区役所

他三枚モ使用人ノ氏名住所カ違フ丈ニテ外皆右二同  
シ墓ニ向テ左ハ白洲退蔵右ハ吉川泰次郎後ハ酒井子  
爵隠居某ノ墓ナリ

(94)

瑤樹院ノ母ハ彼ヲ産テ間モナク煩ヒ付キ没シタルコ  
ト恰モ院ノ鶴子ニ於ケルト同前ナル〔由〕〔加筆〕真鍋ノ姉ハ  
語りキ院ハ尔後村井養庵トヤラ云フ医者ノ妻ニ育テ  
ラレ維新後徳川氏カ駿遠ニ封セラレ〔抹消〕〔タルニ付キ〕浜  
松藩主井上正直カ上総ニ移封セラレタルニ付キ  
〔院ハ〕父兄〔ハ〕〔ト共〕藩主ニ從ヒ同国庁南ニ渉ル元  
来院ノ父ハ藩主即チ今ノ子爵井上正直ノ伯父ニシテ  
院ト子爵トハ從兄妹ノ關係ナリ其後父ノ兄ナル深川  
住井上何叟トカ云フ人ノ厄介ト為リ遠路本郷御茶ノ  
水ナル女子師範学校ニ通学ス業ヲ卒ヘ岐阜ノ県立小  
学校ニ聘セラレ又女子師範学校付属小学校ノ教諭ニ  
選拔セラレテ帰京シ幾ナラスシテ時ノ校長那珂通世  
ノ媒酌ニテ此家ニ嫁ス院ハ生レテ母ノ養育ヲ享ケス  
維新ノ際ヨリ門閥ナル家兄ノ家産〔次第二〕〔ハ〕〔加筆〕  
衰〔ヒ貧〕〔ヘタル〕カ故ニ貧窮ノ中ニ育チ且ツ他家ニ  
〔婦〕〔寄寓〕シ具サニ難苦ヲ嘗メタリ院ハ実ニ不幸ナル  
女兒ナリシ而シテ吾ヲシテ院ヲ吾匹ト定メシメタル  
ハ院ノ此経歴カ主因ナリシモ奇ナリ奢侈ニ馴レヌ父  
母ノ寵庇ニ頼サス自活ノ計ヲ講シタル女ニシテ学識  
アル者ハ良妻賢母タルニ近カラントハ吾ノ推定ナリ  
シ院ノ父放心翁ハ開懸ニシテ善ク諧謔ヲ為〔ス〕〔加筆〕  
トモ凜然トシテ侵スヘカラサル所アル人ナリシニ院  
ハ心配性ナレト自信深〔ク〕〔カリシ〕己レカ善ト思フ  
所ハ長上ニモ友人ニモ曲從セスシテ為シ遂ケントス

尔モ天真爛熳(ママ)トシテ少シモ取飾(採道)〔ル所〕ラス又取飾リ  
 能ハサル質ナリシカ故ニ(加筆)〔長ク〕異説ノ人ノ歎心ヲ失  
 フコトナシ強情偏窟ナルカ如クシテ又於土化タル所  
 アリタルハ矢張父ノ性ヲ資ケタルナラン院ハ仔々ト  
 シテ子女ノ益ヲ謀リ筈、貞、濱ノ三女ニハ琴及ヒ茶  
 湯ヲ稽古セシメ筈ヲハ別ニ裁縫ノ師ニ就カシメ又婚  
 家(加筆)〔及教育〕ノ資ニ充ツルカ為メ子供五人ノ名義ニテ  
 為替貯金管理所ニ貯金ヲ為シ又吾ハ兎角退守ノ地位  
 ヲ見極メテ而ル後ニ進取ノ策ヲ講スルノ癖アルニ反  
 シテ院ハ概ネ攻勢ヲ取り屢ハ吾ニ先ンシテ家政ニ改  
 良ヲ施シ(加筆)〔吾ヲ〕励マシテ吾地歩ヲ進マシメ、吾ニハ得  
 難キ好配ナリシ院ハ子女ノ益ヲ謀ルニ(採道)〔急〕切ナルカ  
 為メニ之ニ求ムルコト多キニ過クルノ惧アリトハ思  
 ヘ凡其他ハ院ノ在ラン限りハ吾亡キ後ヲ案スルニ及  
 ハスト吾ハ常ニ覚悟シタリ院ハ吾ト共ニ不自由勝ナ  
 ル新世帯ヲ持廻ハシ今春京都ニ博覧会モアレハ京阪  
 遊覧ニ赴クヘシトノ吾勸ヲモ辞シ未タ是ソト云フ楽  
 ミヲモ得サリシニ又平日医者ノ手ニ掛ルコト家内ニ  
 テ最モ少ナカリシニ難病ニ取付カレテ斃ル、トハ情  
 ナキ限りナリ

(185) 二四

盛岡市志家字松尾前ニ畑地アリ四辺皆田ナルニ此  
 処ノミ畑ナルハ旧宅地ナル松尾神社隣ノ邸内ニハ畑  
 少ナキカ故ニ野菜作りノ便ヲ計リテ買入レタル俛今  
 日ニ至レルナラン然ルニ此畑ニ反七畝ニ七歩ヲ田ニ

開キ立テハ五年後ハ小作米五駄位ハ取上ルヘク畑返  
 シ総入費ハ入用入夫五百人ノ賃一人〇二〇ツ、ト  
 シテ丁度一〇〇〇〇位ナルヘク而シテ五ヶ年後ハ  
 今ニ五倍ノ小作米取入ルカ故ニ披キ立ヘキ旨武平ヨ  
 リ勸メ参リタルニ付キ近隣水掛地主ニサヘ故障ナケ  
 レハ宜シキ旨答ヘタリ

〔武平二ノ八、一二ノ二三日付〕

一 一月一日鶴子ヨリ前付三三〇駄余翌一二日同  
 字ヨリ初穀入アリ飯岡ヨリハ二〇日ニ四八駄收入今  
(採道)〔日四〕日ニ(採道)〔至リ〕(加筆)〔テハ〕糯蕎麦共合計二二三駄及ヒ  
 山王畑代金三〇〇〇モ悉皆収納済ノ趣

〔武二ノ二、二三、三〇、一二ノ四、二三日付〕